

## 1 教育を取り巻く環境

	ページ
(1) 人口減少・少子高齢社会・核家族化	
① 総人口の推移と将来推計（三重県）	1
② 人口増減率（三重県・市町別）	1
③ 公立小学校の児童数の推移と将来推計（三重県）	2
④ 年少人口割合（三重県・市町別）	2
⑤ 世帯数と世帯当たり人数の推移（三重県）	3
⑥ 世帯当たりの人数（三重県・市町別）	3
(2) 国際化・グローバル化の進展	
① 外国人住民数の推移（三重県・国別）	4
② 日本語指導が必要な外国人児童生徒数の推移（三重県）	4
③ 日本から海外への留学者数の推移（全国）	5
④ 三重県への留学生数の推移	5
⑤ 高校生の海外留学者の推移（三重県）	6
(3) 高度情報化の進展	
① インターネット利用者数および人口普及率の推移（全国）	7
(4) 経済・雇用環境の変化	
① 一人当たりの市町民所得（三重県・市町別）	8
② 年齢階級別非正規雇用率の推移（全国）	8
③ 年齢階級別若年無業者と人口に占める割合の推移（全国）	9
④ 卒業後3年以内に離職した人の割合	9
(5) 価値観の変化	
① 現在の世相（肯定的・否定的イメージ）（全国）	10
② 地域の人々との交流に対する意識の推移（全国）	11
③ 心の豊かさ、物の豊かさを重視する割合（全国）	11

## 2 子どもたちの姿

(1) 学力・学習意欲	
① 全国学力・学習状況調査の各教科の平均正答率	12
② 上記調査結果の推移（全国平均正答率との差）	13
③ 家庭で学校の授業の復習に取り組む児童生徒の割合	14
④ 学習塾に通っている児童生徒の割合	14
⑤ 1日当たりの家庭学習の時間（登校日・休日）	15
⑥ 家庭での計画的な学習への取組	16
⑦ 総合的な学習の時間における取組	16
⑧ 授業内容の理解度（三重県）	17
(2) 体力・運動能力	
① 全国体力・運動能力、運動習慣等調査の体力合計点の推移	18

②	児童生徒の運動習慣 -----	19
③	運動やスポーツの好き・きらいの割合、体力合計点との関係 -----	20
④	体育の授業以外で運動習慣を確立するような手立てをしている学校の割合 -----	21
⑤	新体力テストを継続的に実施している学校の割合 -----	21
<b>(3)</b>	<b>生活習慣</b>	
①	朝食を毎日食べている割合 -----	22
②	寝起きの状況 -----	22
③	平日のテレビ等の視聴時間 -----	23
<b>(4)</b>	<b>規範意識・道徳心・自尊感情</b>	
①	学校のきまりを守ること -----	24
②	友達との約束を守ること -----	24
③	人の役に立つ人間になりたいという意識 -----	25
④	自分には、よいところがあるという意識 -----	25
<b>(5)</b>	<b>いじめ・不登校等の状況</b>	
①	いじめの認知件数の推移（三重県） -----	26
②	いじめに対する考え方 -----	26
③	暴力行為の発生件数の推移（三重県） -----	27
④	学年別不登校児童生徒数の推移（三重県） -----	27
⑤	県立高校における中途退学者数および中途退学率年次推移（三重県） --	28
<b>(6)</b>	<b>読書活動</b>	
①	平日の読書時間 -----	29
②	一斉読書の実施状況 -----	29
③	学校図書館を活用した授業の実施状況 -----	30
④	学校図書館担当職員の配置状況 -----	30
<b>(7)</b>	<b>文化芸術活動</b>	
①	住んでいる地域の行事への参加 -----	31
②	博物館や科学館、図書館を利用した授業の実施状況 -----	31
<b>(8)</b>	<b>特別支援教育</b>	
①	特別支援学級等に在籍する児童生徒数の推移(三重県) -----	32
②	発達障がいの可能性のある児童生徒数の割合 -----	32
③	特別支援学校卒業生の進路状況(三重県) -----	33
<b>(9)</b>	<b>キャリア教育・進路</b>	
①	将来の夢や目標の有無 -----	34
②	チャレンジ精神 -----	34
③	将来就きたい仕事や夢について考えさせる指導の実施状況 -----	35
④	職場見学・職場体験活動の実施状況 -----	35
⑤	県立高校におけるインターンシップの実施状況（三重県） -----	36
⑥	県立高校卒業者の進学率・就職率の推移（三重県） -----	36
⑦	高校卒業者の就職内定率の推移 -----	37

⑧ 高校卒業者の産業別構成比の推移（三重県）	37
<b>(10) 情報モラル教育</b>	
① 携帯電話等の使用状況	38
② 携帯電話等の保有状況(全国)	38
③ 携帯電話等のフィルタリングの利用状況(全国)	39
④ インターネット利用に関する家庭のきまりの有無(全国)	39

### 3 子どもたちを取り巻く環境

#### (1) 安全・安心

① 不審者事案の件数（三重県）	40
② 学校保健委員会の設置率と開催率（三重県）	40
③ 児童生徒の食物アレルギーの現状(三重県)	41
④ 奨学金貸与者数(三重県)	41
⑤ 防災教育・防災対策の推進状況（三重県）	42
⑥ 公立学校の耐震化率(三重県)	42

#### (2) 教員

① 教員の年齢構成（三重県）	43
② 教員の病気休職者数（精神疾患の数）（三重県）	43
③ 教職員の満足度（三重県）	44
④ 教員のICTを活用する能力	45
⑤ 授業の目標（めあて・ねらい）の提示状況	46
⑥ 授業の振り返り活動の取組状況	47
⑦ 全国学力・学習状況調査結果の学校全体での活用状況	48
⑧ 校長の授業見回り状況	48
⑨ 放課後の補充的な学習サポートの実施状況	49
⑩ 公立学校における体罰の件数等（三重県）	49

#### (3) 学校

① 三重県型「学校経営品質」取組状況	50
② 学校評価の取組状況(三重県)	50
③ 三重県内の中学校卒業生数の推移と予測	51

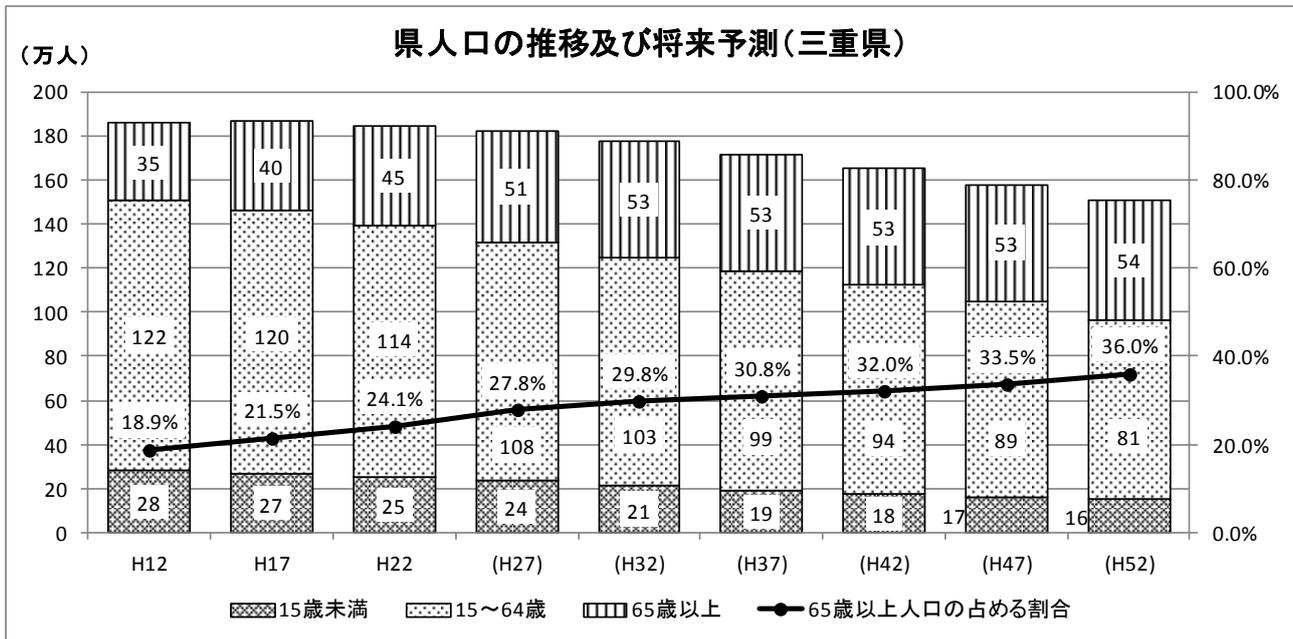
#### (4) 家庭・地域の教育力の向上

① コミュニティ・スクール指定校(三重県)	52
② 学校支援地域本部の設置状況（三重県）	52
③ 「人権教育推進協議会」等の活動をとおして、家庭・地域とともに安心して学べる環境づくりに取り組んでいる学校の割合（三重県）	53
④ 道徳の時間に地域の人材を活用した学校の割合(三重県)	53
⑤ 教育を助ける活動への参加状況と意欲(三重県)	54
⑥ 子どものためになる教育が行われていると感じる割合(三重県)	54
⑦ 地域社会の中で子どもが元気に育っていると感じる割合(三重県)	55

# 1 教育を取り巻く環境

## (1) 人口減少・少子高齢化社会

### ① 県人口（年齢3区分別）と将来推計

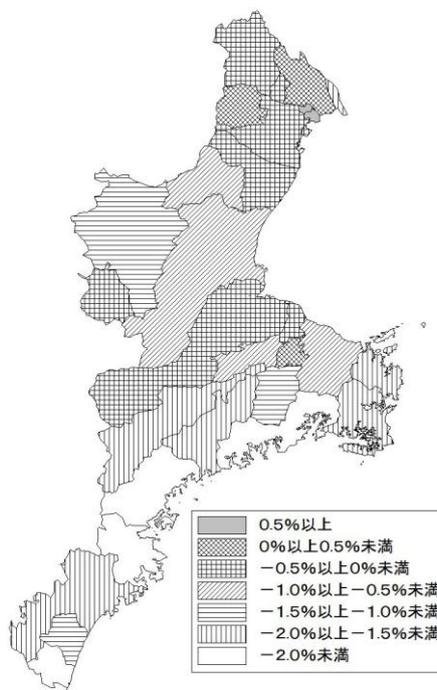


【国勢調査（総務省）、将来推計人口（国立社会保障・人口問題研究所）】

- ・ 少子高齢化が進んでいく傾向となっている。

### ② 県人口増減率（平成23年10月～平成24年9月）

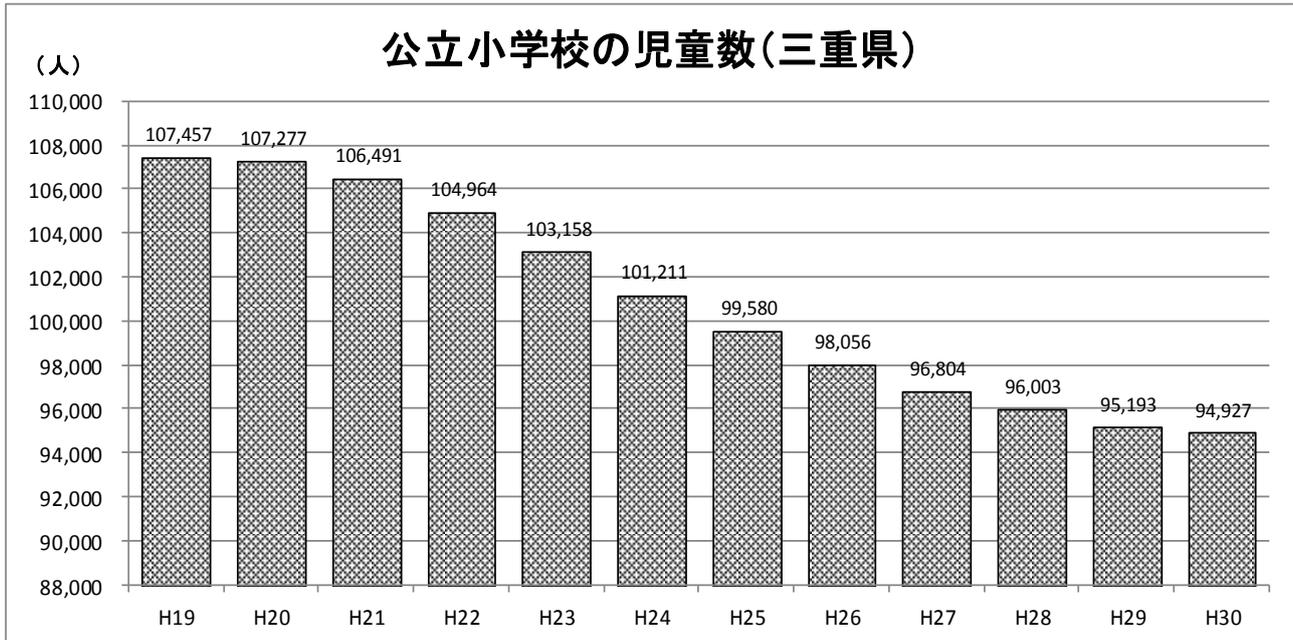
	割合	順位
全国	△ 0.22	
三重県	△ 0.37	全国18位
川越町	1.46	1
朝日町	1.20	2
菰野町	0.43	3
桑名市	0.15	4
玉城町	0.13	5
鈴鹿市	△ 0.13	6
いなべ市	△ 0.15	7
四日市市	△ 0.23	8
明和町	△ 0.27	9
東員町	△ 0.27	10
松阪市	△ 0.28	11
名張市	△ 0.49	12
伊勢市	△ 0.54	13
亀山市	△ 0.64	14
津市	△ 0.69	15
多気町	△ 0.93	16
御浜町	△ 1.10	17
伊賀市	△ 1.11	18
度会町	△ 1.38	19
大紀町	△ 1.55	20
志摩市	△ 1.68	21
鳥羽市	△ 1.71	22
熊野市	△ 1.76	23
木曾岬町	△ 1.83	24
大台町	△ 1.93	25
紀宝町	△ 2.17	26
紀北町	△ 2.29	27
尾鷲市	△ 2.67	28
南伊勢町	△ 3.48	29



【全国・三重県：人口推計（総務省）、三重県市町：推計人口（三重県調べ）】

- ・ 三重県の人口の増減率は-0.37%で、全国順位は18位となっている。県内では、川越町、朝日町が大きく増加し、菰野町、桑名市、玉城町も増加している。一方、その他の24市町では減少している。

③ 公立小学校の児童数と将来推計



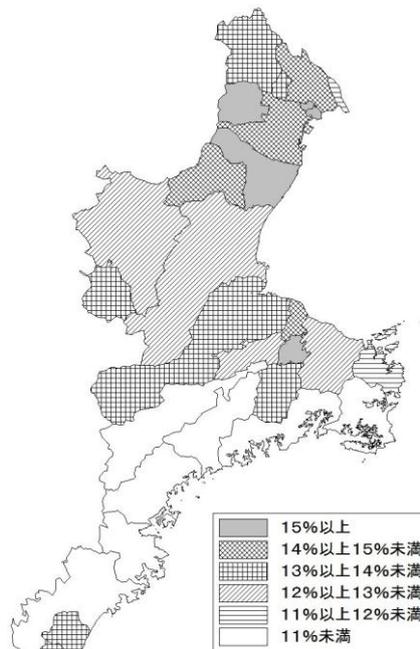
【三重県教育委員会調べ（毎年度5月1日現在）】

- 公立小学校の児童数は年々減少している。

\* 平成27年度以降は、見込み数。

④ 県年少人口割合（平成24年10月1日）

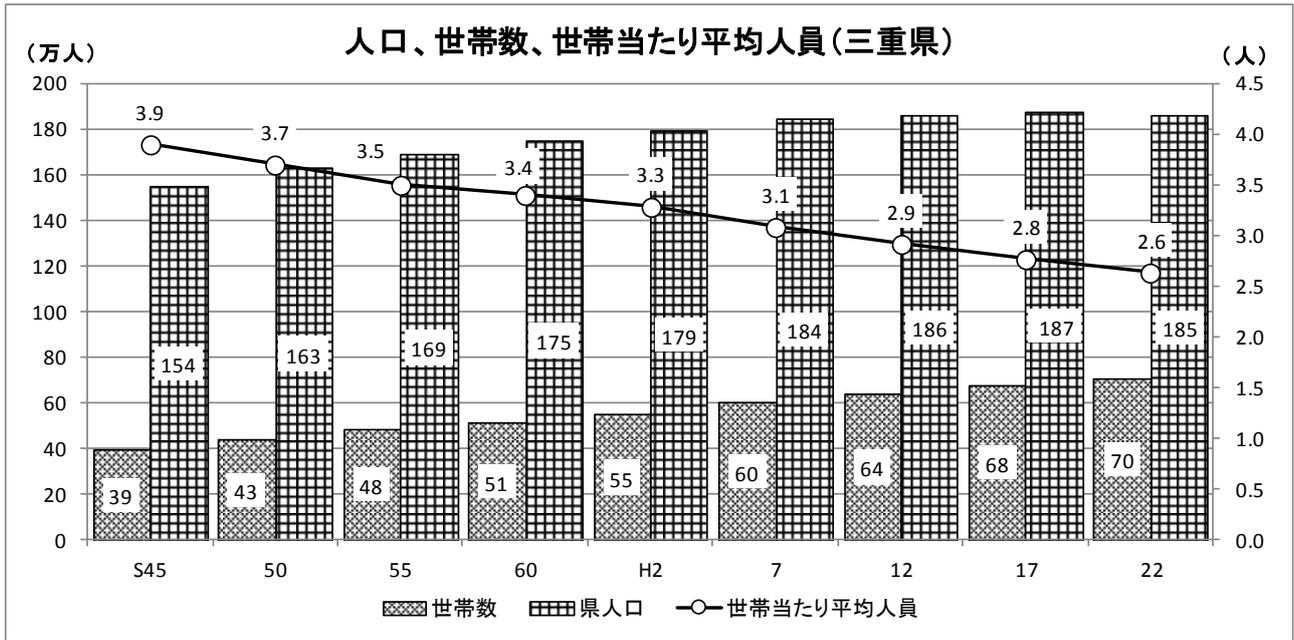
	割合	順位
全国	13.0	
三重県	13.5	全国13位
朝日町	21.7	1
川越町	16.4	2
玉城町	15.5	3
菟野町	15.0	4
鈴鹿市	15.0	5
亀山市	14.7	6
桑名市	14.3	7
四日市市	14.1	8
明和町	14.1	9
いなべ市	13.6	10
東員町	13.5	11
松阪市	13.4	12
紀宝町	13.2	13
御浜町	13.1	14
度会町	13.1	15
名張市	13.1	16
津市	13.0	17
伊勢市	12.9	18
多気町	12.6	19
伊賀市	12.3	20
木曾岬町	11.3	21
鳥羽市	11.0	22
大台町	10.9	23
志摩市	10.7	24
尾鷲市	10.3	25
熊野市	10.2	26
紀北町	10.1	27
大紀町	9.2	28
南伊勢町	8.0	29



【全国・三重県：人口推計（総務省）、三重県市町：推計人口（三重県調べ）】

- 三重県の年少人口割合は13.5%で、全国順位は13位となっている。県内では、朝日町、川越町、玉城町の順に大きく、県南部地域は多くの市町で12%を下回っている。

⑤ 世帯数と世帯当たり人数

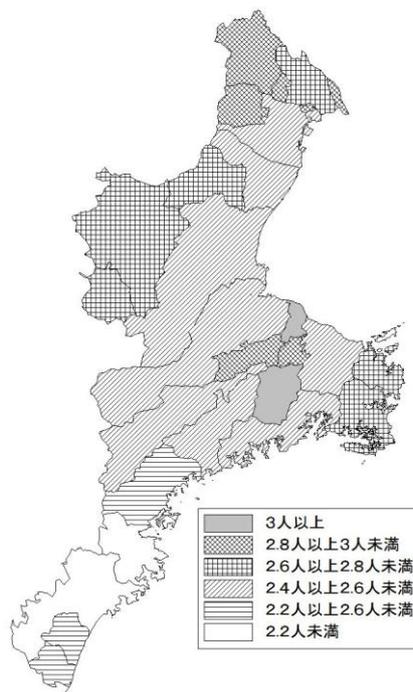


【国勢調査 (総務省)】

- ・ 核家族化が年々進んでいる。

⑥ 県内一般世帯の1世帯当たりの人数 (平成22年10月1日)

	人	順位
全国	2.42	
三重県	2.59	全国21位
度会町	3.28	1
明和町	3.03	2
木曾岬町	2.99	3
玉城町	2.96	4
東員町	2.92	5
菰野町	2.88	6
多気町	2.85	7
いなべ市	2.82	8
朝日町	2.81	9
伊賀市	2.73	10
名張市	2.69	11
桑名市	2.69	12
亀山市	2.63	13
志摩市	2.62	14
鳥羽市	2.61	15
伊勢市	2.60	16
鈴鹿市	2.59	17
松阪市	2.59	18
大台町	2.58	19
四日市市	2.53	20
川越町	2.48	21
津市	2.46	22
南伊勢町	2.46	23
大紀町	2.42	24
紀宝町	2.30	25
御浜町	2.28	26
紀北町	2.26	27
尾鷲市	2.14	28
熊野市	2.09	29

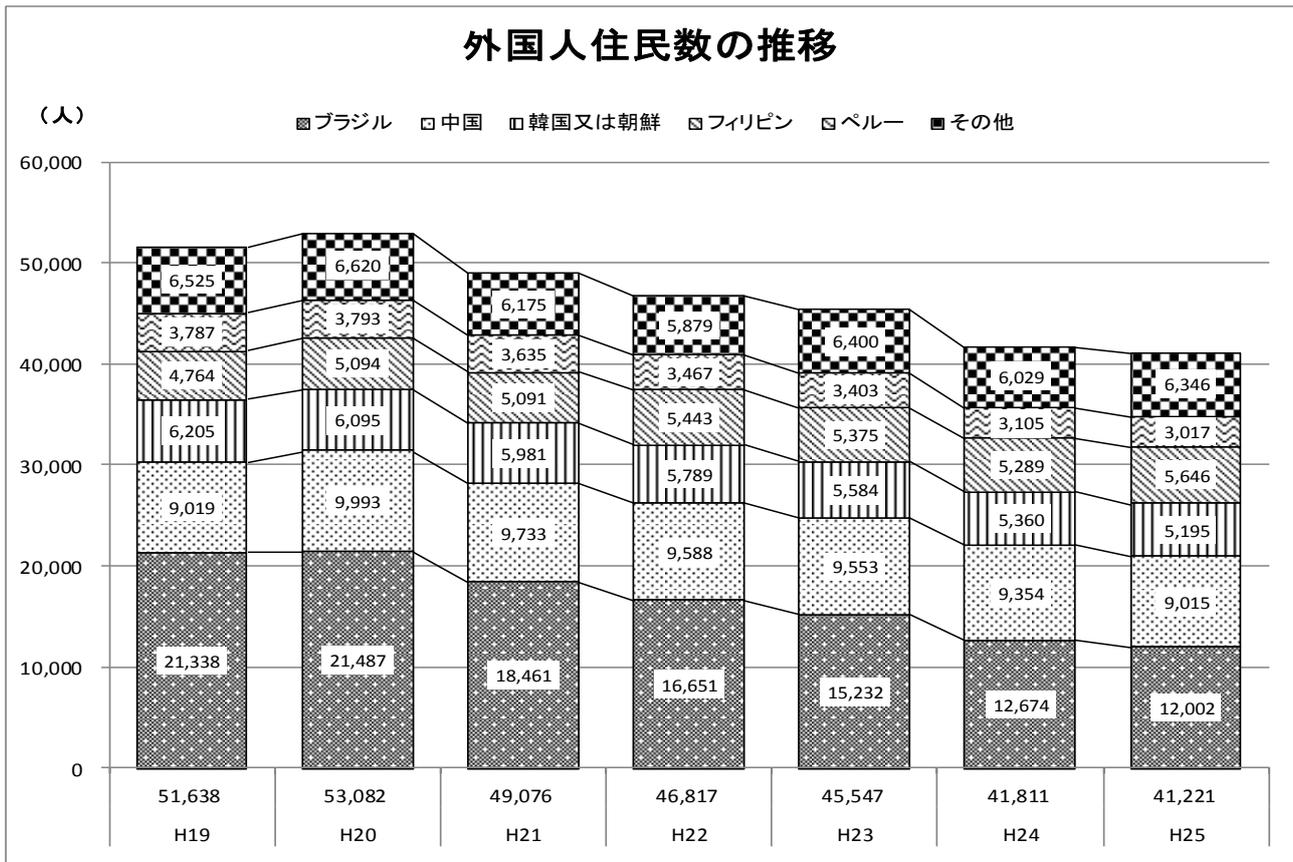


【国勢調査 (総務省)】

- ・ 三重県の一般世帯の1世帯当たりの人数は2.59人で、全国順位は21位となっている。県内では、度会町、明和町が3人を超えており、以下木曾岬町、玉城町の順に多くなっている。一方、熊野市、尾鷲市、紀北町等、東紀州地域の市町が少なくなっている。

(2) 国際化・グローバル化の進展

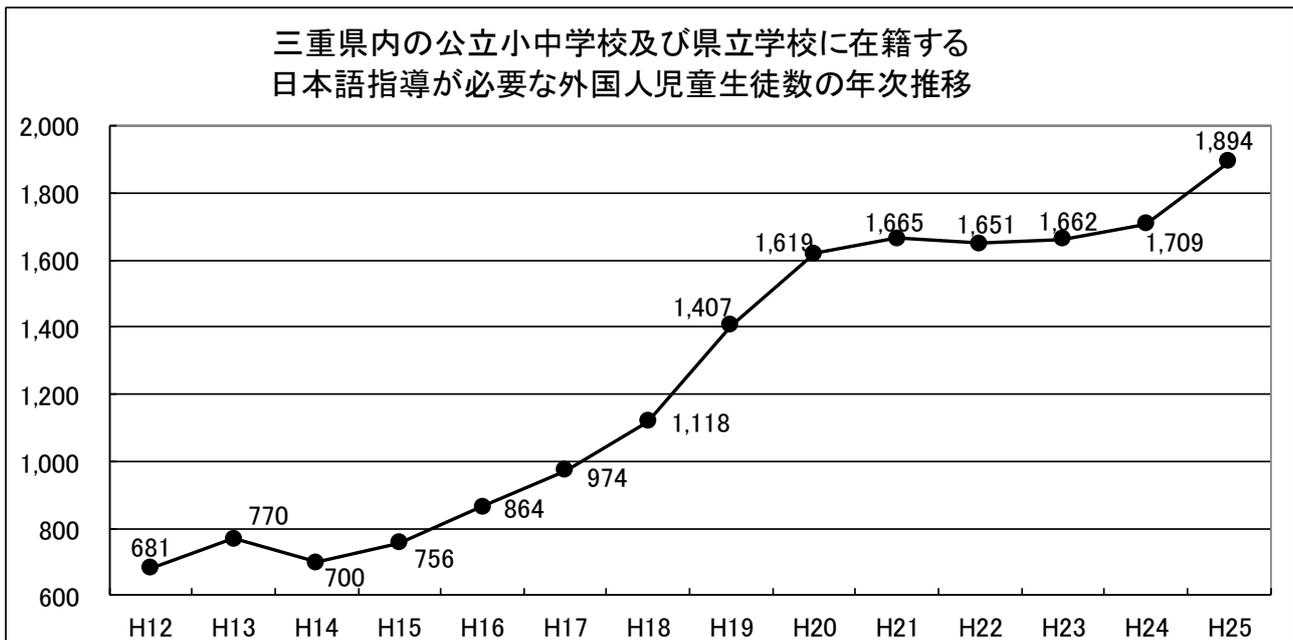
① 外国人住民数の推移 (三重県)



【三重県多文化共生課調べ】

- 外国人住民数は平成20年をピークに減少傾向になっている。

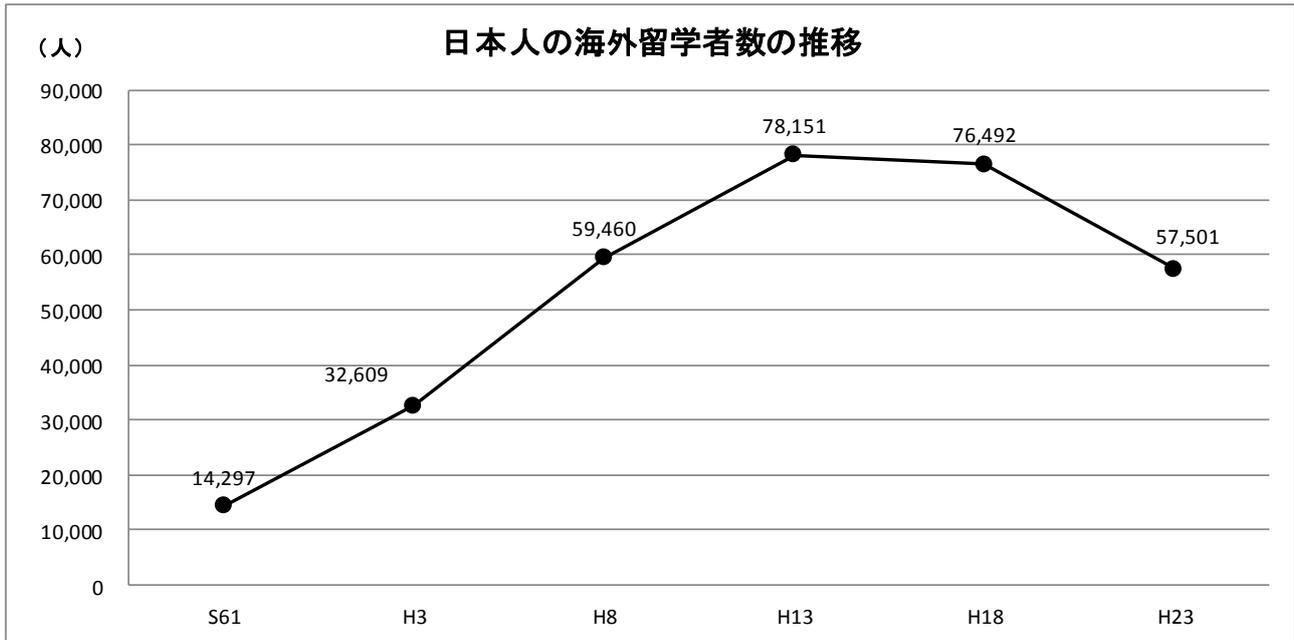
② 日本語指導が必要な外国人児童生徒数の推移 (三重県)



【三重県教育委員会調べ (各年度9月1日時点)】

- 日本語指導が必要な外国人児童生徒数は増加傾向にある。

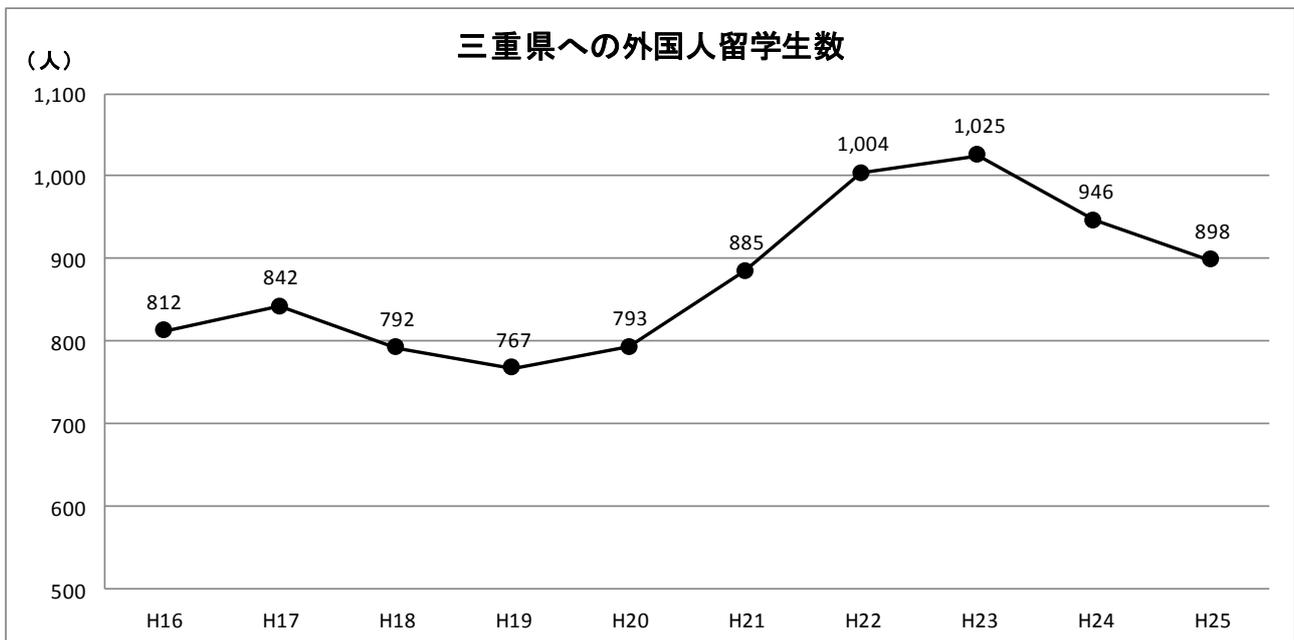
③ 日本から海外への留学者数の推移（全国）



【図表でみる教育 (Educational at a Glance) (OECD)】

- ・ 海外へ留学する日本人は減少傾向に転じている。

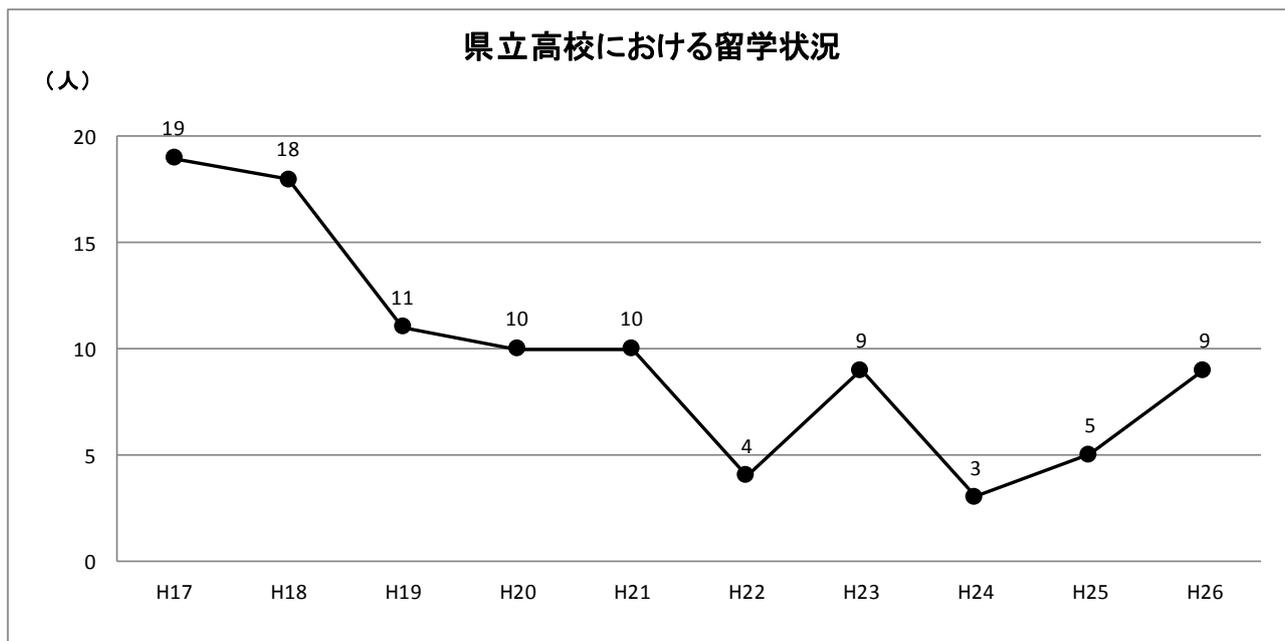
④ 三重県への外国人留学生数の推移



【外国人留学生在籍状況調査 (独立行政法人日本学生支援機構)】

- ・ 県内への留学生は、平成23年をピークに減少傾向となっている。

⑤ 高校生の海外留学者の推移(三重県)

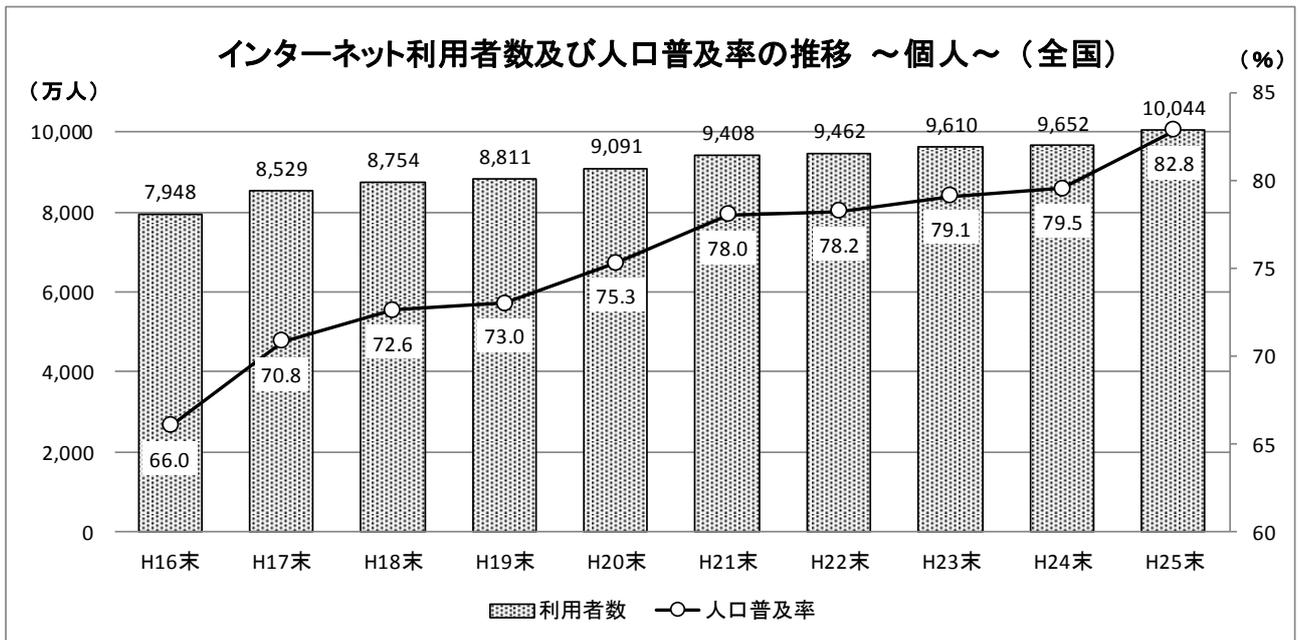


【三重県教育委員会調べ（各年度5月1日時点）】

- ・ 海外留学する県立高等学校の生徒数は、減少傾向にある。

### (3) 高度情報化の進展

#### ① インターネット利用者数および人口普及率



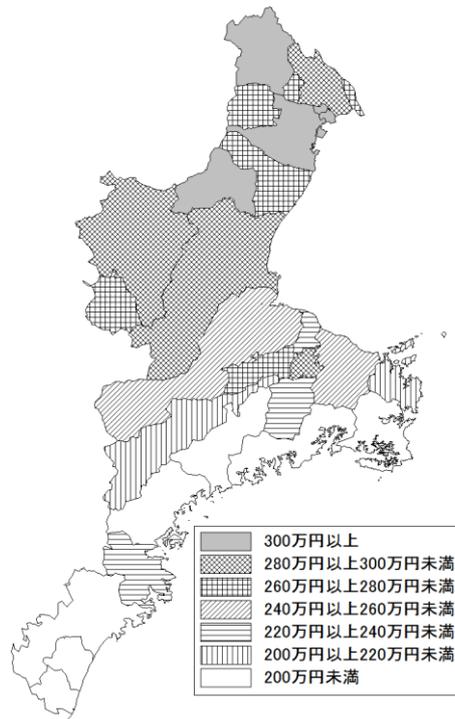
【通信利用動向調査（総務省）】

- ・ インターネットの普及率は非常に高くなっている。

#### (4) 経済・雇用環境の変化

##### ① 一人当たりの県内市町民所得（平成23年度）

	所得額	順位
全国	272	
三重県	274	全国21位
四日市市	316	1
川越町	316	2
亀山市	315	3
朝日町	315	4
いなべ市	309	5
玉城町	294	6
伊賀市	290	7
津市	286	8
桑名市	284	9
菰野町	273	10
鈴鹿市	272	11
東員町	271	12
木曾岬町	268	13
名張市	263	14
多気町	263	15
松阪市	251	16
伊勢市	245	17
明和町	238	18
尾鷲市	222	19
度会町	220	20
大台町	210	21
鳥羽市	210	22
志摩市	193	23
大紀町	191	24
御浜町	191	25
紀北町	186	26
熊野市	181	27
南伊勢町	180	28
紀宝町	173	29



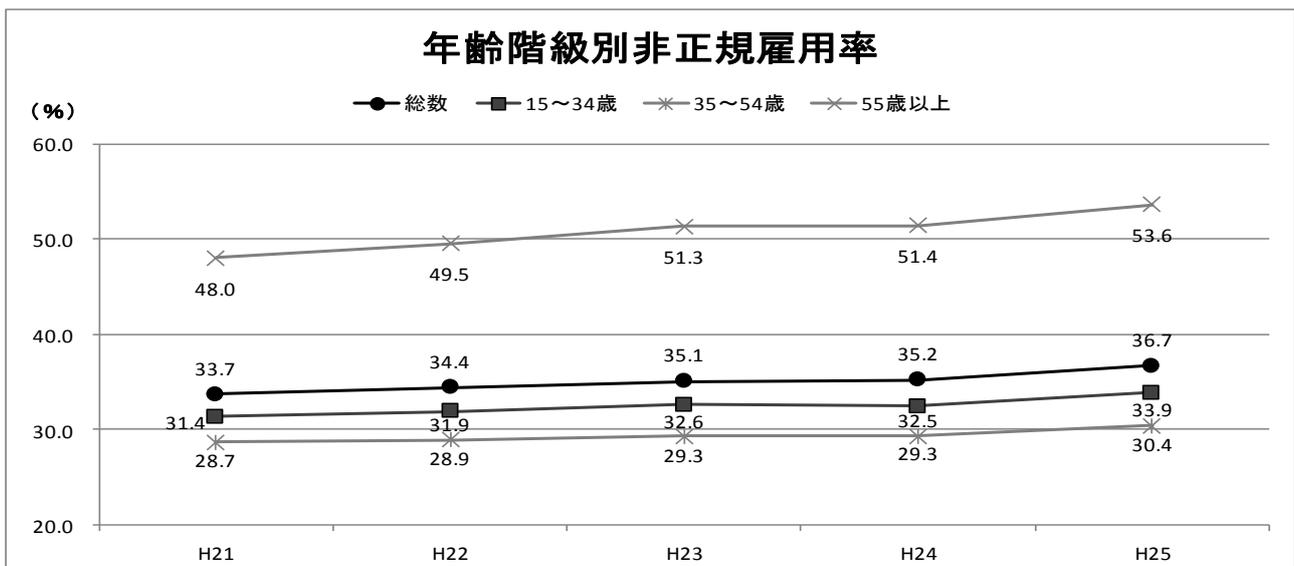
※ 所得額は、雇用人報酬、財産所得、企業所得の合計であり、個人の所得水準を表わすものではない。

(単位：万円)

【全国：平成25年度国民経済計算確報（内閣府）、三重県：平成23年度県民経済計算（内閣府）、三重県市町：平成23年度三重県の市町民経済計算（三重県調べ）】

- ・ 三重県の一人当たりの県民所得は約274万で、全国順位は21位となっている。県内では、四日市市、川越町、亀山市、朝日町、いなべ市の5市町が300万円を超えている。一方、紀宝町、南伊勢町、熊野市等は低くなっている。

##### ② 年齢階級別非正規雇用率の推移

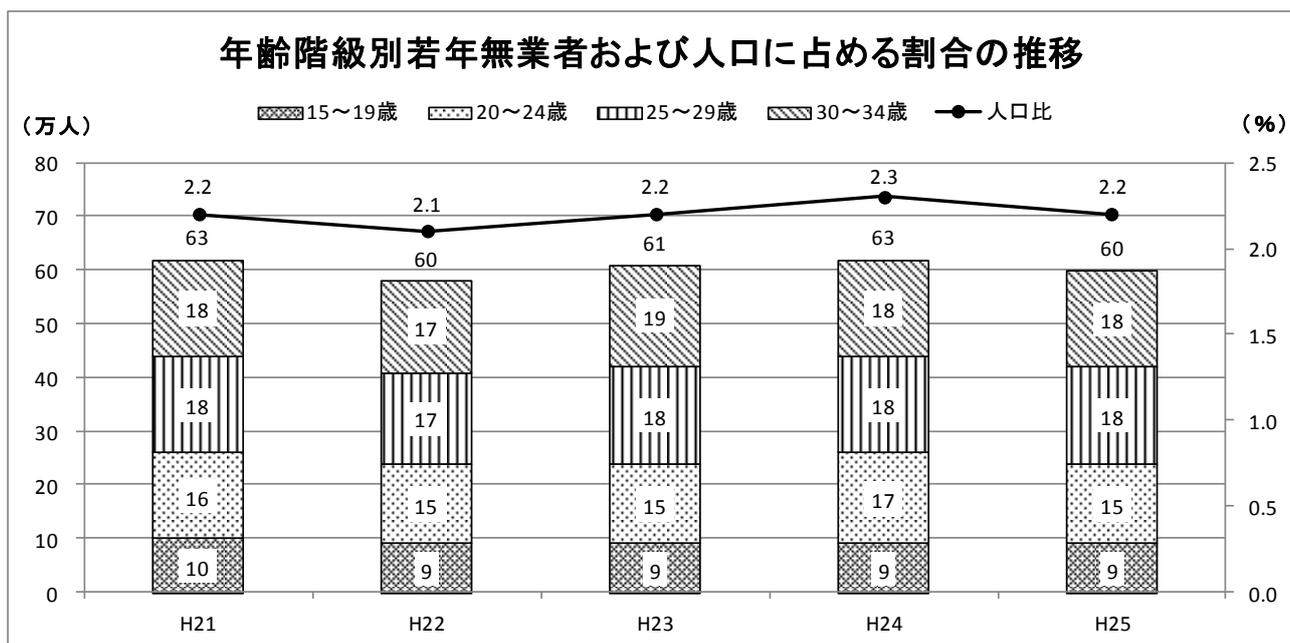


【労働力調査（総務省）】

- ・ 非正規雇用率は、各年代において上昇傾向となっている。若年者（15～34歳）の非正規雇用率は、成年（35～54歳）を上回っている。

③ 年齢階級別若年無業者(\*)と人口に占める割合の推移

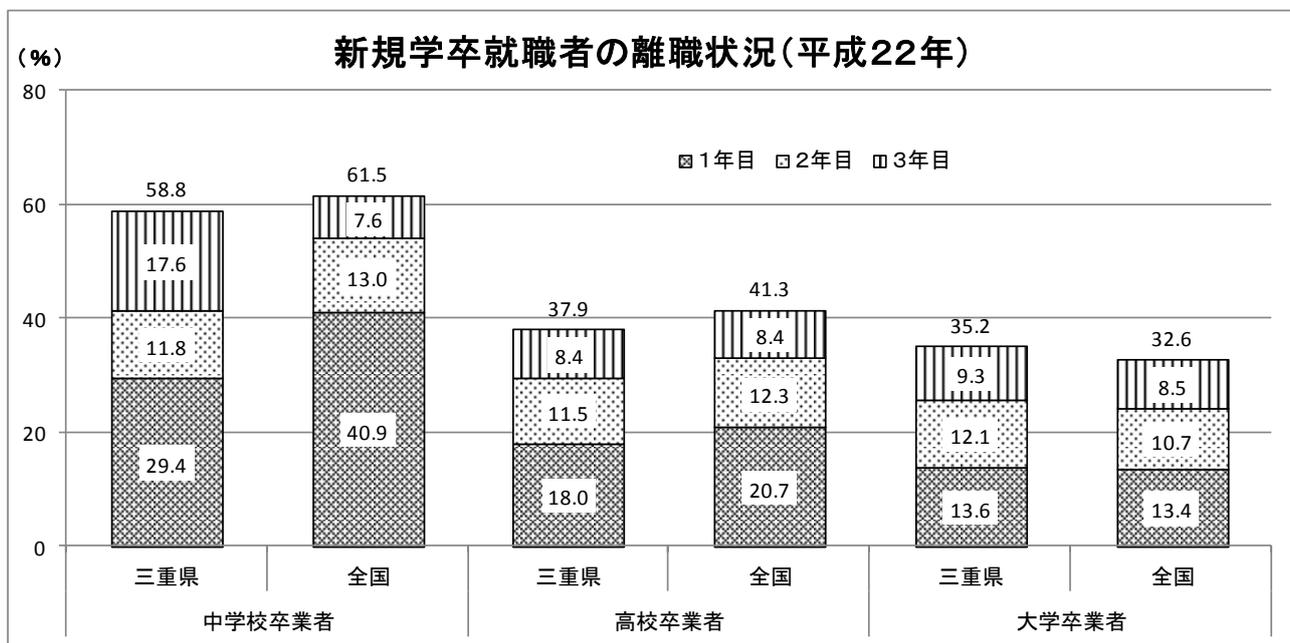
(\*) 15～34歳の非労働力人口のうち家事も通学もしていない者



【労働力調査（総務省）】

- ・ 若年無業者の数は、ここ数年大きな変化はない。

④ 卒業後3年以内に離職した人の割合

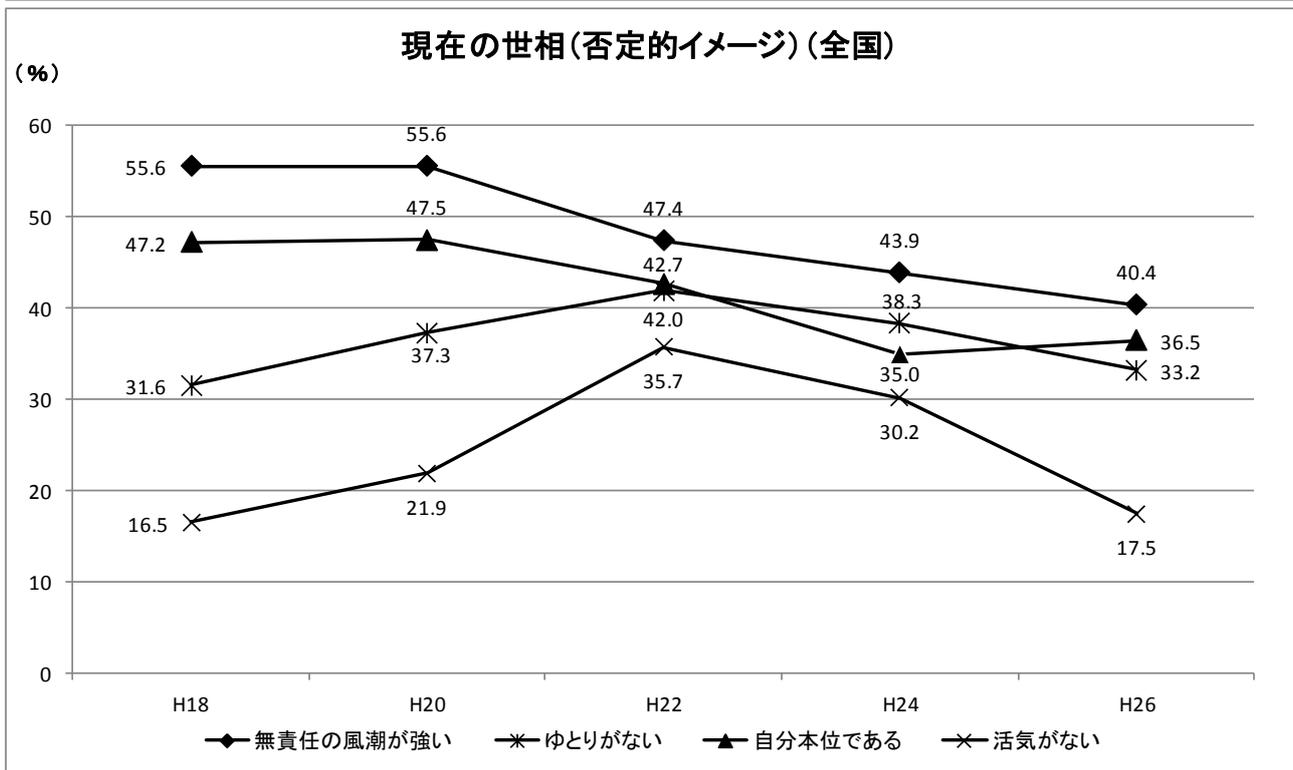
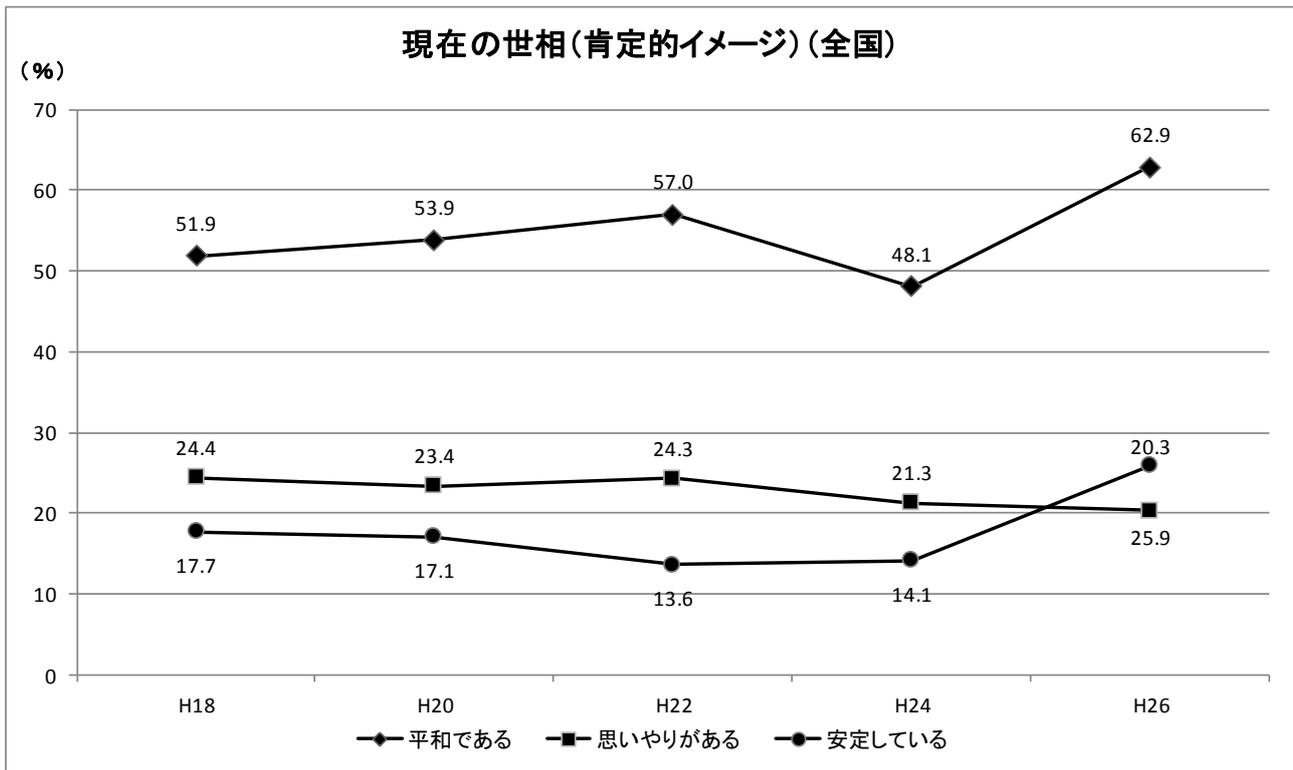


【在職期間別離職状況調査（厚生労働省）および三重労働局調べ】

- ・ 三重県においては、中学校卒業生の約59%、高校卒業生の約38%、大学卒業生の約35%が卒業後3年以内に離職している。中学校卒業生と高校卒業生については、3年以内の離職率が全国平均を下回っている。

(5) 価値観の変化

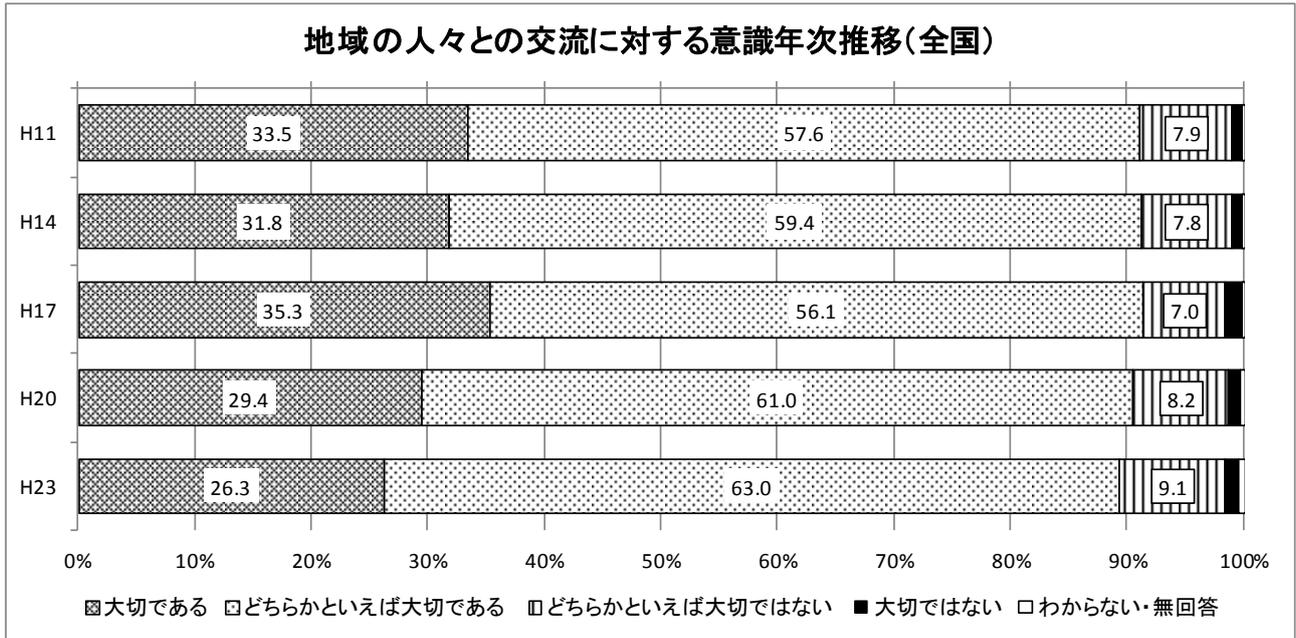
① 現在の世相イメージ



【社会意識に関する世論調査 (内閣府)】

- 「平和である」「安定している」の肯定的イメージが増加傾向となっている。また、否定的イメージについては全体として減少傾向となっているが、平成26年度については「自分本位である」がやや増加に転じている。

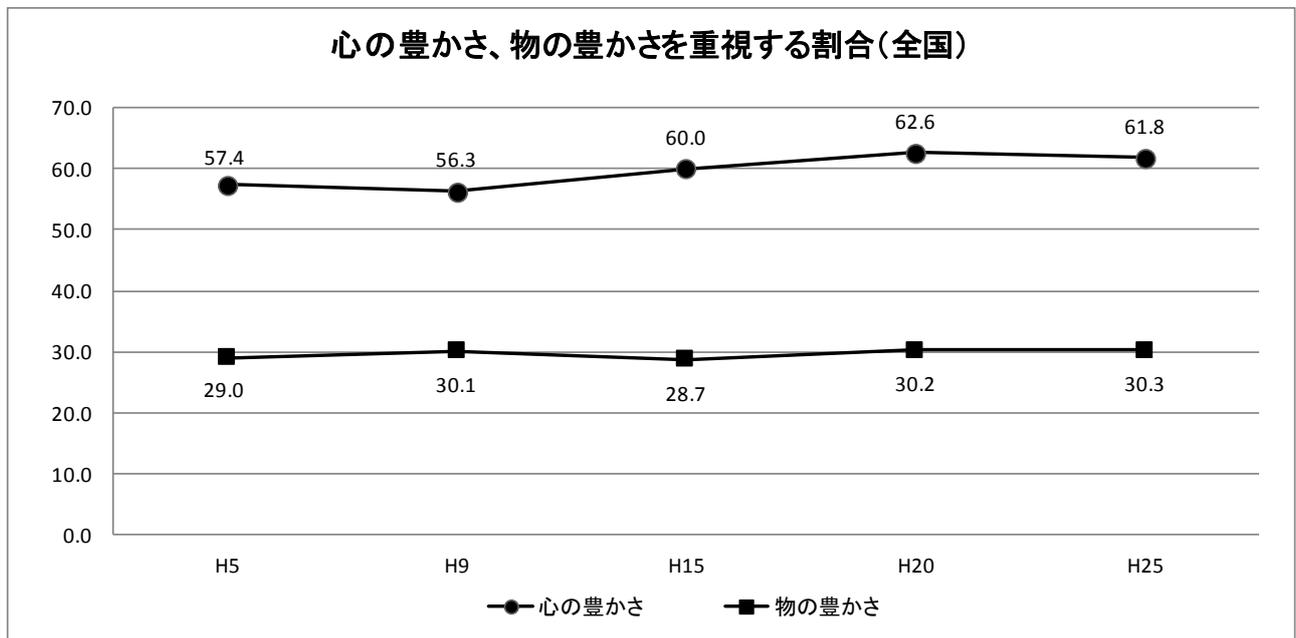
② 地域の人々との交流に対する意識



【国民生活選好度調査（内閣府）】

- ・ 地域の人々との交流が大切であるという意識が低下している傾向となっている。

③ 心の豊かさ、物の豊かさを重視する割合



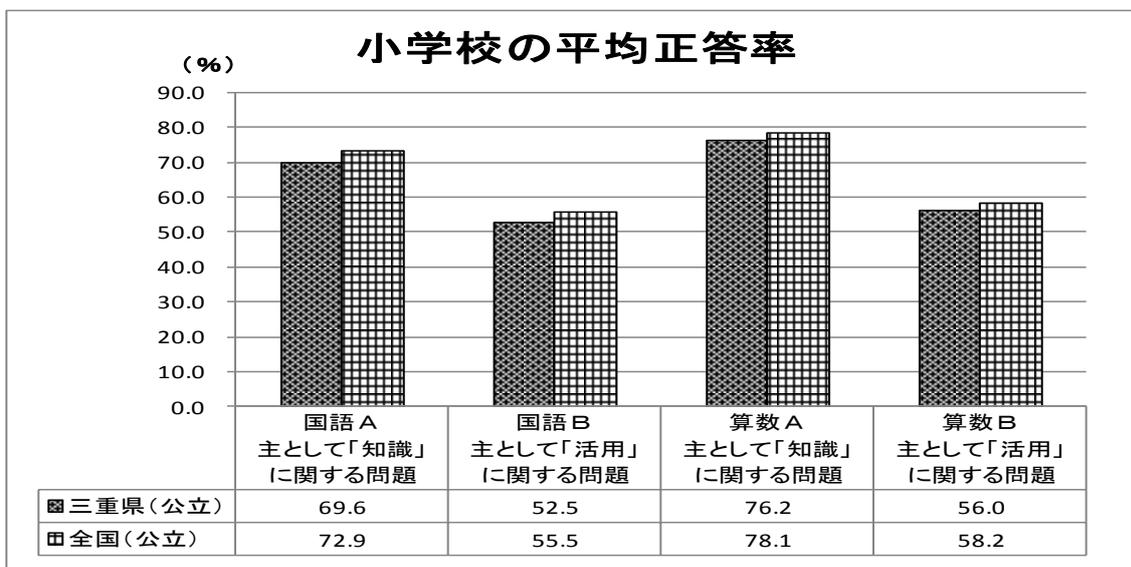
【国民生活に関する世論調査（内閣府）】

- ・ 物の豊かさよりも心の豊かさを重視する傾向となっている。

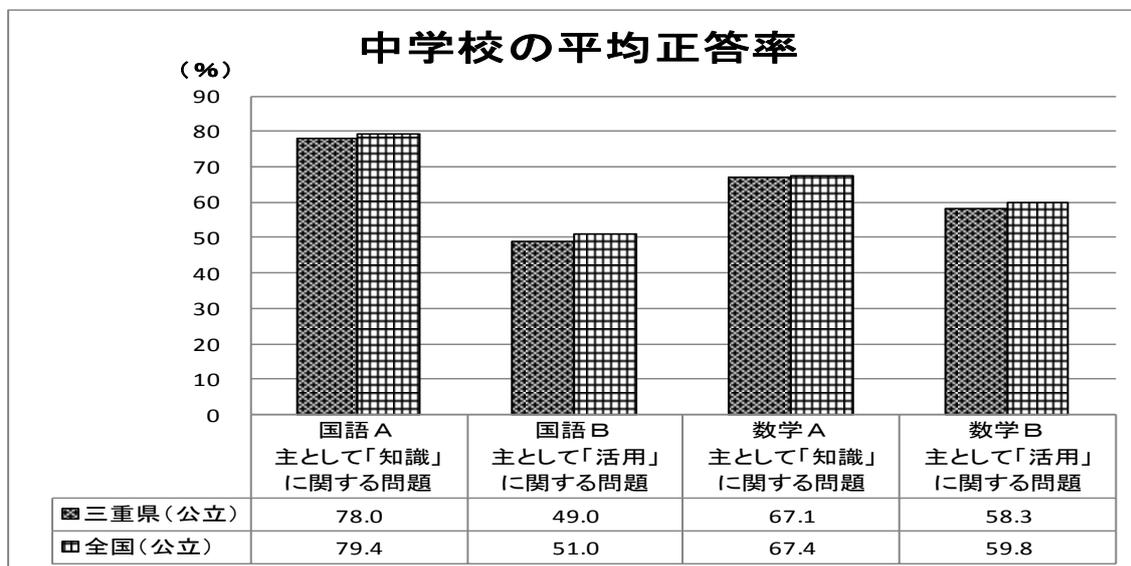
## 2 子どもたちの姿

### (1) 学力・学習意欲

#### ① 平成26年度全国学力・学習状況調査における各教科の平均正答率

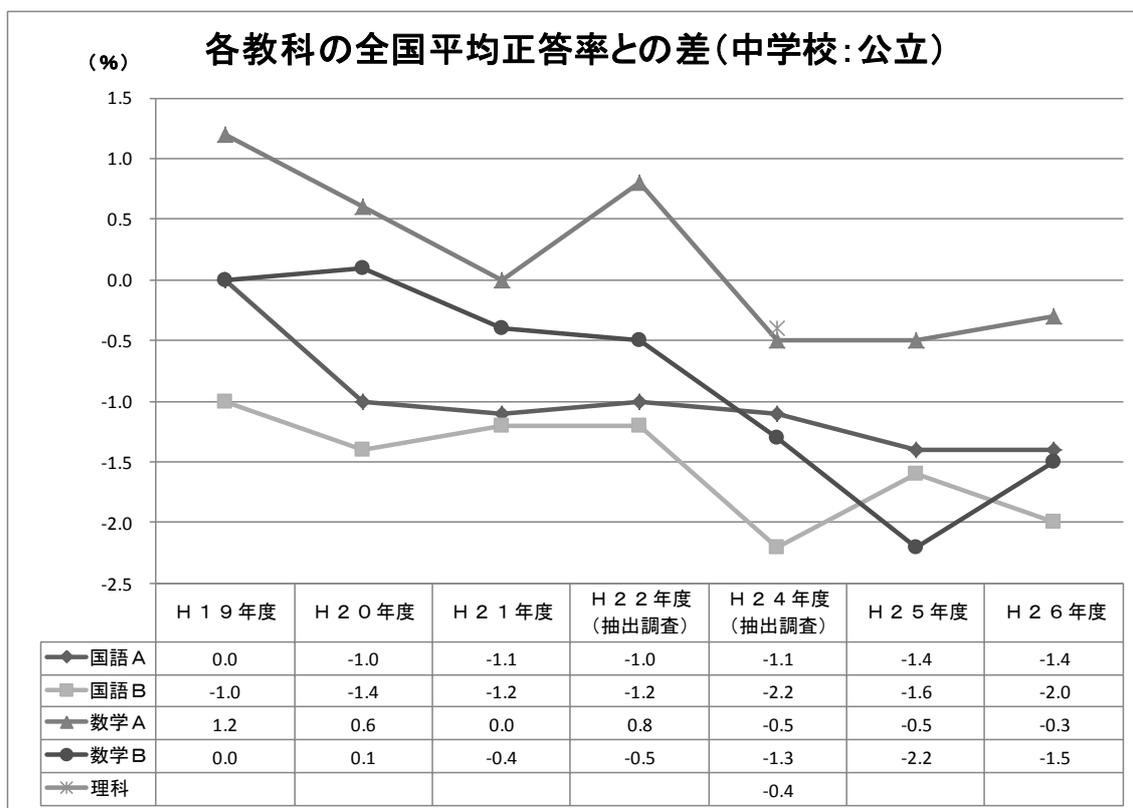
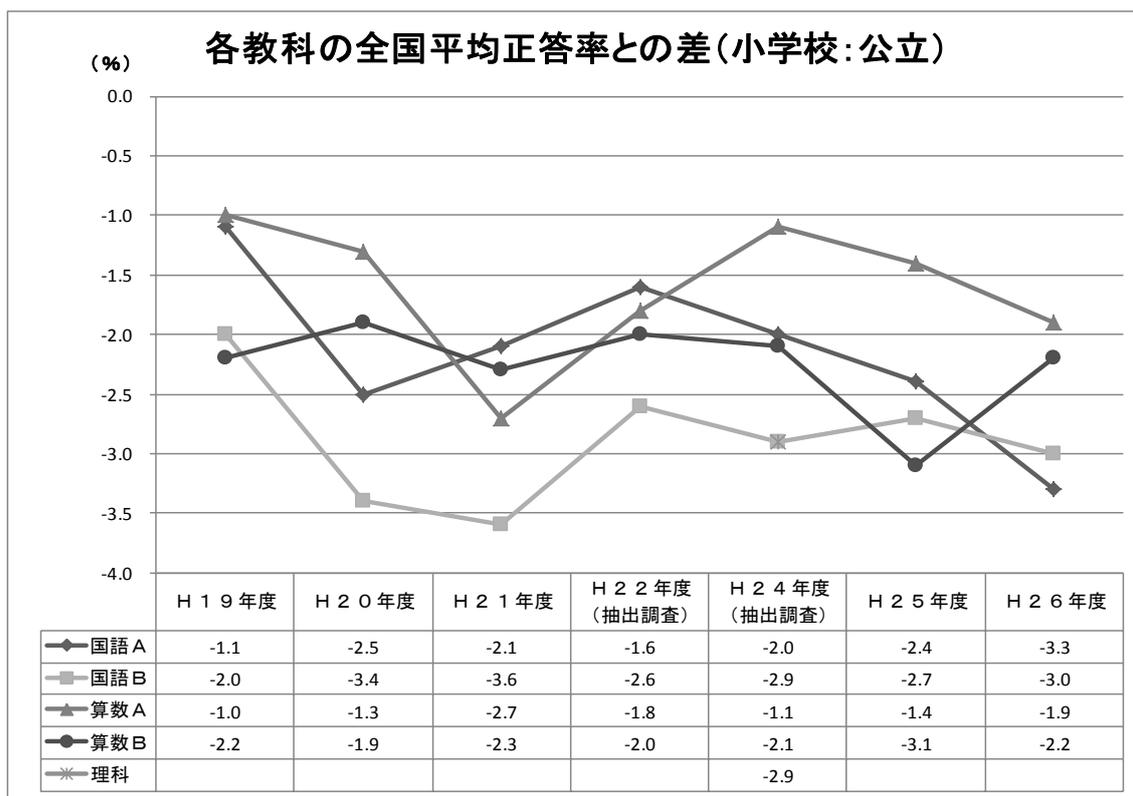


- ・ 国語 A（知識）、国語 B（活用）ともに、平均正答率が3ポイント以上全国平均を下回っている。
- ・ 算数 A（知識）、算数 B（活用）ともに、国語 A、国語 B より全国平均との差は小さいものの、全国平均を下回っている。



- ・ 平均正答率が全体的に全国平均を下回っているが、小学校と比べ全国平均との差は比較的小さい。
- ・ 小学校と同様、中学校においても国語（A・B）が数学（A・B）より全国平均との差が大きい。

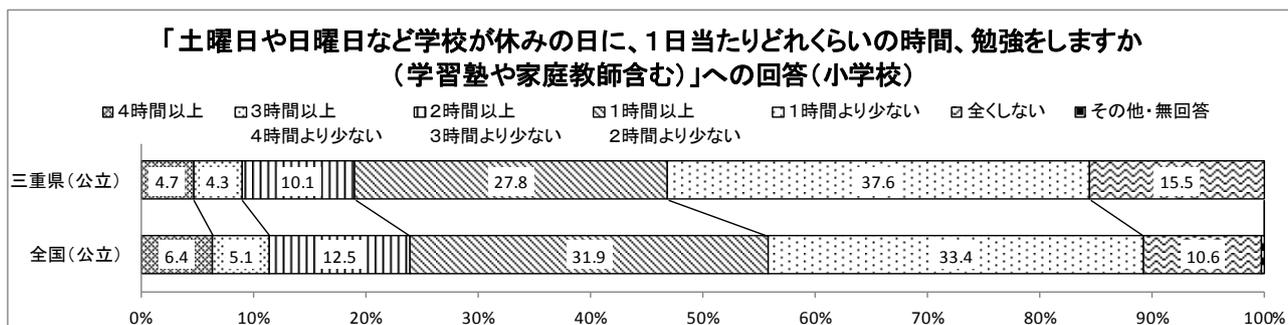
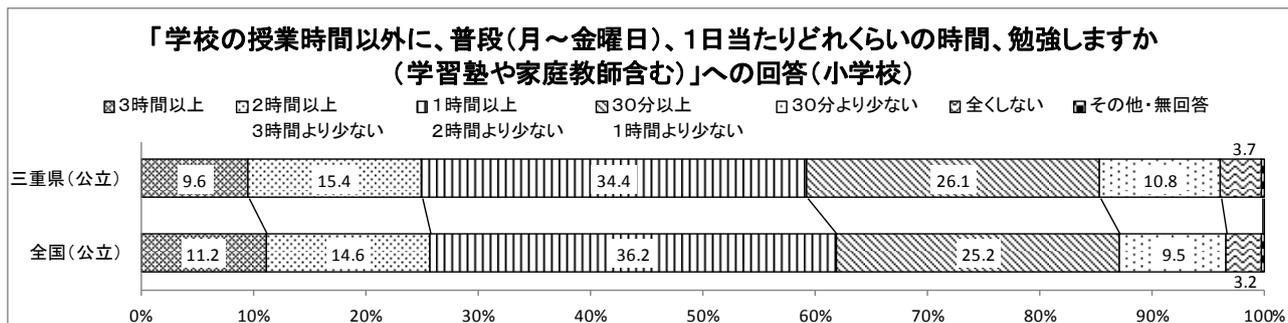
② 平成19年度から平成26年度の全国学力・学習状況調査における各教科の全国平均正答率との差



- 平成26年度においては、平成25年度に引き続き、全ての教科において全国の平均正答率を下回っており、小学校国語A・B、小学校算数A、中学校国語Bにおいて全国の平均正答率との差がさらに開く状況となっている。

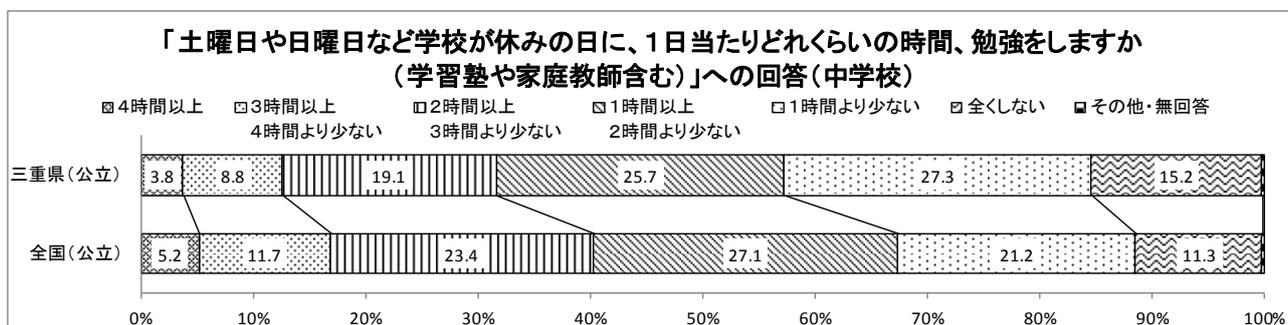
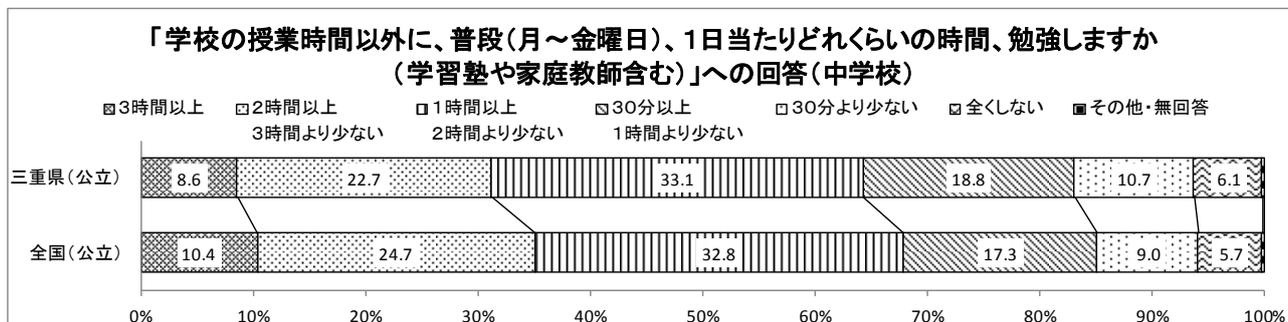


⑤ 1日当たりの学習時間（学校の授業時間以外（学習塾や家庭教師含む））



【平成26年度全国学力・学習状況調査 児童質問紙】

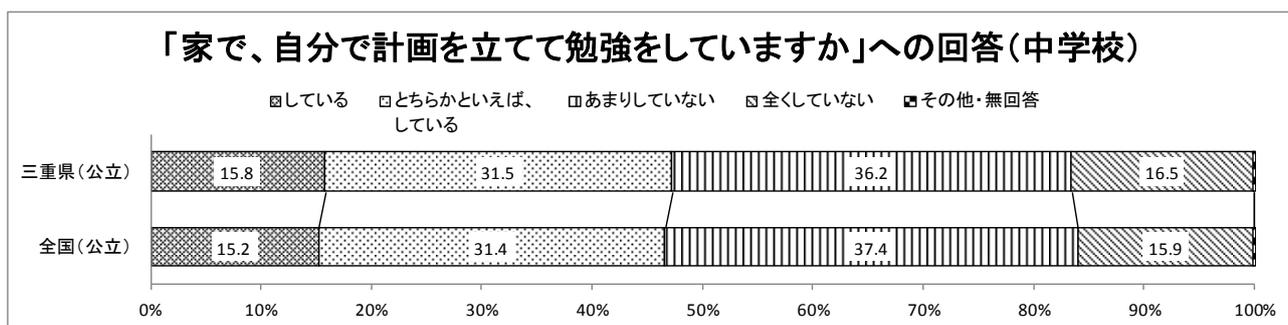
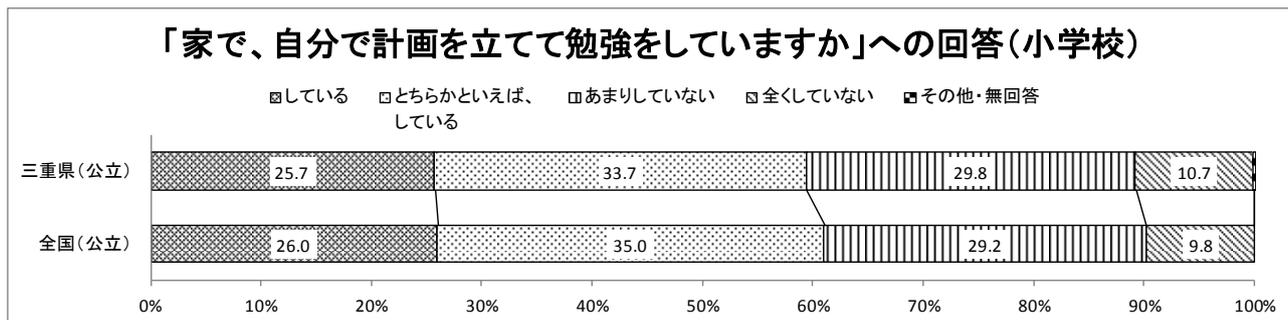
- ・ 普段（月～金曜日）の日に学校の授業時間以外に1時間以上、学校が休みの日に2時間以上勉強している小学6年生の割合は、全国平均よりも小さい。また、小学6年生の約16%は、学校が休みの日に全く勉強していない。



【平成26年度全国学力・学習状況調査 生徒質問紙】

- ・ 普段（月～金曜日）の日に学校の授業時間以外に1時間以上、学校が休みの日に2時間以上勉強している中学3年生の割合は、全国平均よりも小さい。また、中学3年生の約15%は、学校が休みの日に全く勉強していない。

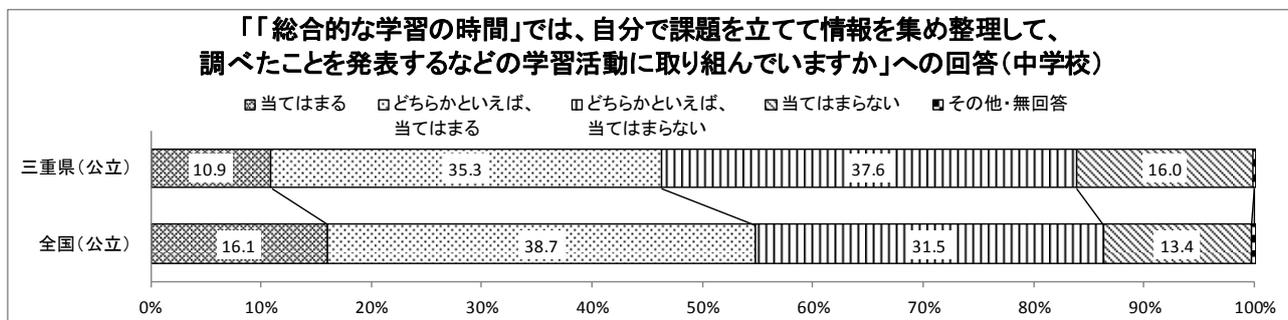
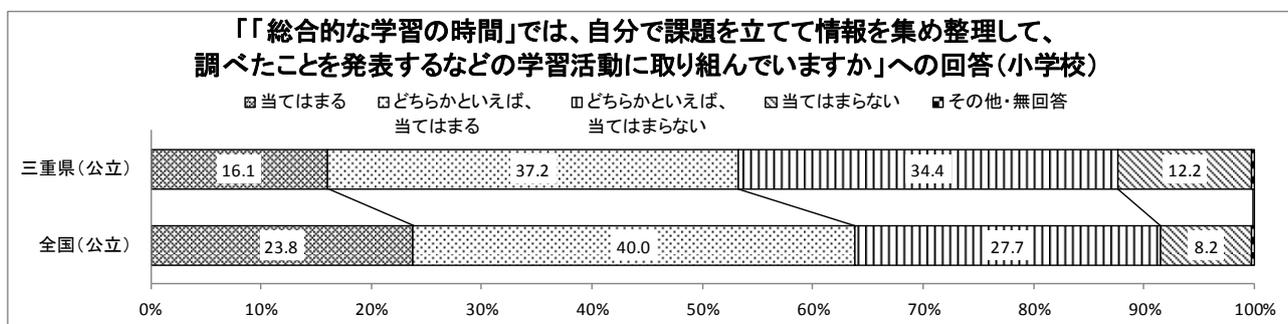
⑥ 家庭での計画的な学習への取組



【平成26年度全国学力・学習状況調査 児童生徒質問紙】

- ・ 家で、自分で計画を立てて勉強をしている、どちらかといえばしていると肯定的な回答をしている小学6年生の割合は、全国平均より小さい。一方、中学3年生では肯定的な回答の割合が全国平均より大きい。

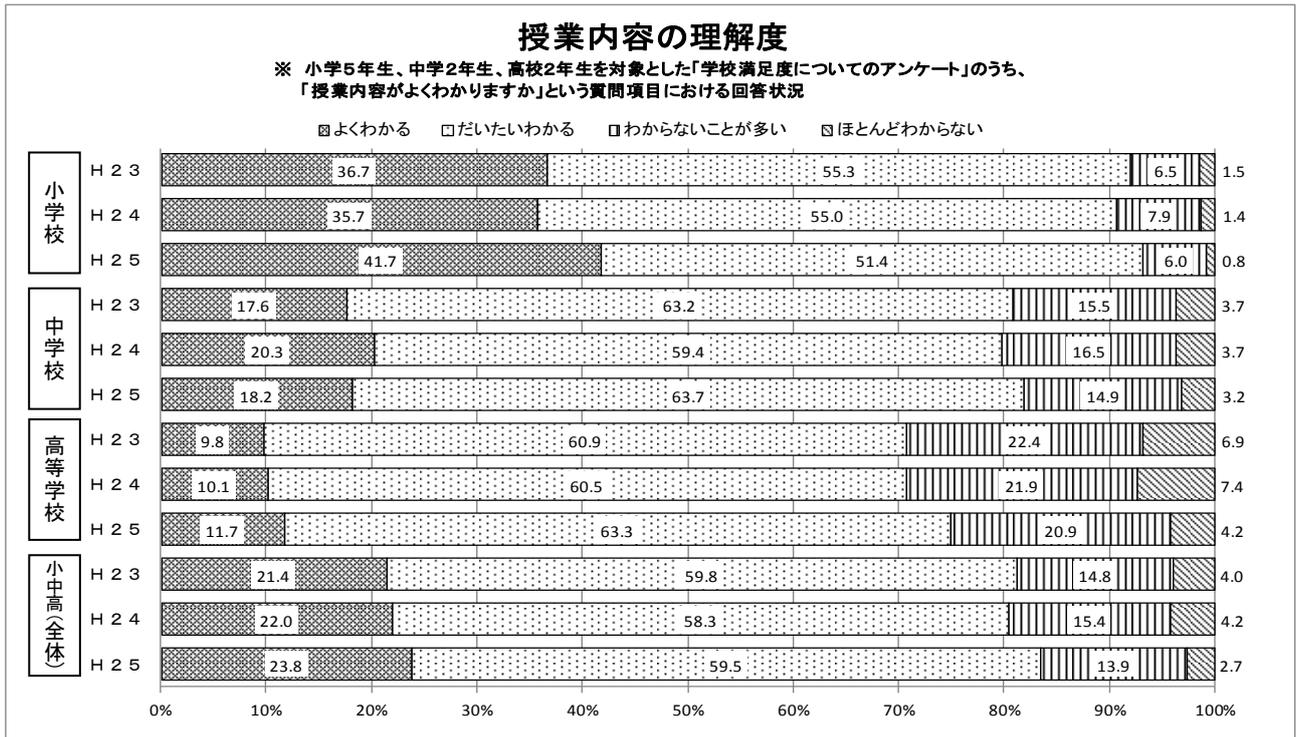
⑦ 総合的な学習の時間における取組



【平成26年度全国学力・学習状況調査 児童生徒質問紙】

- ・ 「総合的な学習の時間」では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいる、どちらかといえば取り組んでいると肯定的な回答をしている小学6年生と中学3年生の割合は、全国平均より小さい。

⑧ 授業内容の理解度



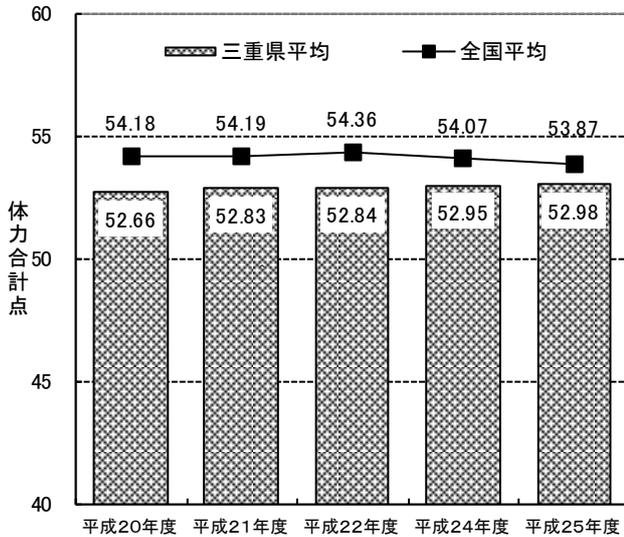
【三重県教育委員会調べ】

- 全体として、理解度についての肯定的な回答の割合は増加傾向にあるが、校種が上がるにつれ、理解できていないと回答する児童生徒の割合が増加している。

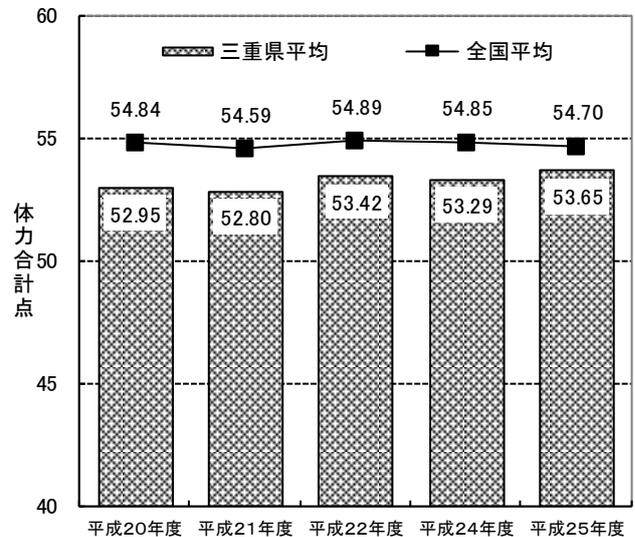
(2) 体力・運動能力

① 全国体力・運動能力、運動習慣等調査の体力合計点の推移

体力合計点の状況（小学5年生：男子）



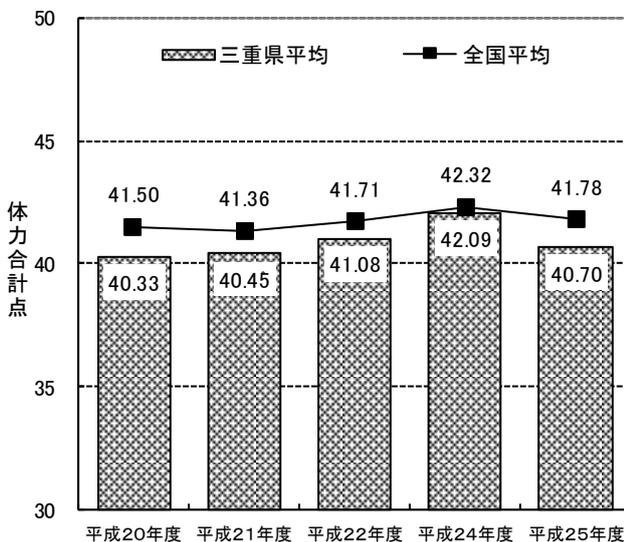
体力合計点の状況（小学5年生：女子）



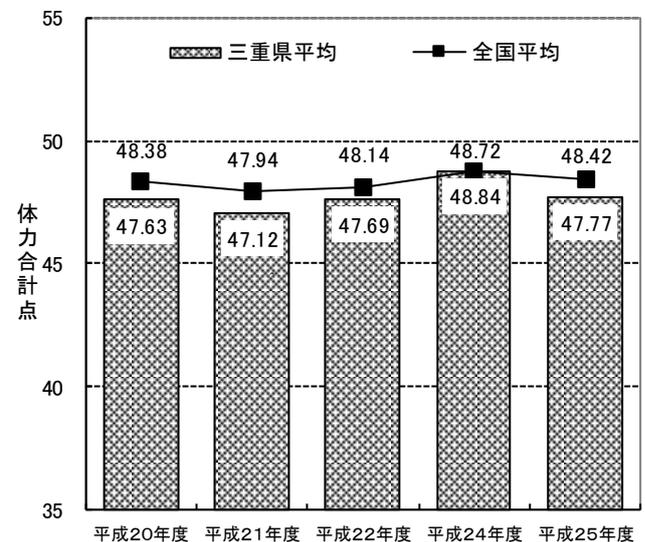
【全国体力・運動能力、運動習慣等調査】

- 小学5年生の体力合計点は、男女ともにわずかに上昇傾向となっている。全国との状況と比較すると、男女ともに全国平均を下回っているものの、その差は少しずつ小さくなっている。

体力合計点の状況（中学2年生：男子）



体力合計点の状況（中学2年生：女子）

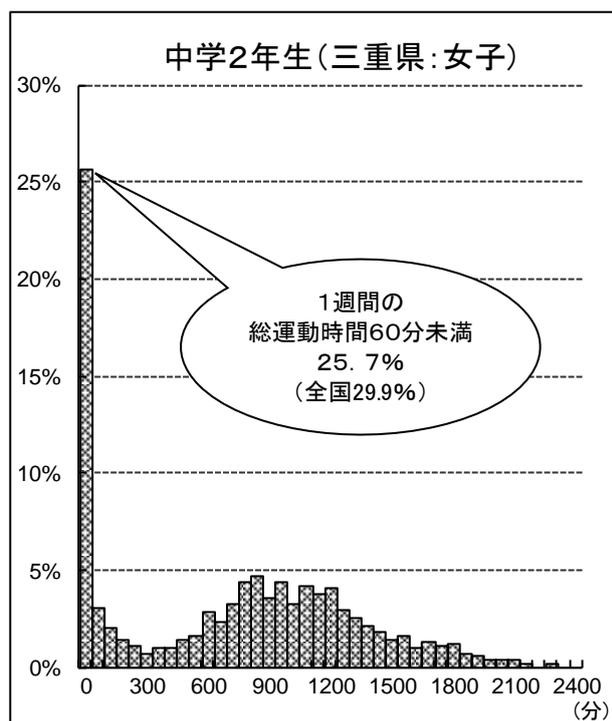
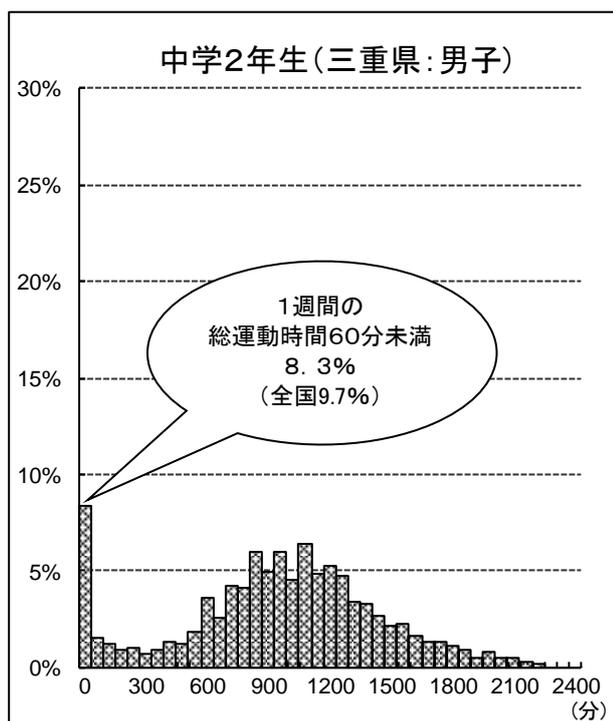
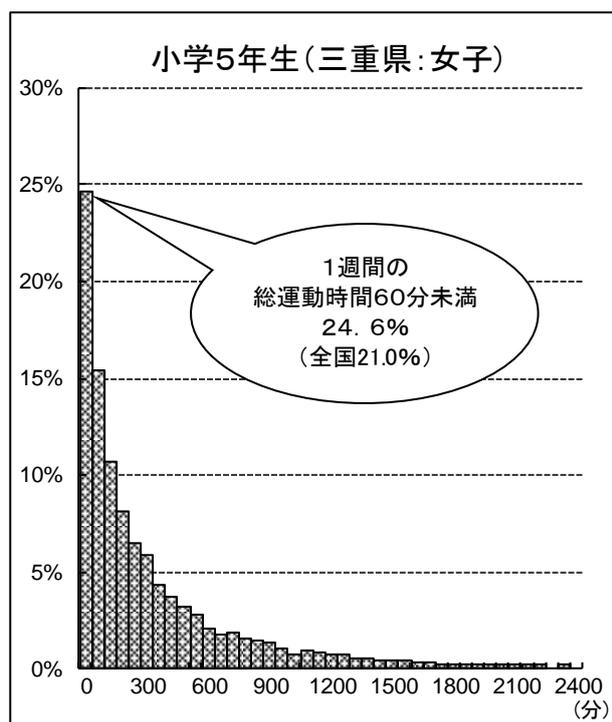
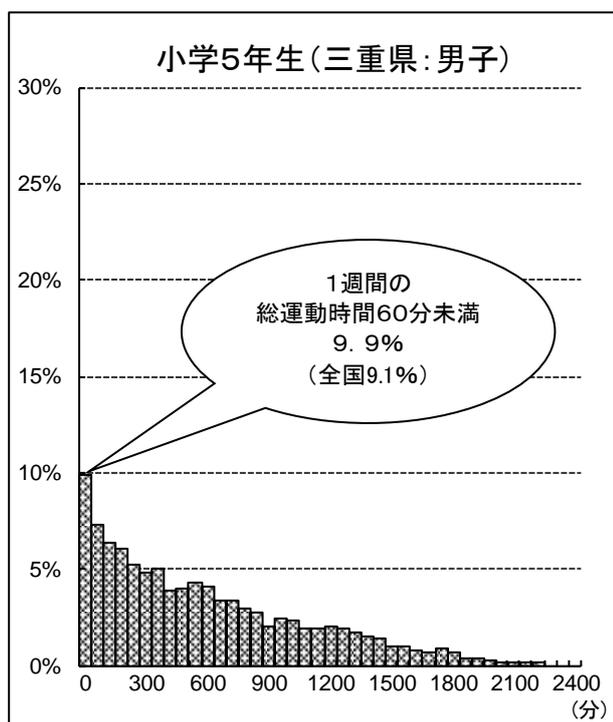


【全国体力・運動能力、運動習慣等調査】

- 中学2年生の体力合計点は、男女とも平成24年度まで、ほぼ全国平均にまで上昇していたが、平成25年度は全国平均を下回った。

② 児童生徒の運動習慣

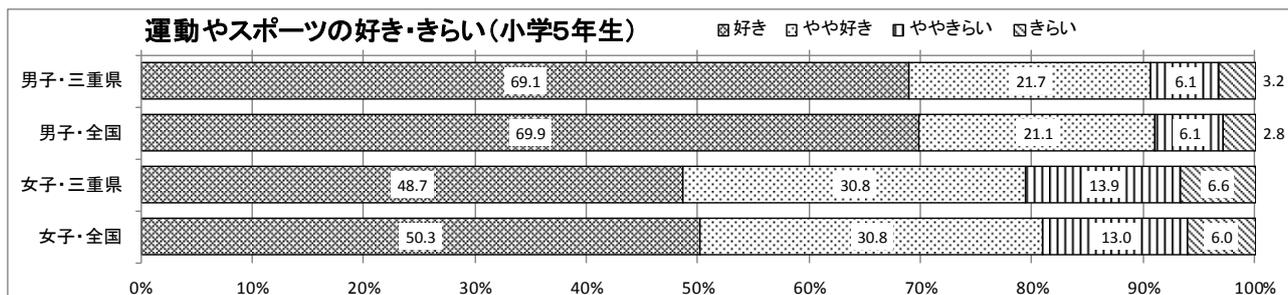
《体育の時間を除く 1 週間の運動時間の分布》



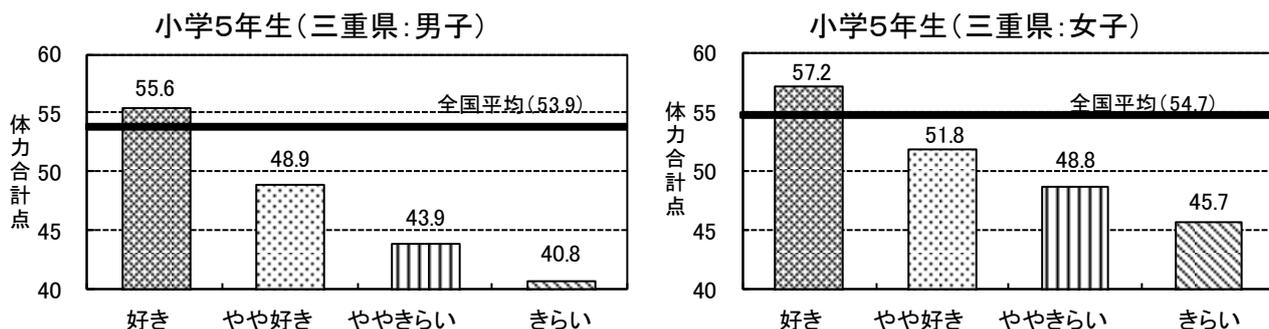
【平成25年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査】

- ・ 小学5年生では、運動をほとんどしていない児童が多い。中学2年生では、よく運動をする生徒と、そうでない生徒の二極化傾向が見られ、特に女子においては、4人に1人がほとんど運動をしていない。

③ 運動やスポーツの好き・きらいの割合、体力合計点の関係

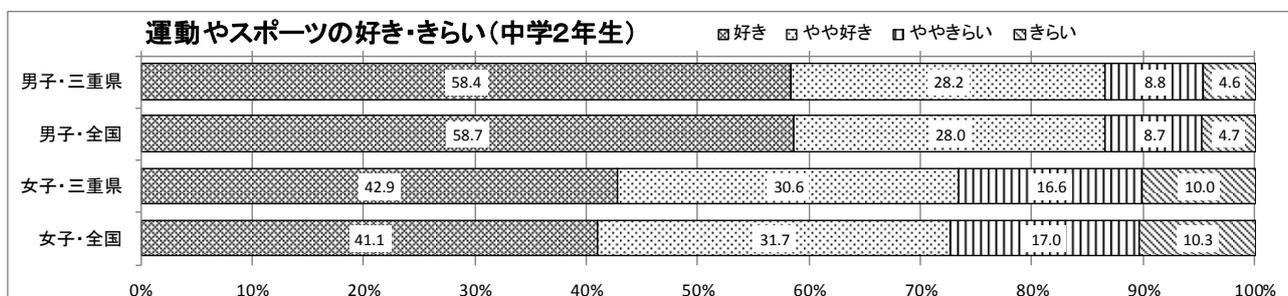


《運動やスポーツの好き・きらいと体力合計点の関係》

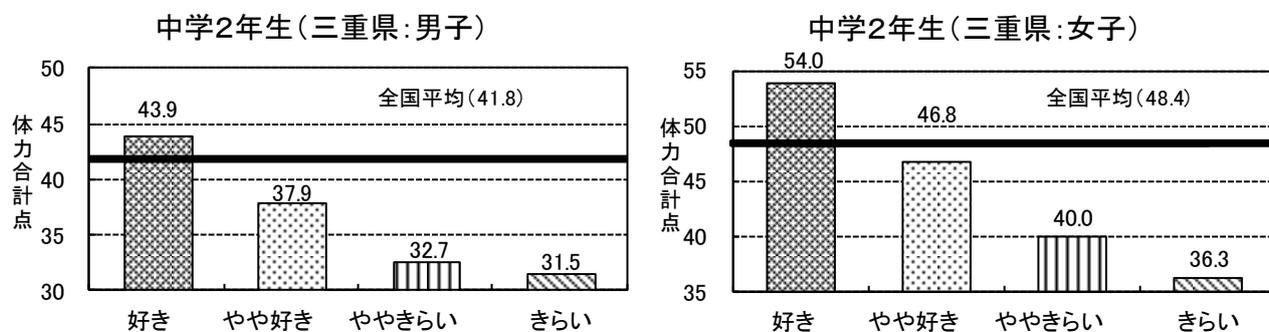


【平成25年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査】

- ・ 運動が「好き」「やや好き」と肯定的な回答をしている小学校5年生の割合は、全国平均とほとんど変わらない。
- ・ 運動が「好き」と回答している児童の体力合計点は男女とも高い。



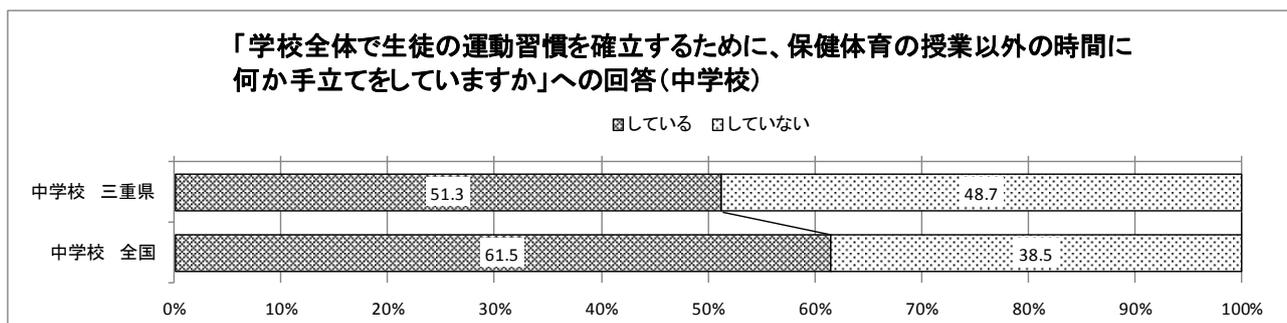
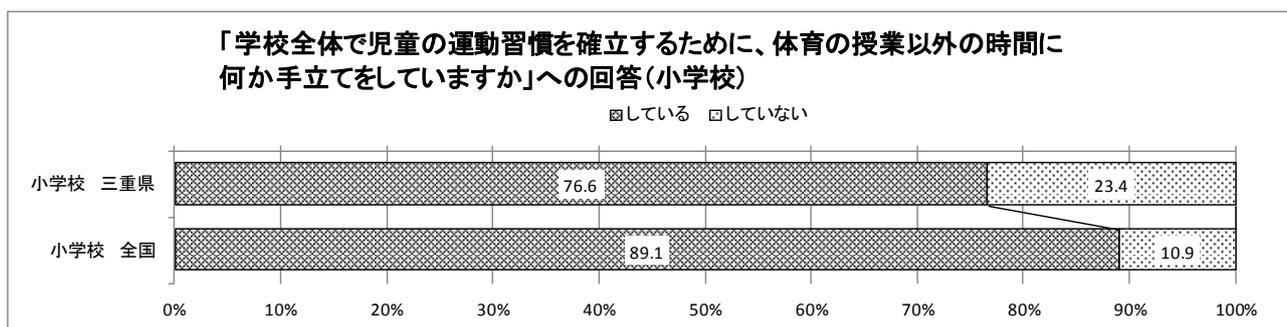
《運動やスポーツの好き・きらいと体力合計点の関係》



【平成25年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査】

- ・ 運動が「好き」「やや好き」と肯定的な回答をしている中学2年生の割合は、全国平均とほとんど変わらない。
- ・ 運動が「好き」と回答している生徒の体力合計点は男女とも高い。

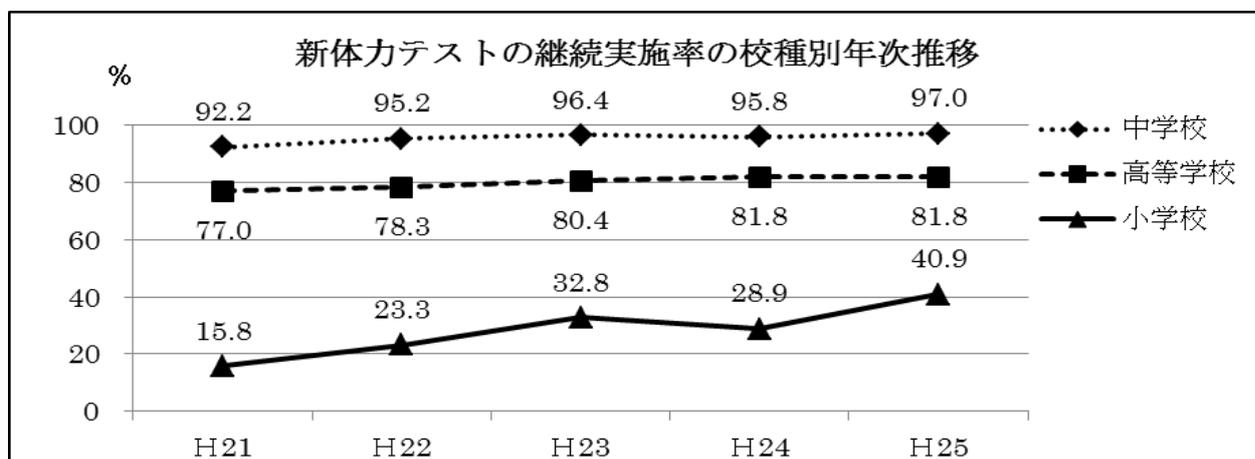
④ 学校全体で児童生徒の運動習慣を確立するために、体育・保健体育の授業時間以外で手立てを講じている割合



【平成25年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査 学校質問紙】

- ・ 児童生徒の運動習慣を確立するために、体育・保健体育の授業以外の時間に手立てをしている小学校の割合は約77%、中学校の割合は約51%で、全国平均より小さい。

⑤ 新体力テストを継続的に実施している学校の割合（継続実施率（\*1））



【三重県教育委員会調べ】

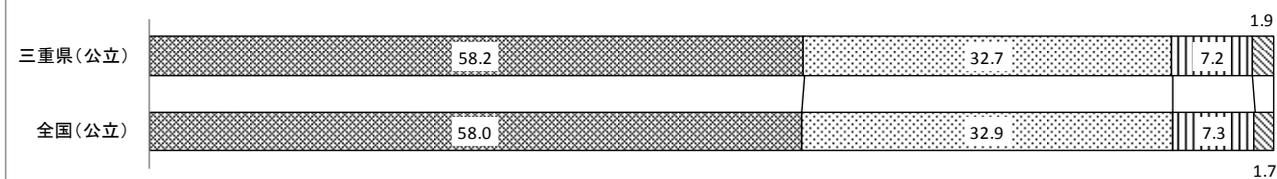
- ・ 小学校の新体力テストの継続実施率は、上昇してきているものの、中・高等学校と比較して低い状況にある。

\*1 新体力テストの継続実施率：「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」の実施や「三重県児童生徒の体力・運動能力調査」の抽出の有無に関わらず、新体力テストを毎年継続して実施している学校の割合



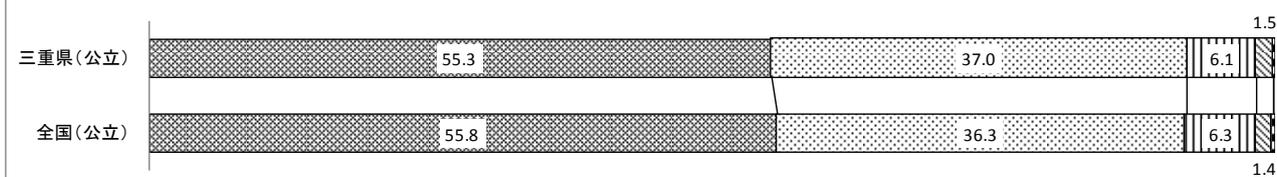
### 「毎日、同じくらいの時刻に起きていますか」への回答(小学校)

■起きている □どちらかといえば、起きている □あまりしていない □全くしていない



### 「毎日、同じくらいの時刻に起きていますか」への回答(中学校)

■起きている □どちらかといえば、起きている □あまりしていない □全くしていない □その他・無回答している



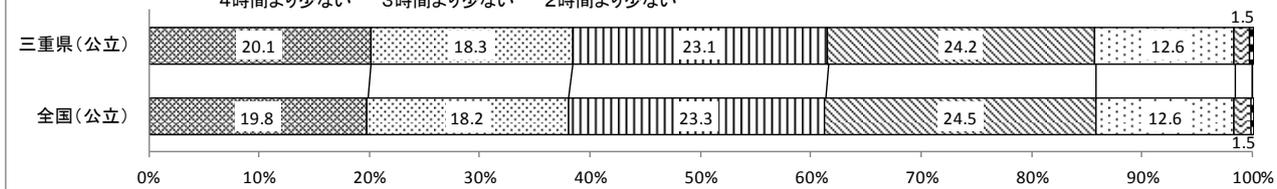
#### 【平成26年度全国学力・学習状況調査 児童生徒質問紙】

- 毎日、同じくらいの時刻に起きている、どちらかといえば起きていると肯定的な回答をしている小学6年生の割合は約91%、中学3年生の割合は約92%で、全国平均とほぼ同じである。

### ③ 普段(月～金曜日)のテレビやビデオ・DVDの視聴時間

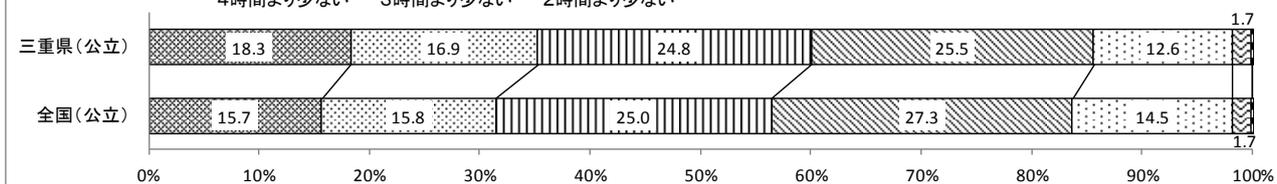
#### 「普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、テレビやビデオ・DVDを見たり、聞いたりしますか(テレビゲーム除く)」への回答(小学校)

■4時間以上 □3時間以上、4時間より少ない □2時間以上、3時間より少ない □1時間以上、2時間より少ない □1時間より少ない □全く見たり、聞いたりしない □その他・無回答



#### 「普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、テレビやビデオ・DVDを見たり、聞いたりしますか(テレビゲーム除く)」への回答(中学校)

■4時間以上 □3時間以上、4時間より少ない □2時間以上、3時間より少ない □1時間以上、2時間より少ない □1時間より少ない □全く見たり、聞いたりしない □その他・無回答

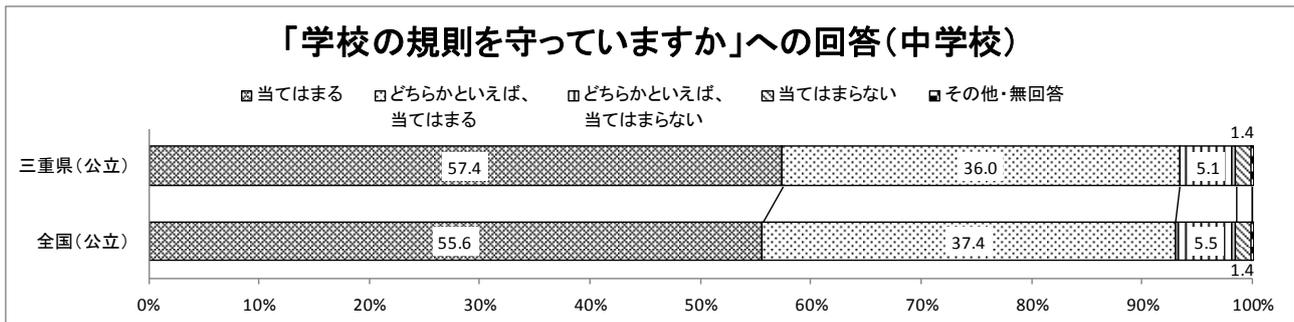
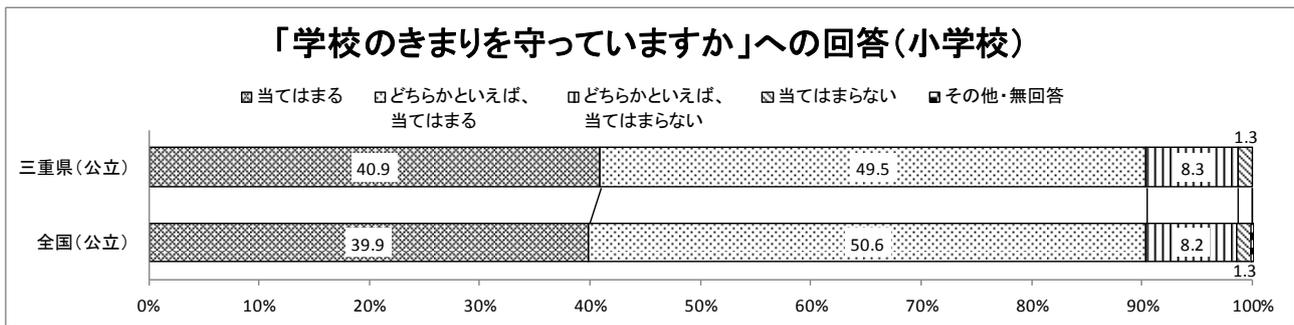


#### 【平成26年度全国学力・学習状況調査 児童生徒質問紙】

- 普段(月～金曜日)に、2時間以上テレビ等を視聴する小学6年生の割合は約62%で、全国平均とほぼ同じである。一方、中学3年生の割合は60%で、全国平均より約3%大きい。

(4) 規範意識・道徳心・自尊感情

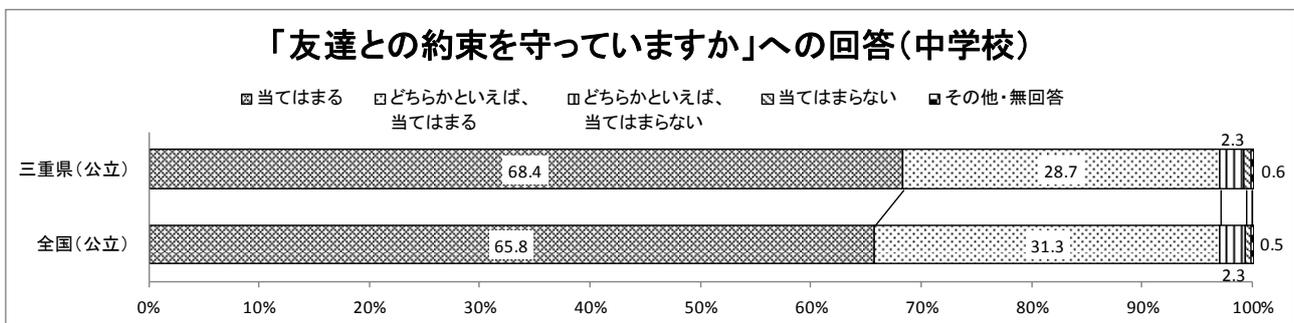
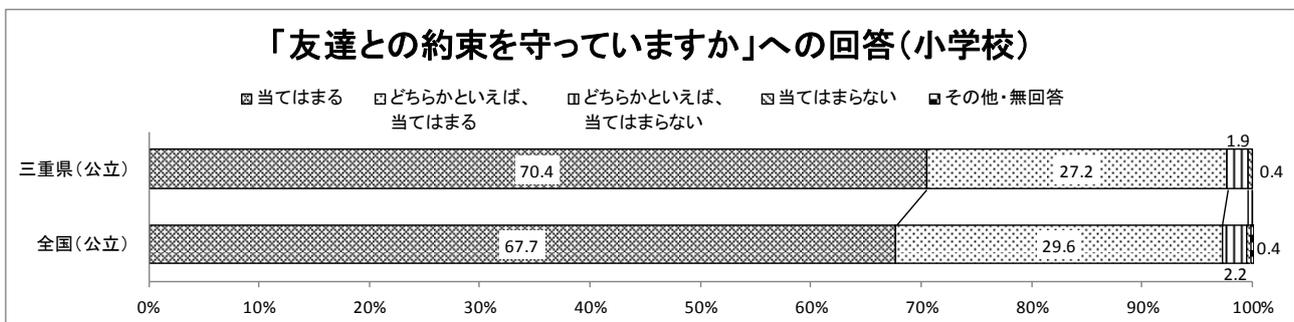
① 学校のきまりを守ること



【平成26年度全国学力・学習状況調査 児童生徒質問紙】

- ・ 学校のきまり（規則）を守っている、どちらかといえば守っていると肯定的な回答をしている小学6年生、中学3年生の割合は、ともに90%を超えている。

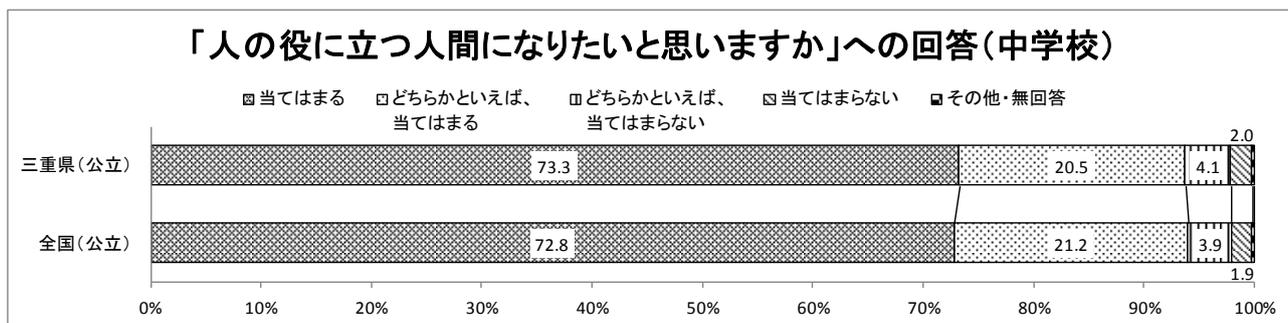
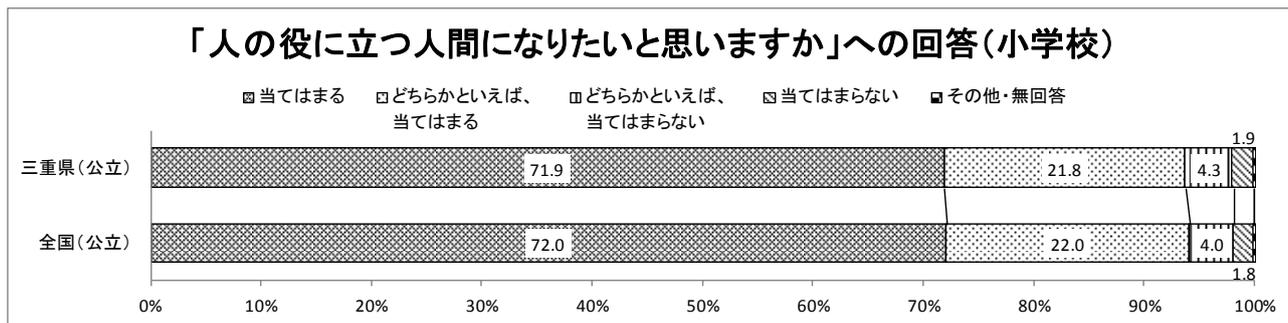
② 友達との約束を守ること



【平成26年度全国学力・学習状況調査 児童生徒質問紙】

- ・ 友達との約束を守っている、どちらかといえば守っていると肯定的な回答をしている小学6年生、中学3年生の割合は、ともに97%を超えており、全国平均よりも大きい。

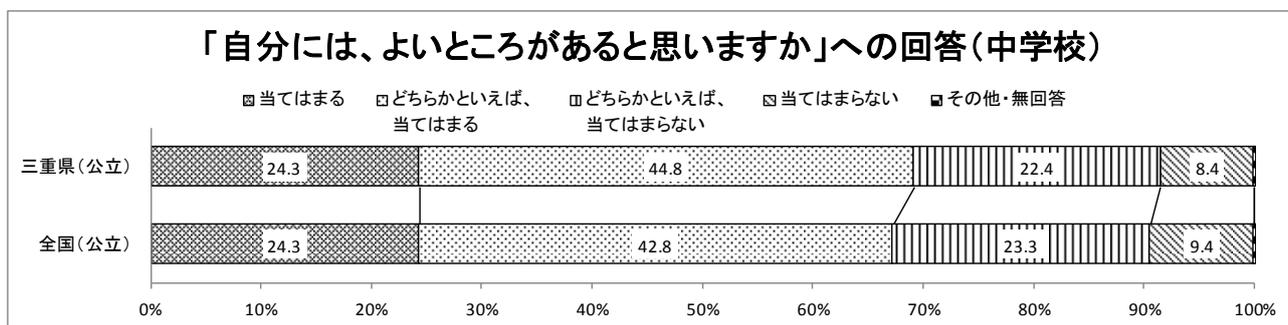
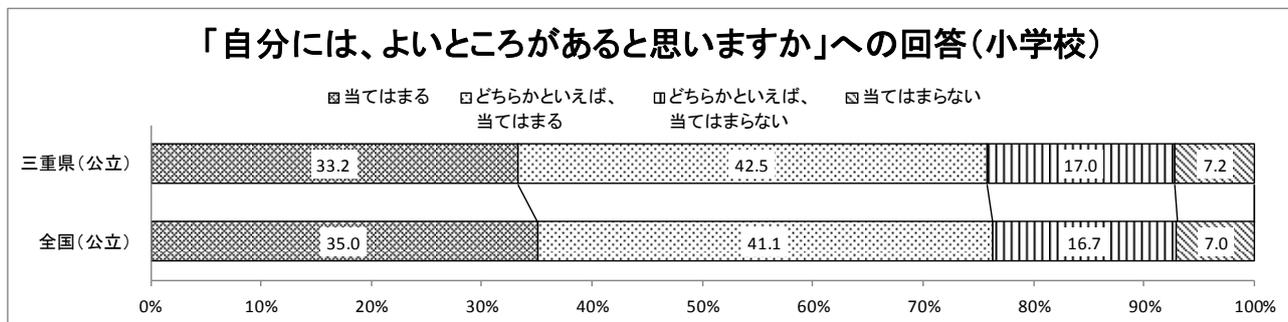
③ 人の役に立つ人間になりたいという意識



【平成26年度全国学力・学習状況調査 児童生徒質問紙】

- ・ 人の役に立つ人間になりたい、どちらかといえばなりたいたいと肯定的な回答をしている小学6年生、中学3年生の割合は、ともに93%を超えている。

④ 自分には、よいところがあるという意識

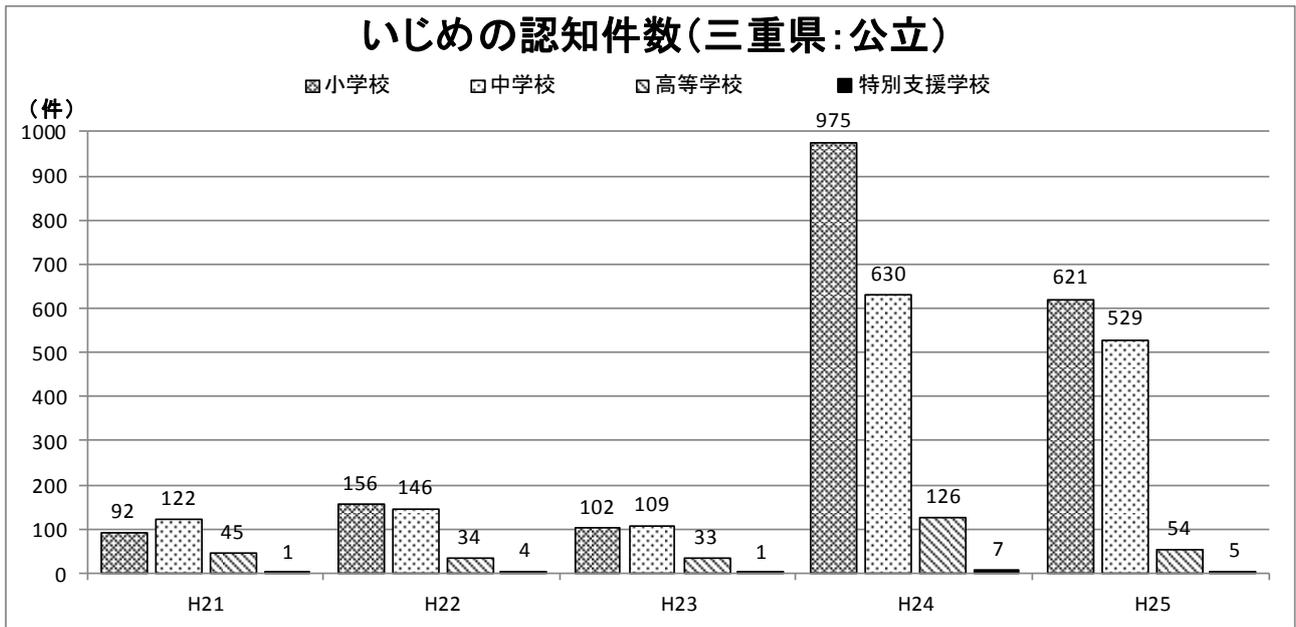


【平成26年度全国学力・学習状況調査 児童生徒質問紙】

- ・ 自分にはよいところがある、どちらかといえばあると肯定的な回答をしている小学6年生の割合は約76%で、全国平均とほぼ同じである。一方、中学3年生の割合は約68%で、全国平均より大きい。

(5) いじめ・不登校等の状況

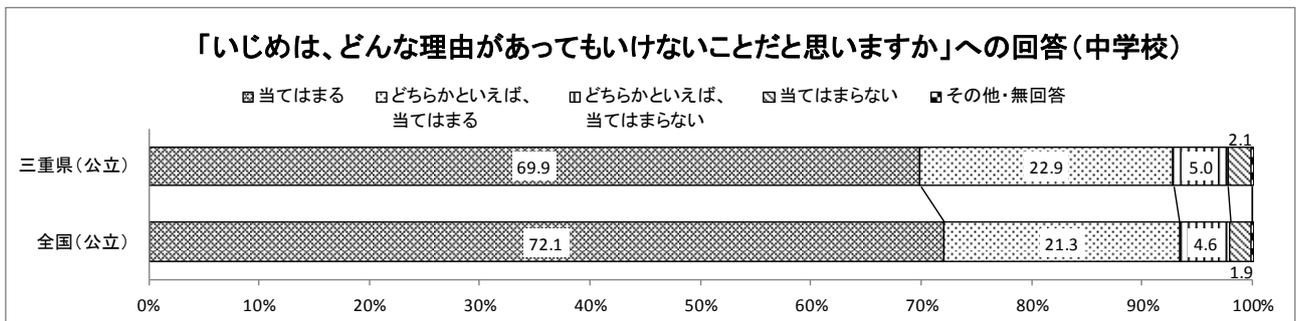
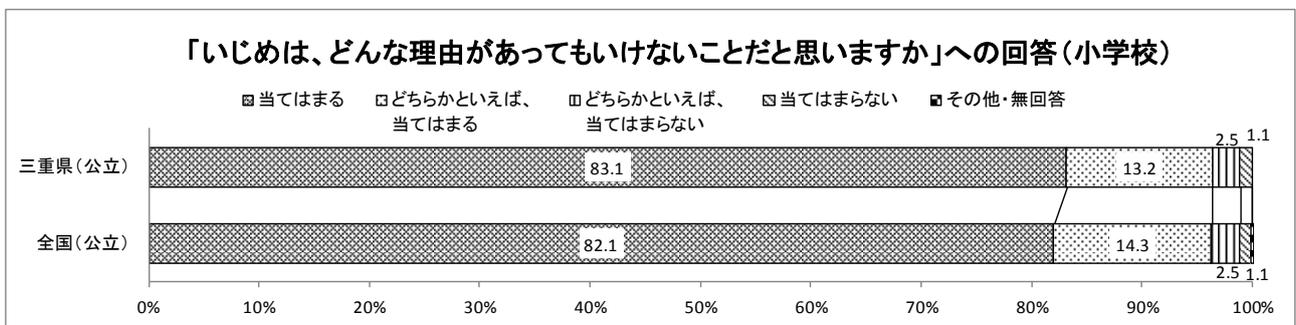
① いじめの認知件数の推移



【児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査（文部科学省）】

- 平成25年度のいじめ認知件数は減少している。平成25年度に「いじめ防止対策推進法」が施行となり、各学校において、法やいじめ防止基本方針に基づいたいじめ防止のための取組の充実が図られたことにより、未然防止につながったと考えられる。

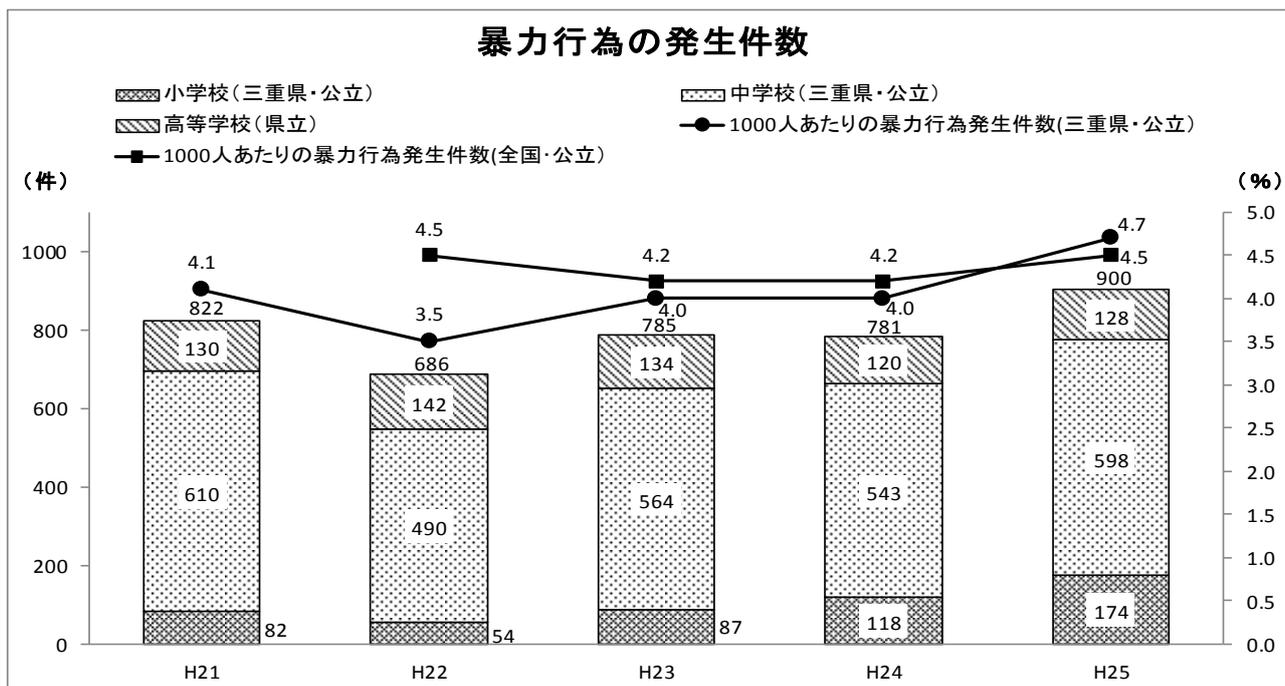
② いじめに対する考え方



【平成26年度全国学力・学習状況調査 児童生徒質問紙】

- いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う、どちらかといえば思うと肯定的な回答をしている小学6年生、中学3年生の割合は、ともに90%を超えている。特に、小学6年生では約96%が肯定的な回答をしている。

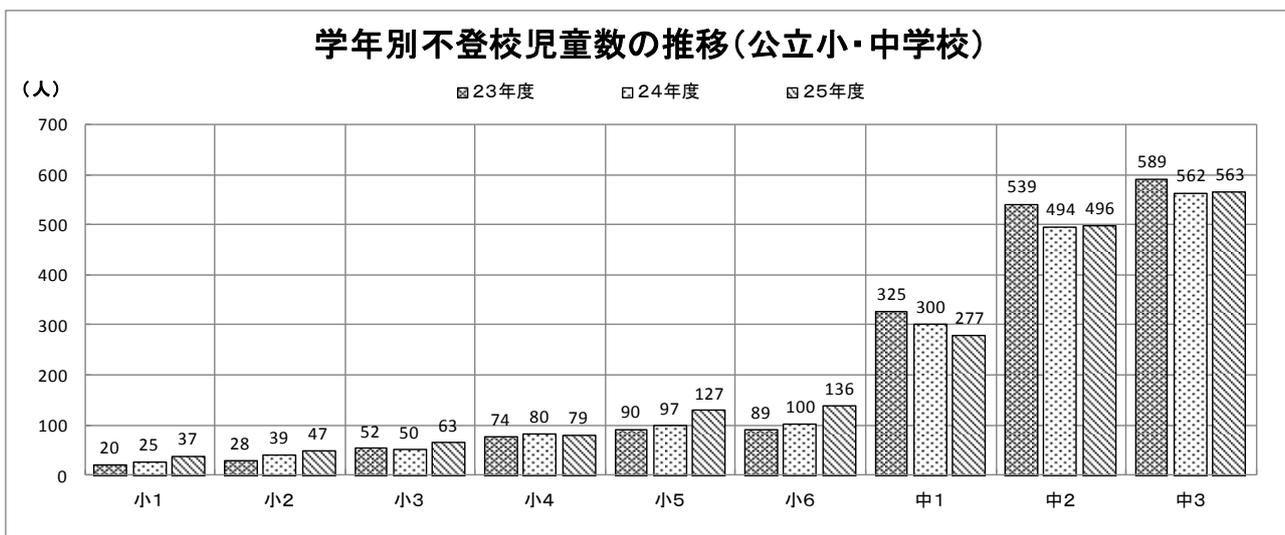
③ 暴力行為の発生件数の推移



【児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査（文部科学省）】

- 暴力行為の発生件数は、どの校種でも増加傾向であるが、特に小学校での件数が増加傾向にある。1000人あたりの発生件数については、三重県同様、全国も増加傾向にある。

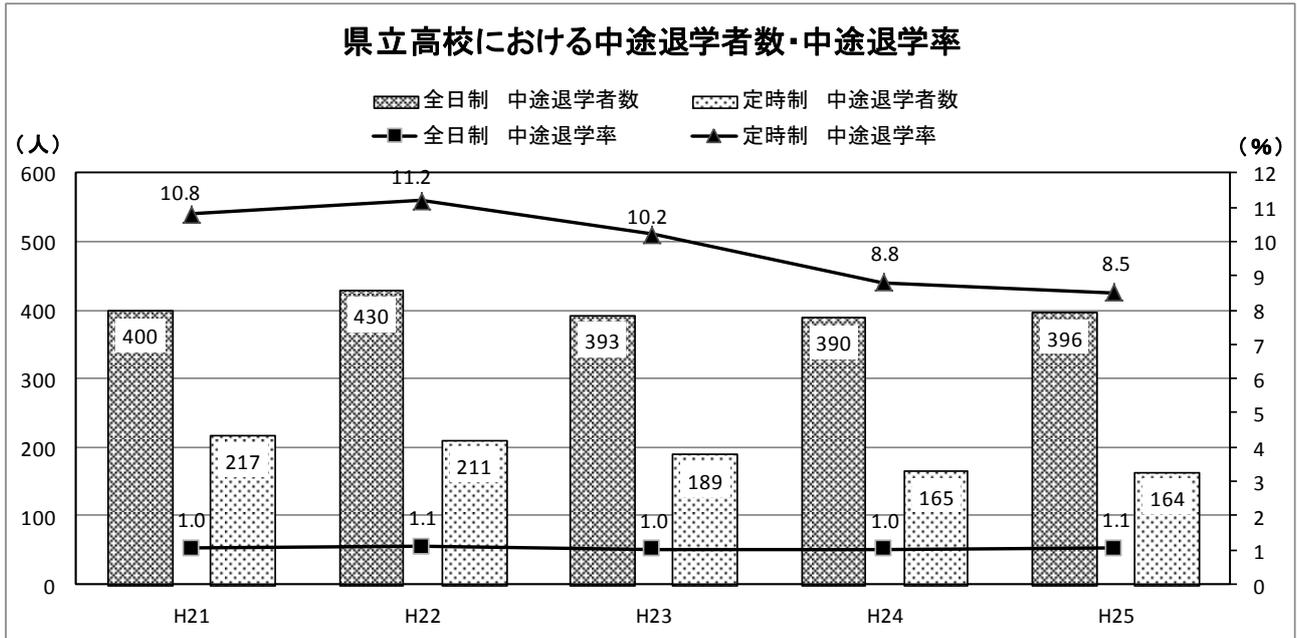
④ 学年別不登校児童生徒数の推移（三重県）



【児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査（文部科学省）】

- 中学1年生で不登校生徒が急増する傾向にあり、中学3年生で最も多くなっている。

⑤ 県立高校における中途退学者数および中途退学率の推移（三重県）

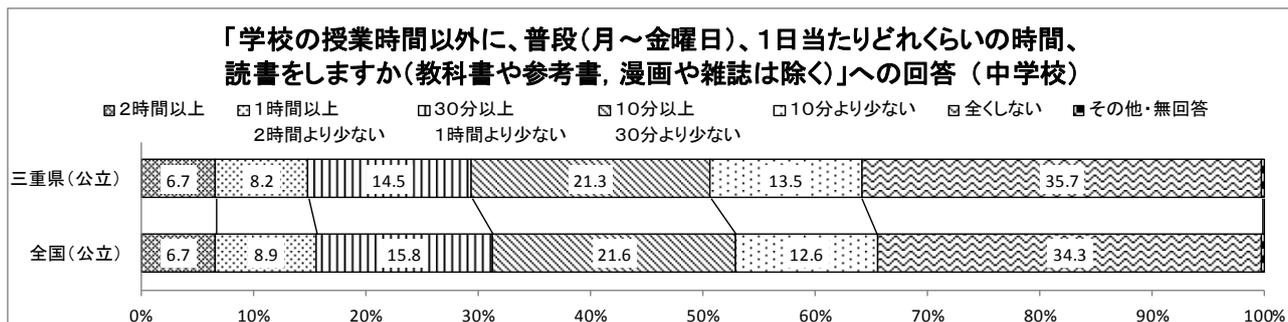
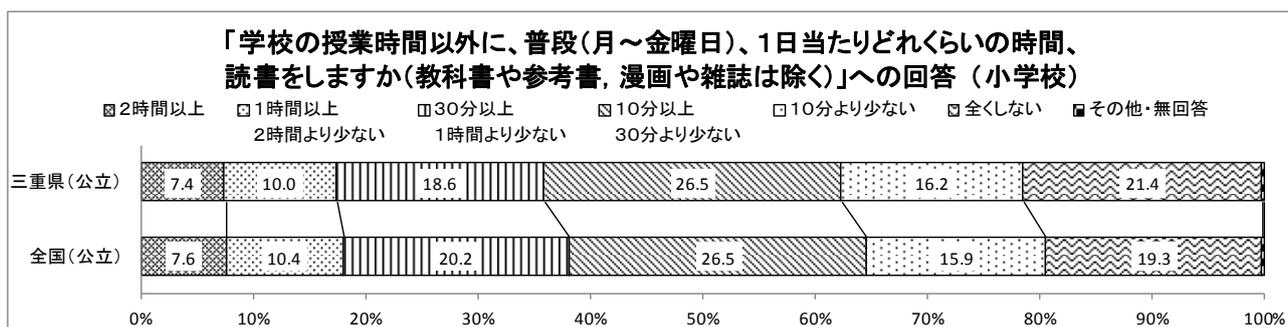


【児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査（文部科学省）】

- ・ 中途退学者数・中途退学率は、全日制においては横ばい傾向、定時制においては減少傾向にある。

## (6) 読書活動

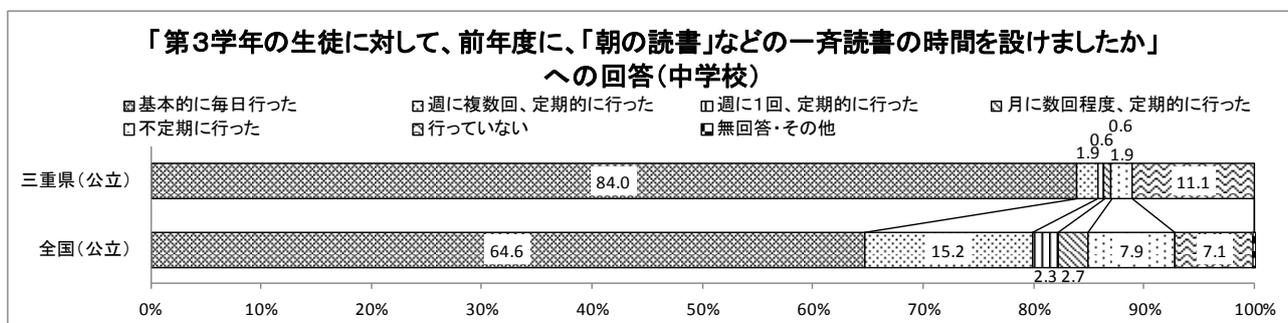
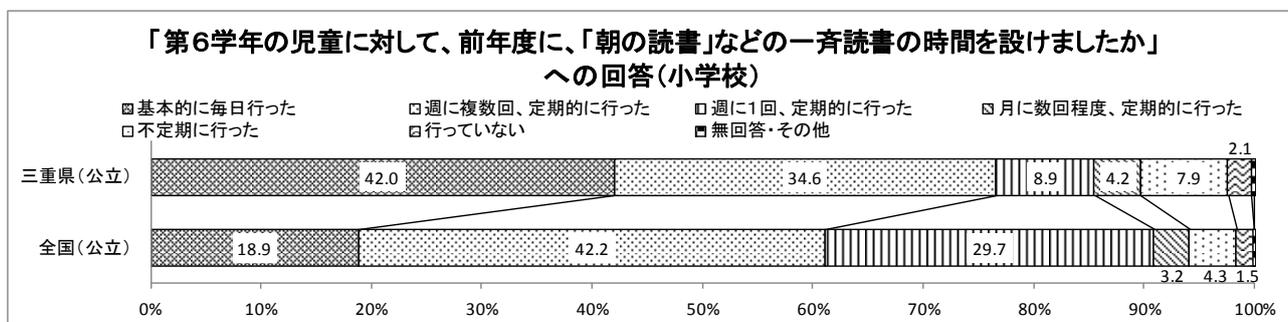
### ① 平日の1日当たりの読書時間



【平成26年度全国学力・学習状況調査 児童生徒質問紙】

- ・ 普段(月～金曜日)に1日当たり30分以上読書している小学6年生、中学3年生の割合は、全国平均より小さい。特に、中学3年生では、約36%が全く読書をしていない。

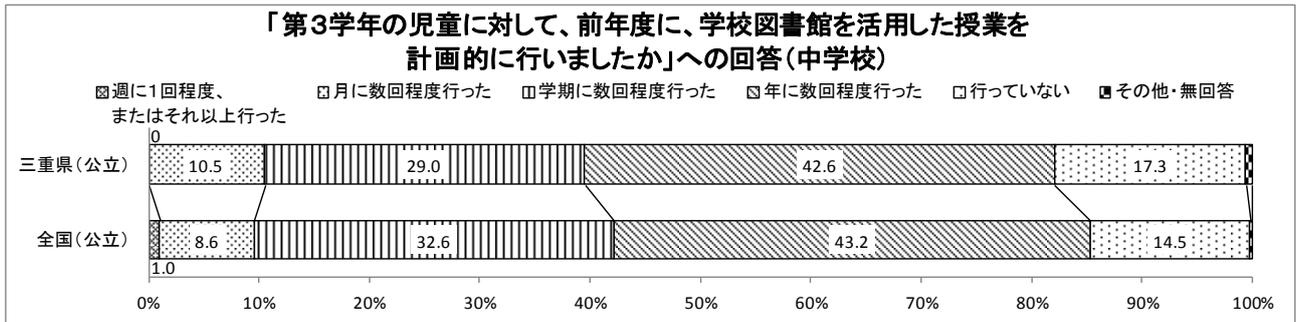
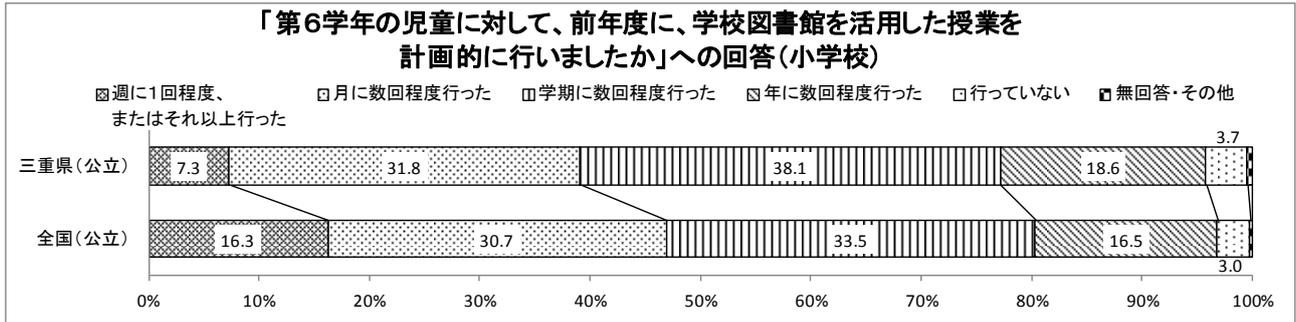
### ② 一斉読書の実施状況



【平成26年度全国学力・学習状況調査 学校質問紙】

- ・ 一斉読書の時間を「基本的に毎日行った」「週に複数回、定期的に行った」と回答している小学校の割合は約77%、中学校の割合は約86%で、ともに全国平均より大きい。

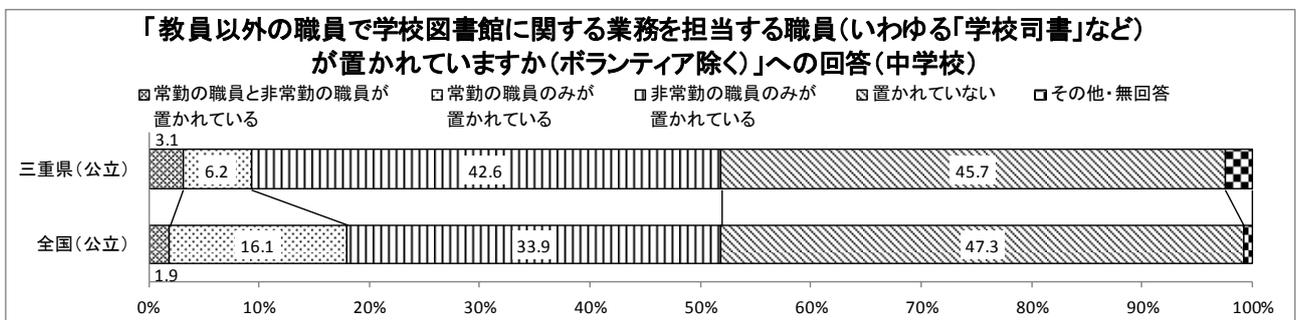
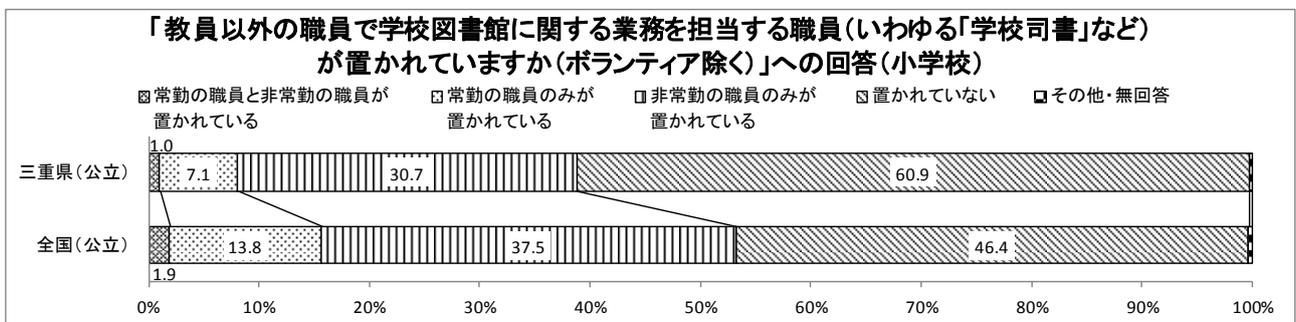
③ 学校図書館を活用した授業の実施状況



【平成26年度全国学力・学習状況調査 学校質問紙】

- 学校図書館を活用した授業を「週に1回程度、またはそれ以上行った」「月に数回程度行った」「学期に数回程度行った」と回答している小学校の割合は約77%、中学校の割合は約40%で、ともに全国平均より小さい。

④ 学校図書館担当職員の配置状況

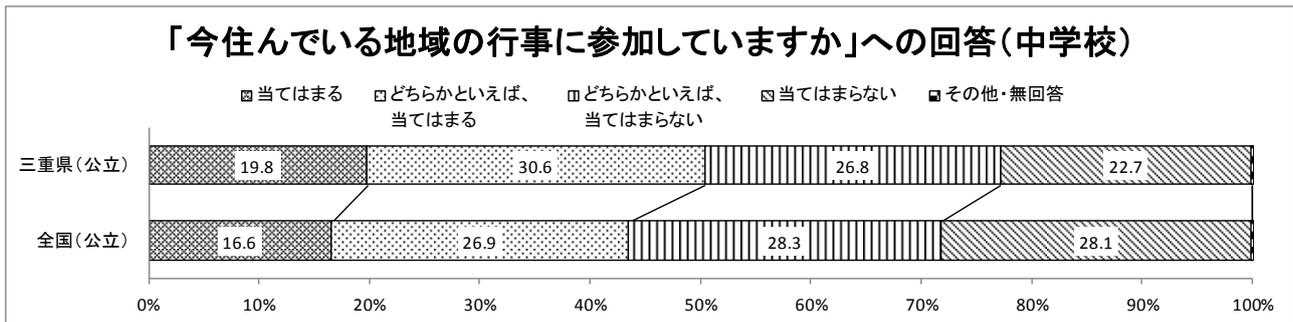
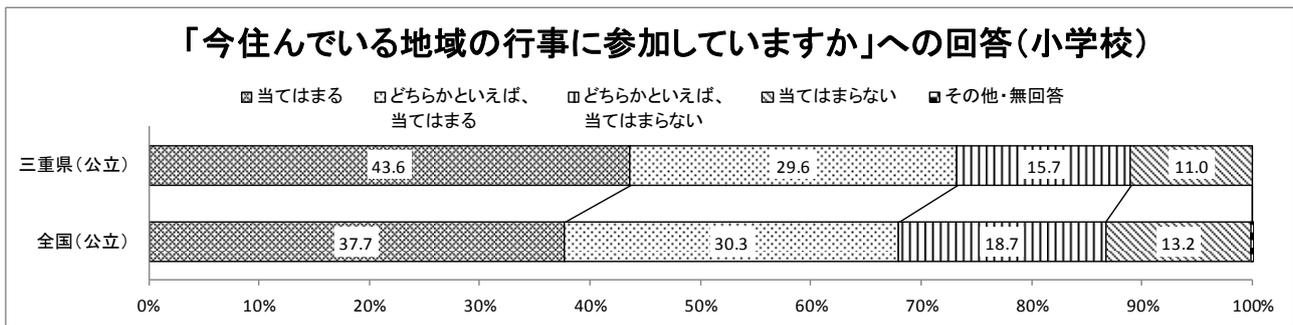


【平成26年度全国学力・学習状況調査 学校質問紙】

- 学校図書館担当職員(常勤もしくは非常勤)が配置されている小学校の割合は約39%で、全国平均よりも小さい。一方、中学校における割合は約52%で、全国平均と同じである。

(7) 文化芸術活動

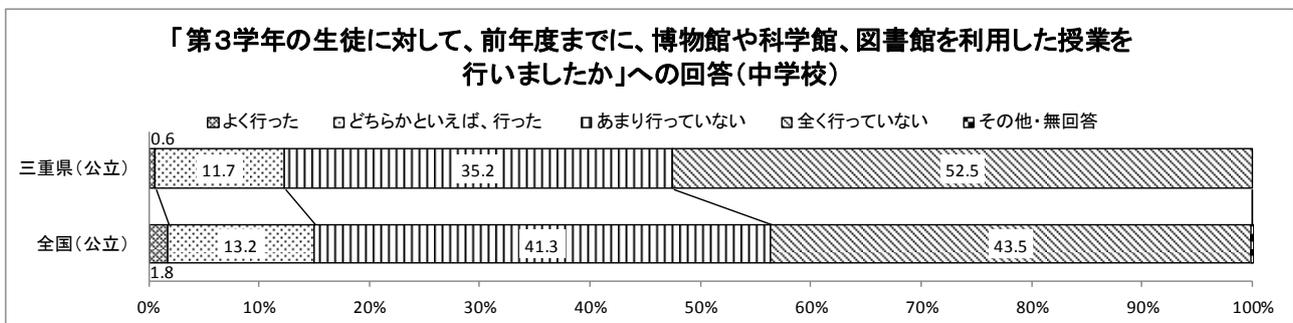
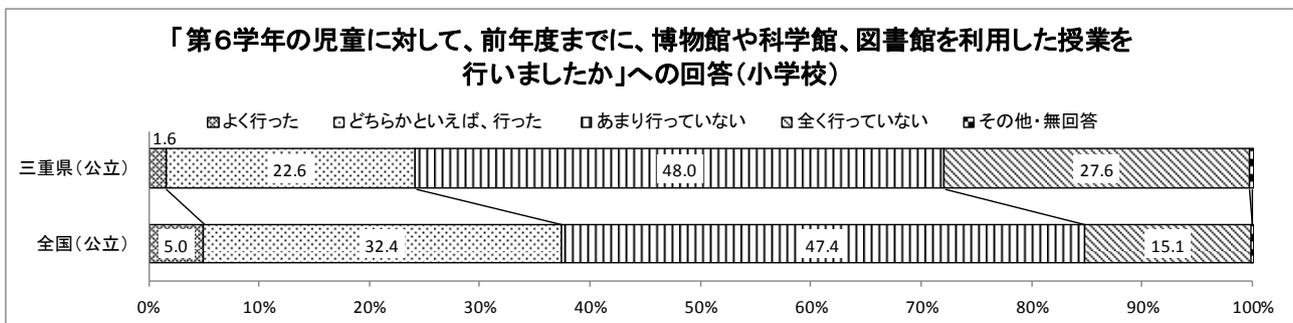
① 住んでいる地域の行事への参加



【平成26年度全国学力・学習状況調査 児童生徒質問紙】

- ・ 地域の行事に参加している、どちらかといえば参加していると肯定的な回答をしている小学6年生の割合は約73%、中学3年生の割合は約50%で、ともに全国平均より大きい。

② 博物館や科学館、図書館を利用した授業の実施状況

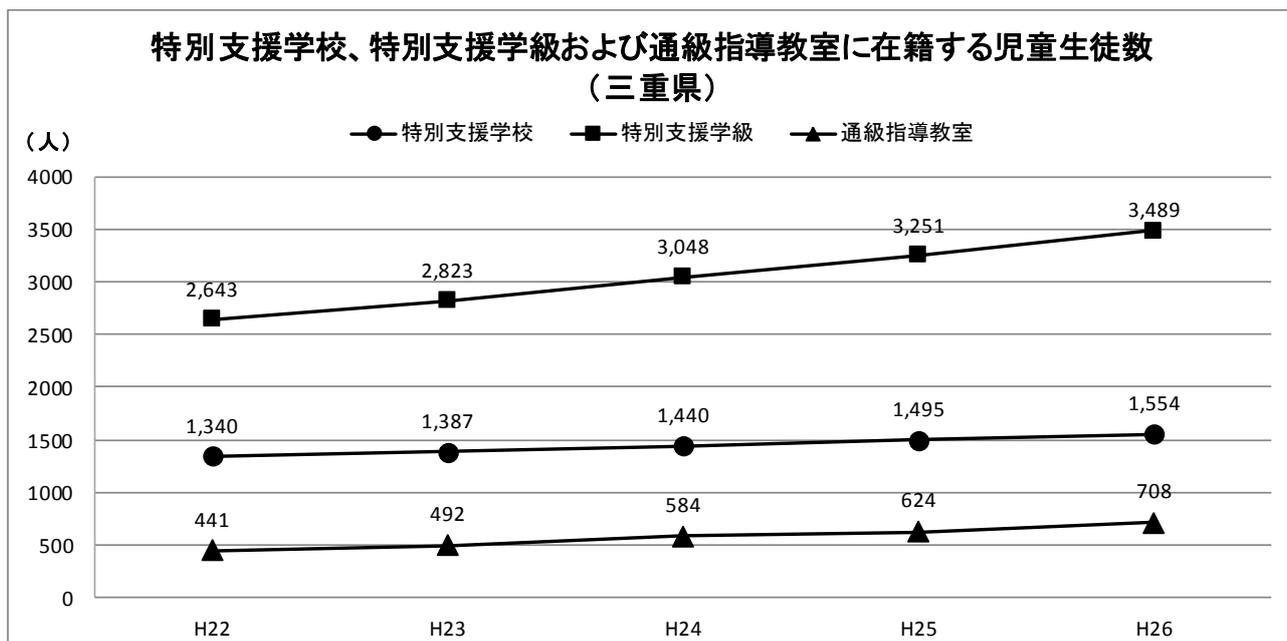


【平成26年度全国学力・学習状況調査 学校質問紙】

- ・ 博物館や科学館、図書館を利用した授業をよく行った、どちらかといえば行った小学校の割合は約24%、中学校の割合は約12%にとどまっている。特に、小学校では約13%小さい。

(8) 特別支援教育

① 特別支援学級等に在籍する児童生徒数の推移



【三重県教育委員会調べ】

- 全体として増加傾向にあるが、特別支援学級の在籍者数の増加が最も多い。

② 発達障がいの可能性のある児童生徒数の割合

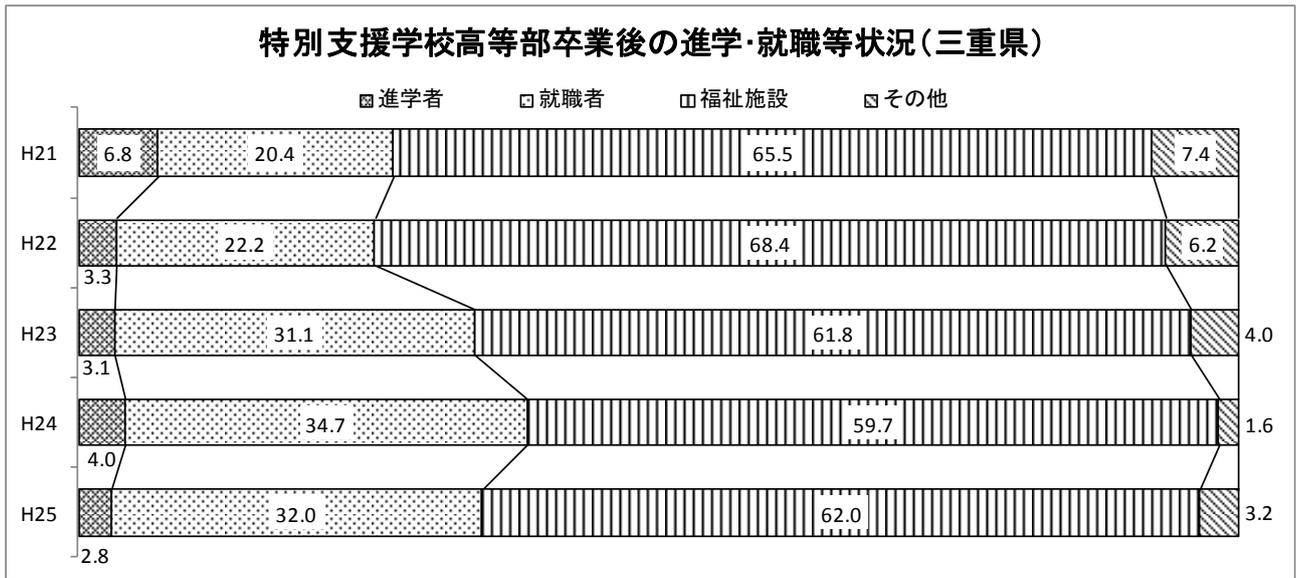
	小学校 (H23) * 公立小学校抽出(全国)	中学校 (H23) * 公立中学校抽出(全国)	高等学校 (H25) * 全県立高校(三重県)
児童生徒数の割合 (%)	7.7	4.0	1.4

※小中学校の結果【通常の学級に在籍する発達障害の可能性のある特別な教育的支援を必要とする児童生徒に関する調査 (文部科学省)】

※高等学校の結果【県立高等学校に在籍する発達障がいの可能性のある生徒に関する調査 (三重県教育委員会)】

- 学校種が上がるほど、発達障がいの可能性のある児童生徒の割合は小さくなっている。

③ 特別支援学校卒業生の進路状況

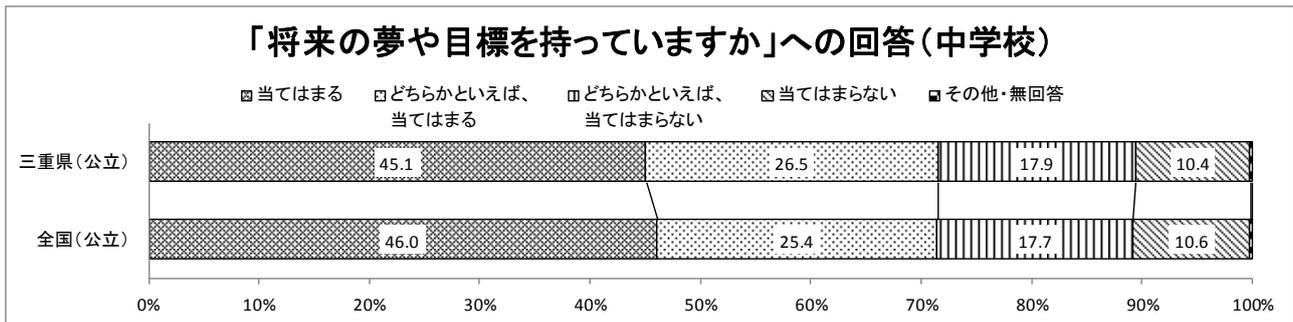
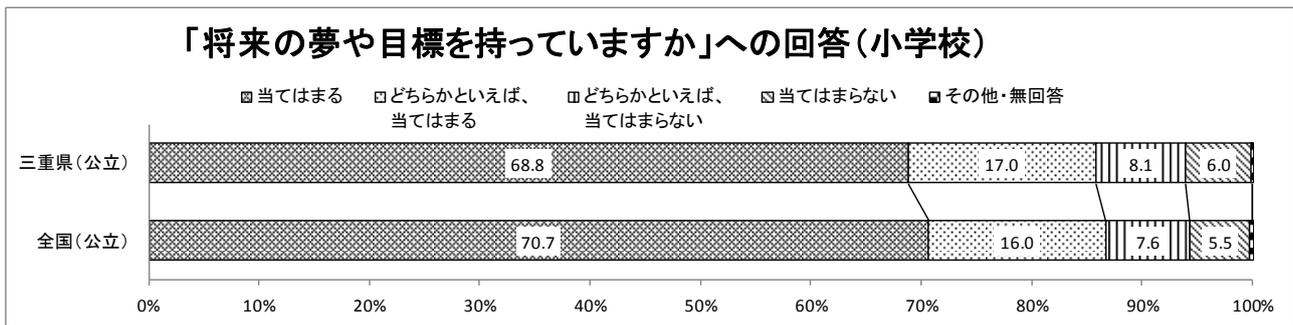


【三重県教育委員会調べ】

- ・ 就職者が増加傾向となっている。

(9) キャリア教育・進路

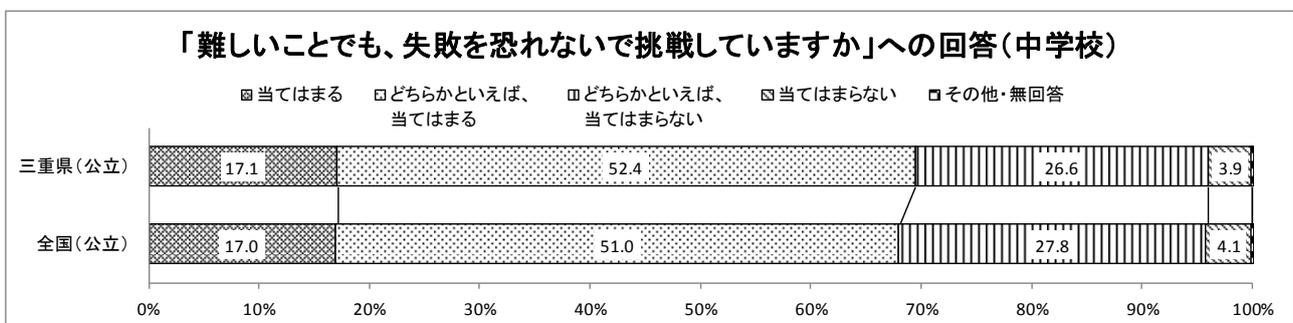
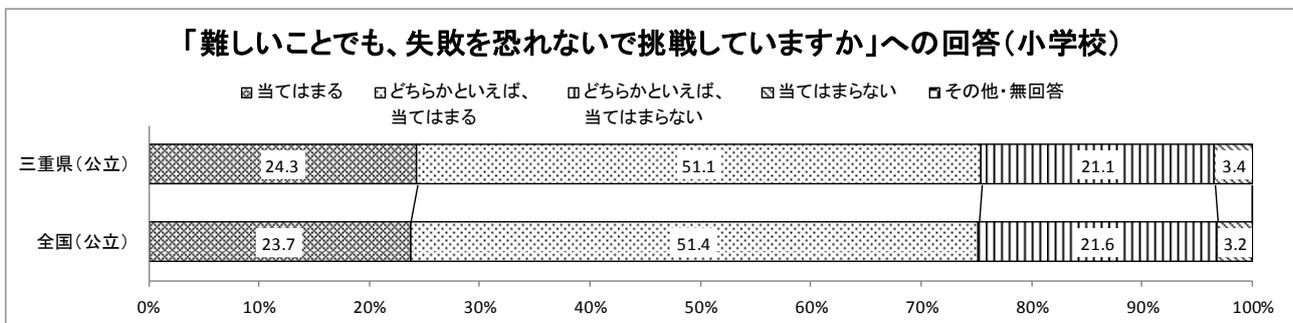
① 将来の夢や目標の有無



【平成26年度全国学力・学習状況調査 児童生徒質問紙】

- ・ 将来の夢や目標を持っている、どちらかといえば持っているとは肯定的な回答をしている小学6年生の割合は約86%で、全国平均よりやや小さい。一方、中学3年生の割合は約72%で、全国平均よりやや大きい。

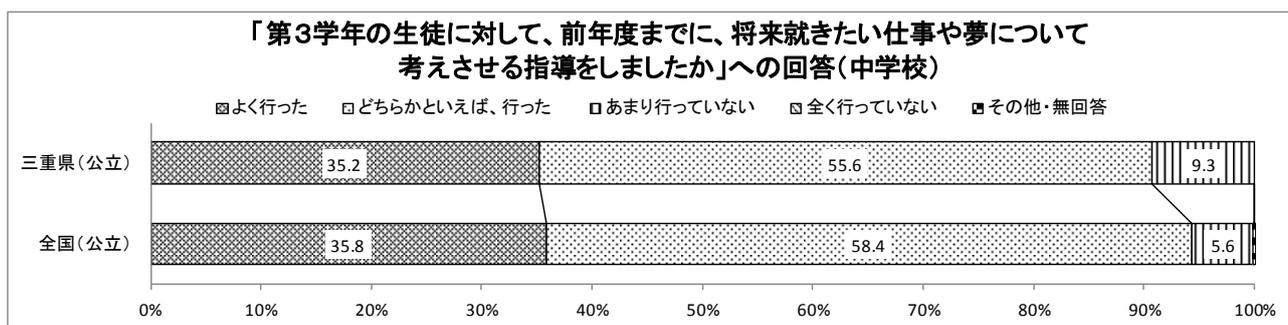
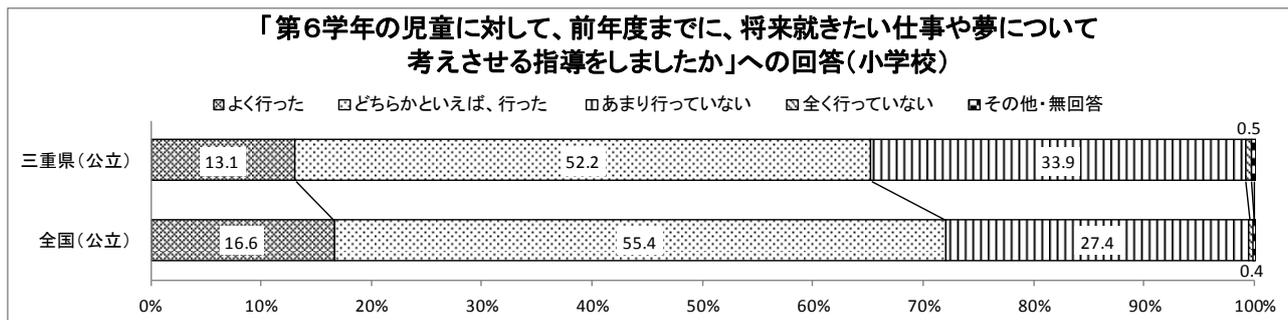
② チャレンジ精神



【平成26年度全国学力・学習状況調査 児童生徒質問紙】

- ・ 難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦している、どちらかといえば挑戦していると肯定的な回答している小学6年生の割合は約75%、中学3年生の割合は約70%で、ともに全国平均ほぼ同じである。

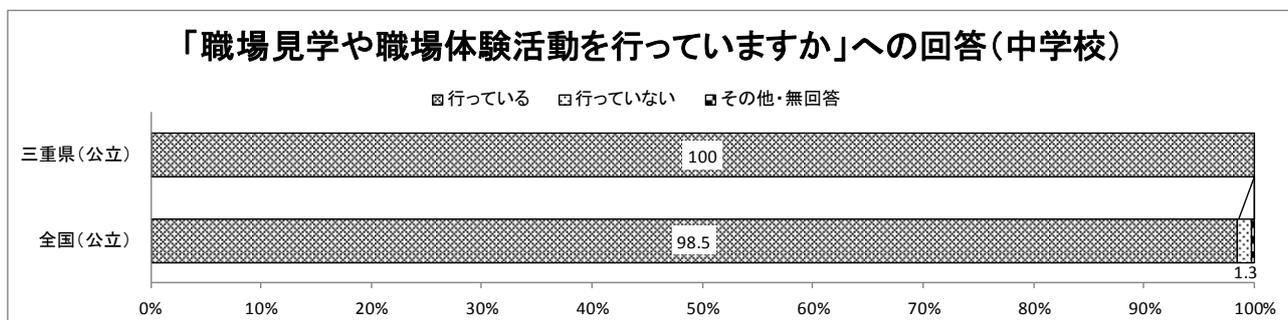
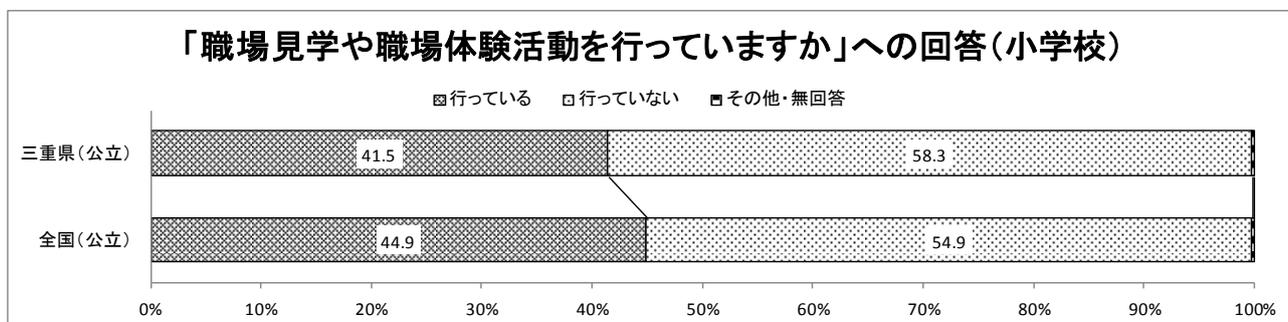
③ 将来就きたい仕事や夢について考えさせる指導



【平成26年度全国学力・学習状況調査 学校質問紙】

- ・ 将来就きたい仕事や夢について考えさせる指導をよく行った、どちらかといえば行ったと肯定的な回答をしている小学校の割合は約65%、中学校の割合は約91%で、ともに全国平均より小さい。

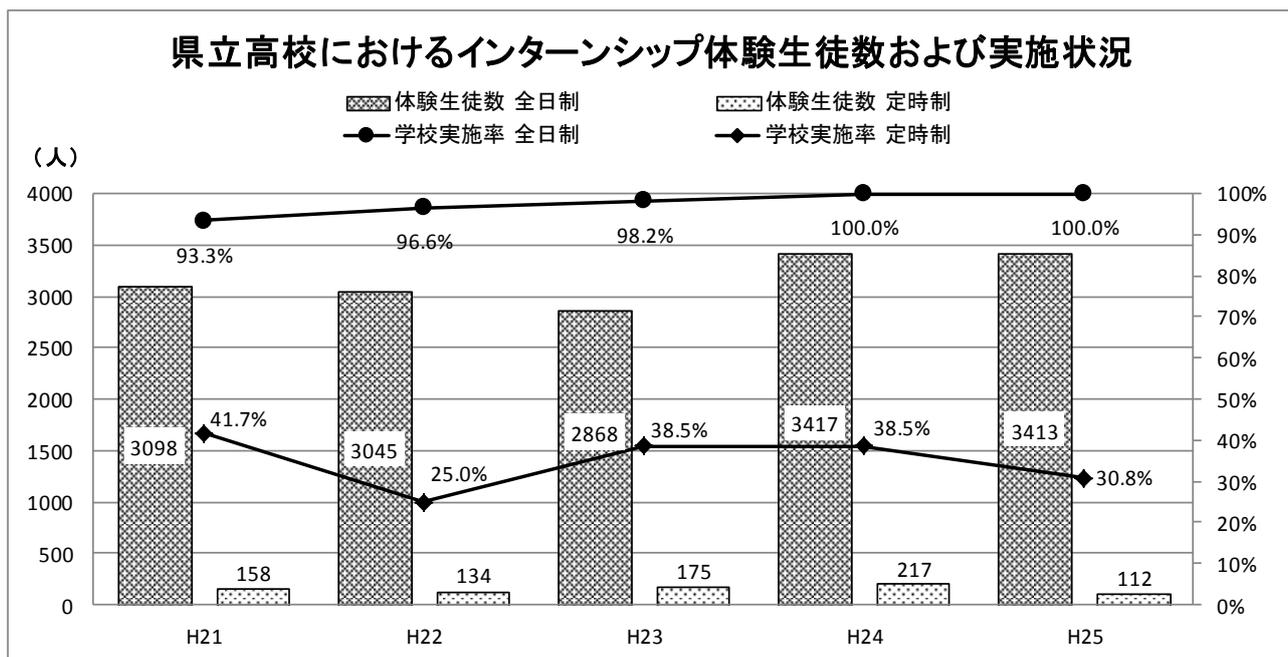
④ 職場見学・職場体験活動の実施状況



【平成26年度全国学力・学習状況調査 学校質問紙】

- ・ 職場見学・職場体験活動を行っている小学校の割合は、全国平均より小さい。一方、中学校の割合は100%となっており、すべての中学校で行われている。

⑤ 県立高校におけるインターンシップの実施状況（三重県）

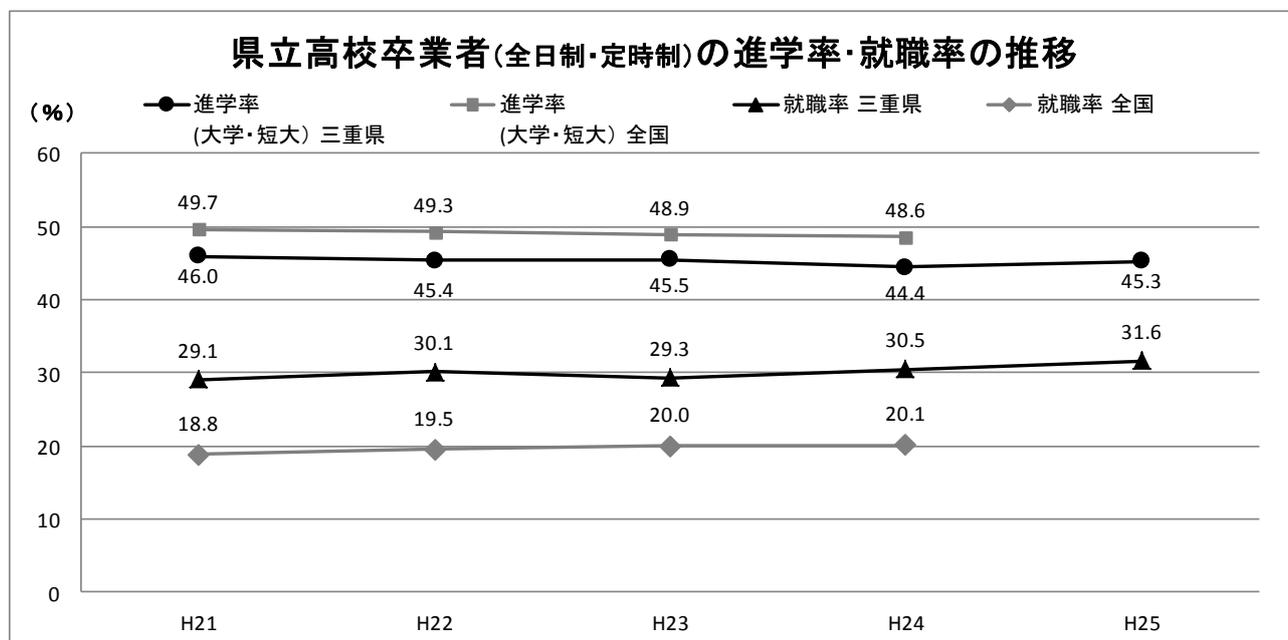


※ 体験生徒数は、在学中に1回以上体験した生徒（全日制においては3年生、定時制においては3・4年生）の数

【三重県教育委員会調べ】

- ・ 全日制高校におけるインターンシップ実施率は100%となっており、体験生徒の生徒全体に占める割合も増加傾向にある。

⑥ 県立高校卒業者の進学率・就職率の推移（三重県）

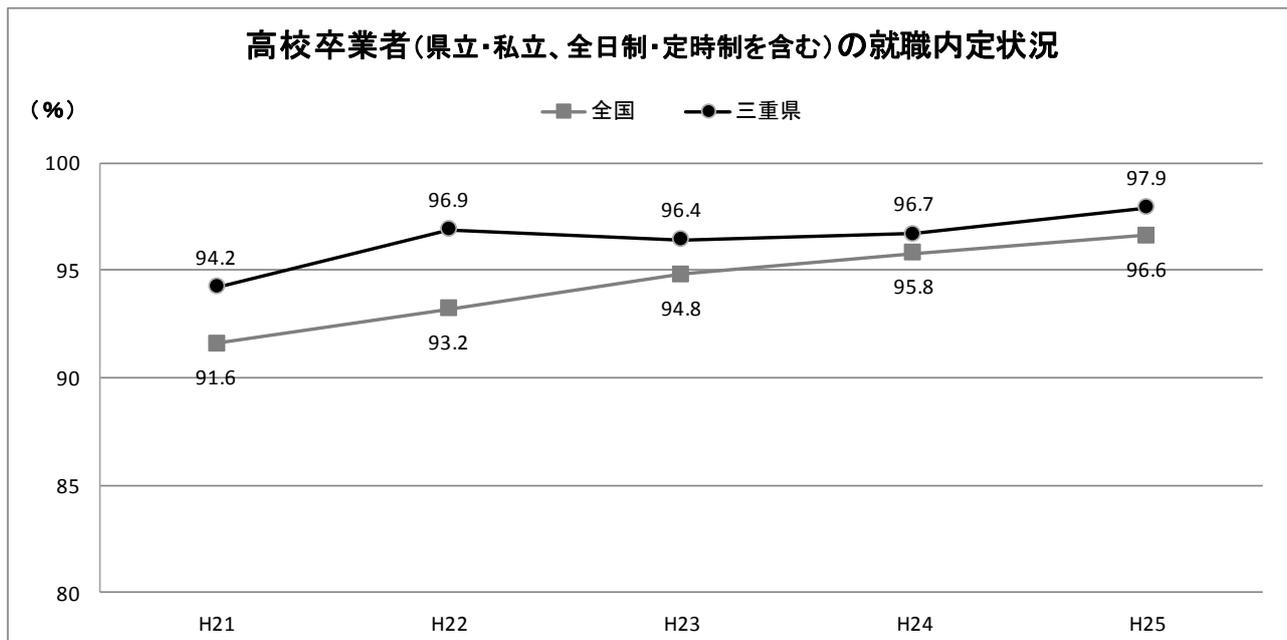


【学校基本調査（文部科学省）】

- ・ 大学・短大への進学率、就職率ともに過去5年間ほぼ同様の傾向となっている。全国に比べて進学率が低く、就職率が高くなっている。

\* H25の全国値は平成26年12月頃に確定。

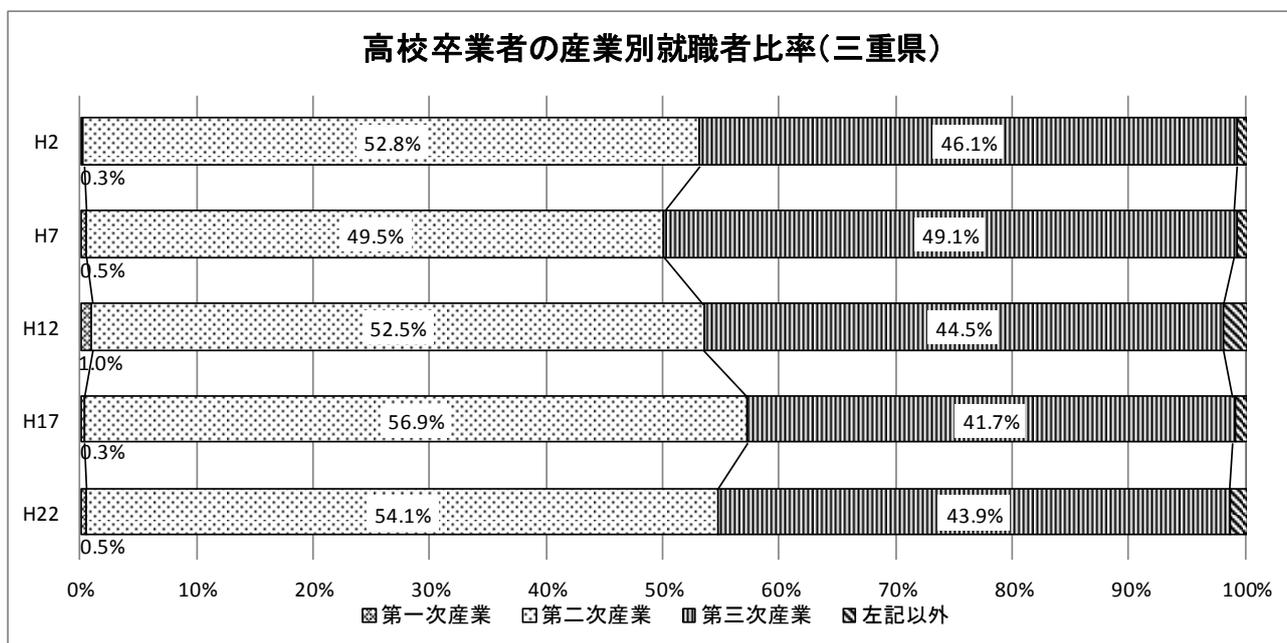
⑦ 高校卒業者（県立・私立、全日制・定時制を含む）の就職内定率の推移



【高等学校卒業者の就職状況に関する調査（文部科学省）】

- ・ 高校卒業者の就職内定率は、全国平均を上回っている。

⑧ 高校卒業者の産業別構成比の推移

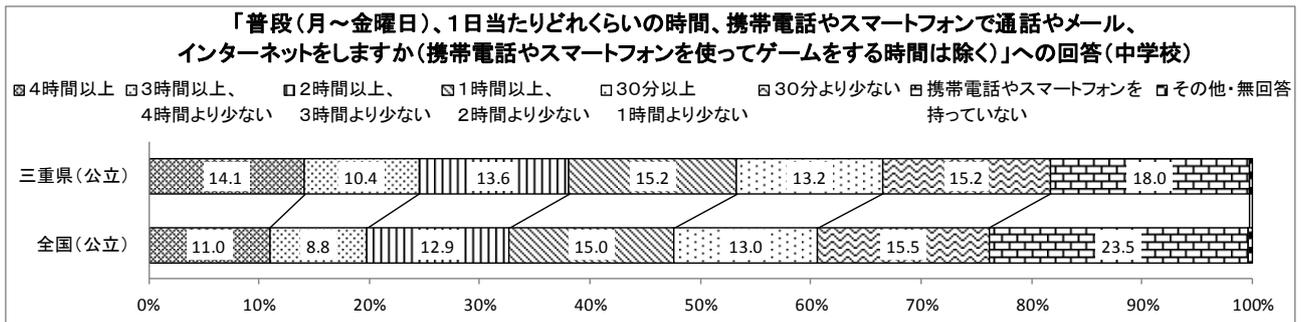
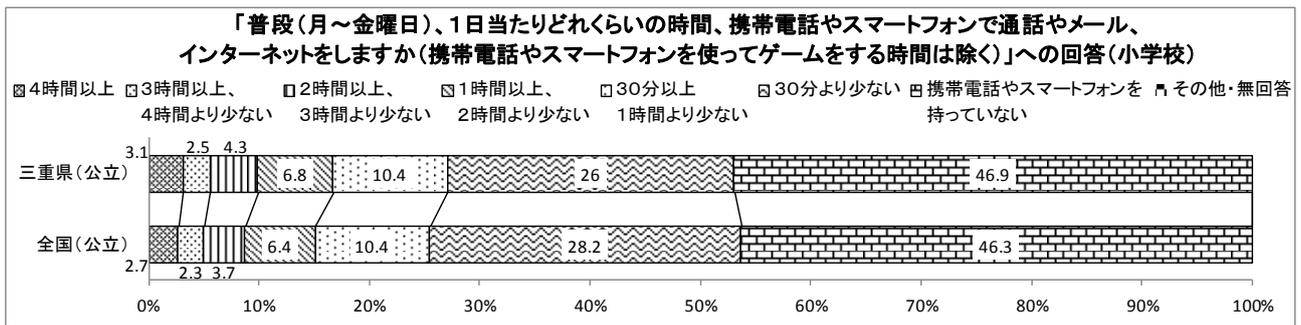


【国勢調査（総務省）】

- ・ 高校卒業者の就職産業の比率に大きな変化はない。

## (10) 情報モラル教育

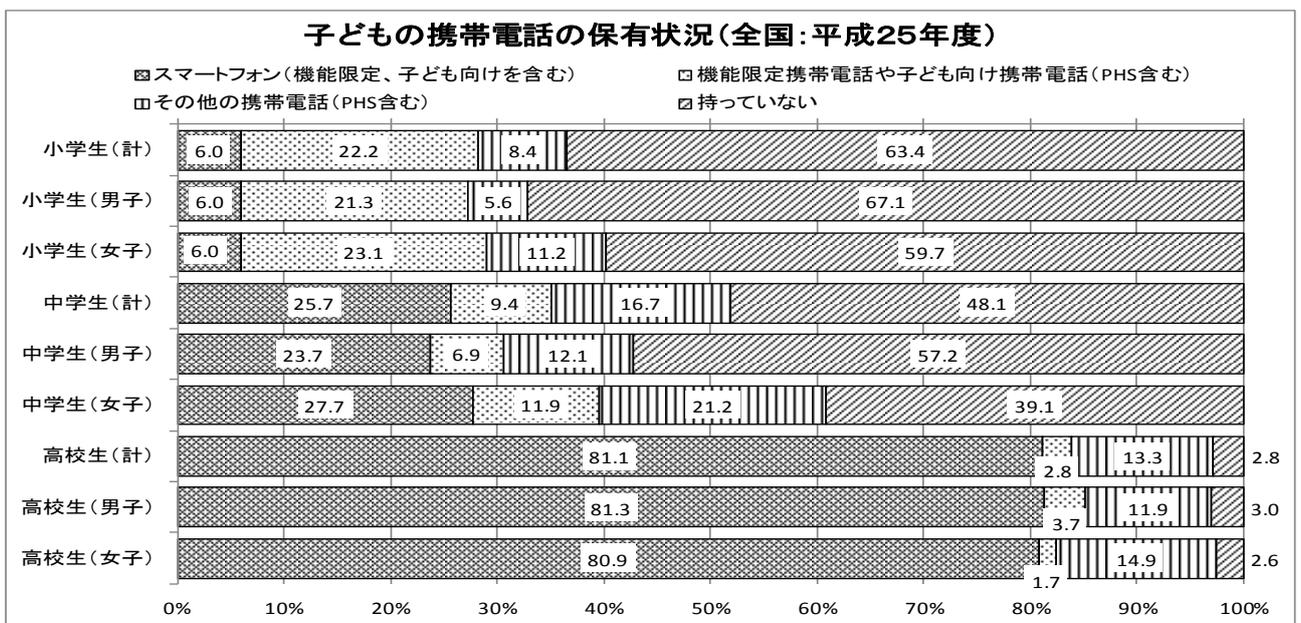
### ① 携帯電話やスマートフォンの使用状況



#### 【平成26年度全国学力・学習状況調査 児童生徒質問紙】

- ・ 普段(月～金曜日)、1日当たり1時間以上、携帯電話やスマートフォンで通話や、メール等をしている小学6年生の割合は約17%、中学3年生の割合は53%で、全国平均より大きい。特に、2時間以上と回答している中学3年生の割合は、約25%となっている。

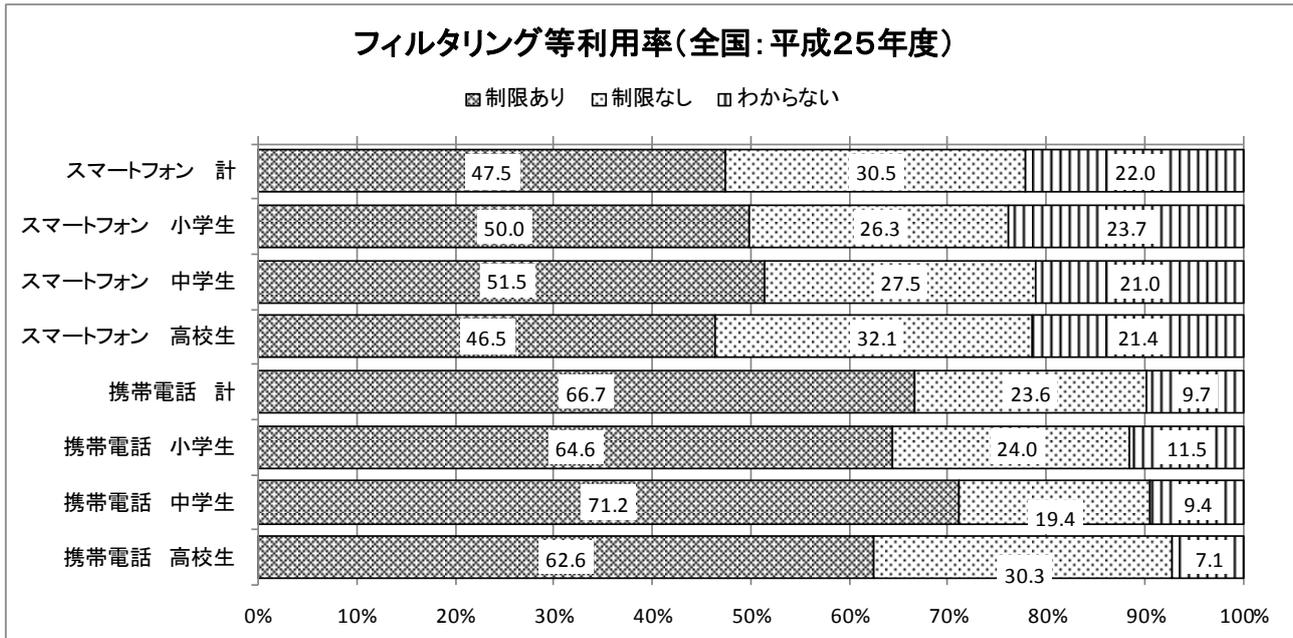
### ② 携帯電話等の保有状況



#### 【平成25年度青少年のインターネット利用環境実態調査(内閣府)】

- ・ 小学生では、「持っていない」が約63%であるが、中学生では約48%、高校生では約3%となっている。また、学校種が上がるほど、スマートフォンを保有する割合が大きくなっている。

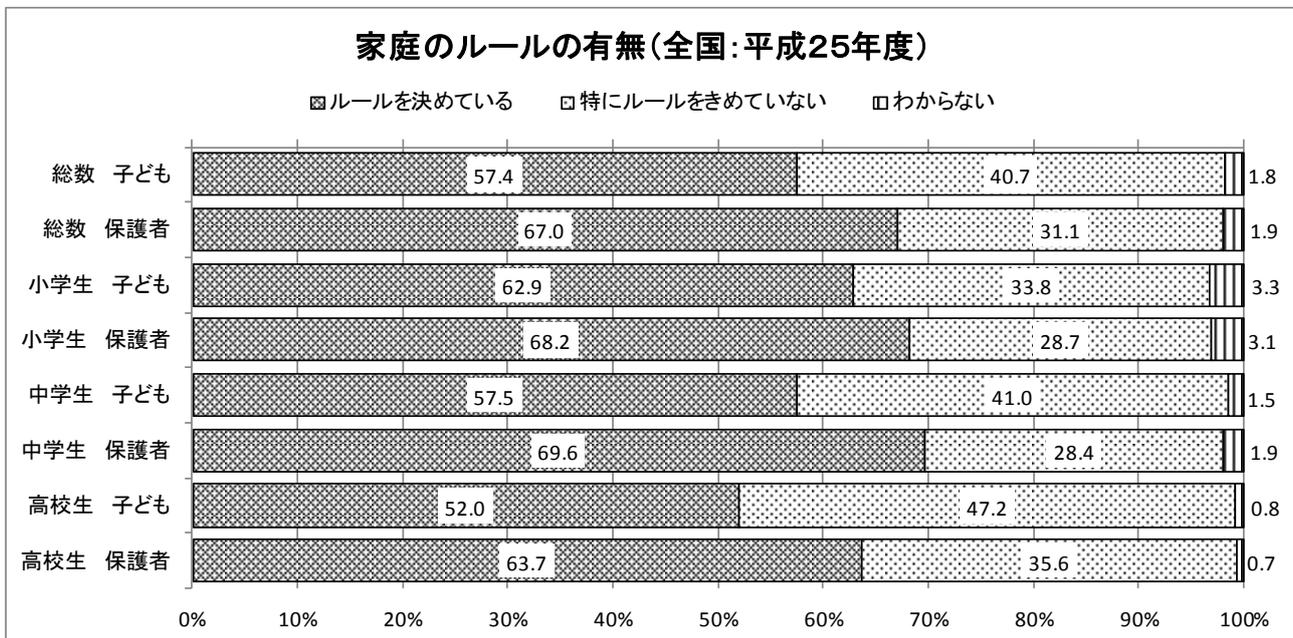
③ 携帯電話等のフィルタリング利用状況



【平成25年度青少年のインターネット利用環境実態調査（内閣府）】

- ・ 携帯電話・スマートフォンにおけるフィルタリング等利用率は、携帯電話に比べ、スマートフォンにおける利用率が低い。

④ インターネット利用に関する家庭のきまりの有無



【平成25年度青少年のインターネット利用環境実態調査（内閣府）】

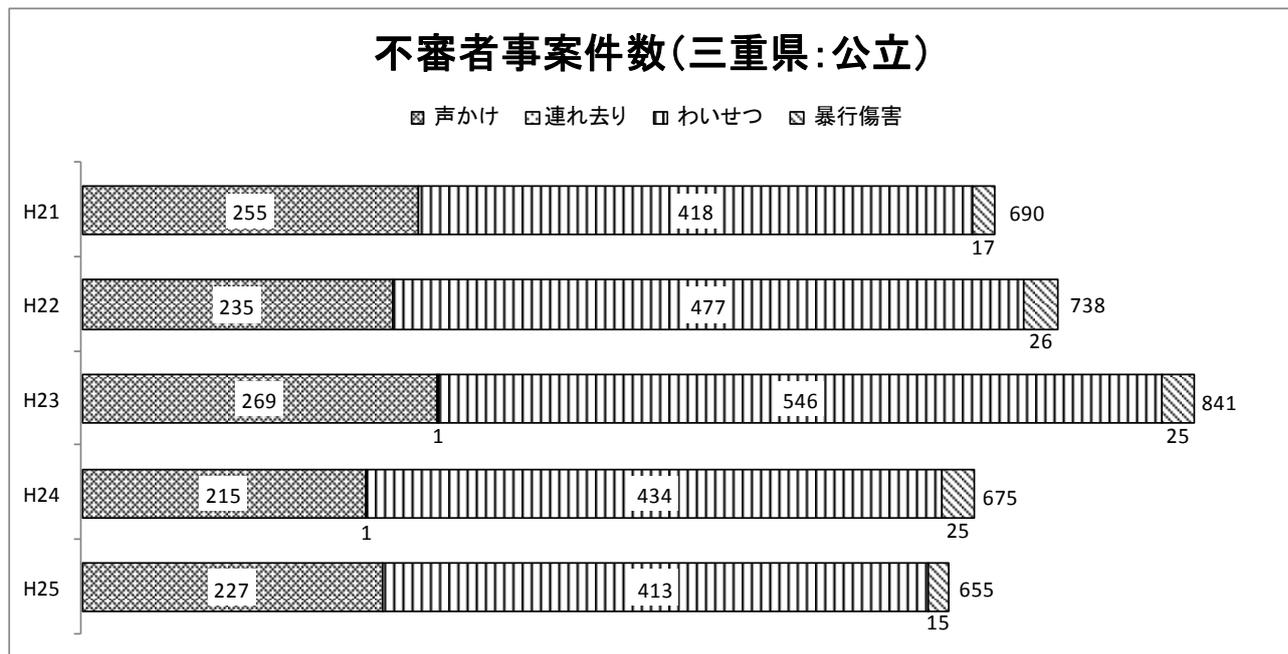
※「インターネット接続機器」とは、携帯電話やスマートフォン、パソコン、ゲーム機、タブレット型携帯端末、携帯音楽プレーヤーを指す。

- ・ インターネット接続機器の使い方について、「ルールを決めている」との回答は、いずれの学校種でも保護者の回答が子どもの回答を上回っている。

## 2 子どもたちを取り巻く環境

### (1) 安全・安心

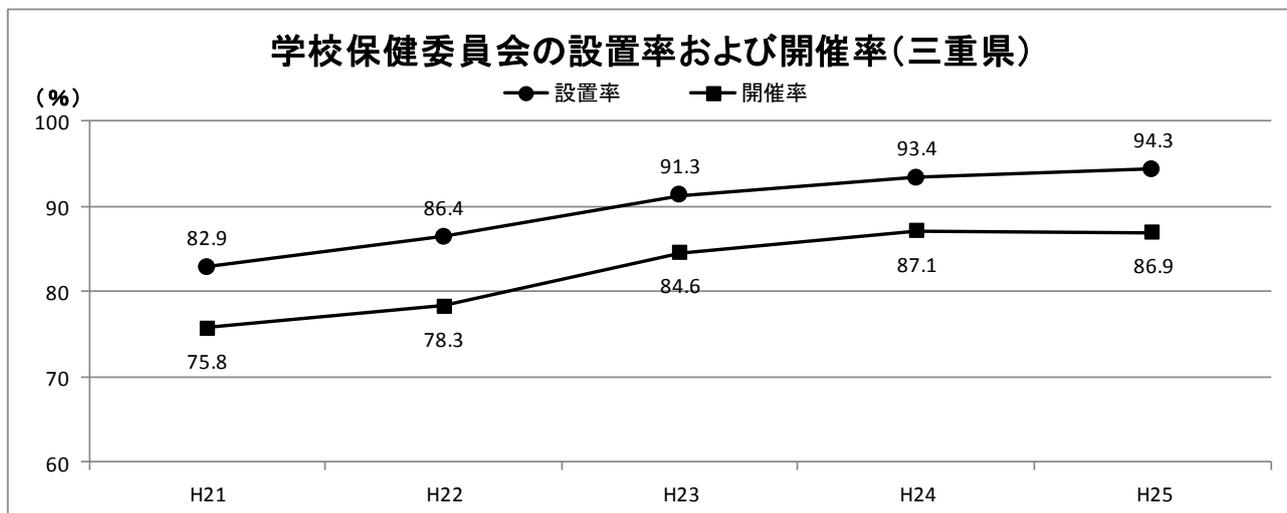
#### ① 不審者事案の件数



【三重県教育委員会調べ】

- ・ 年度によって差異はあるが、不審者事案は毎年650件以上発生している。

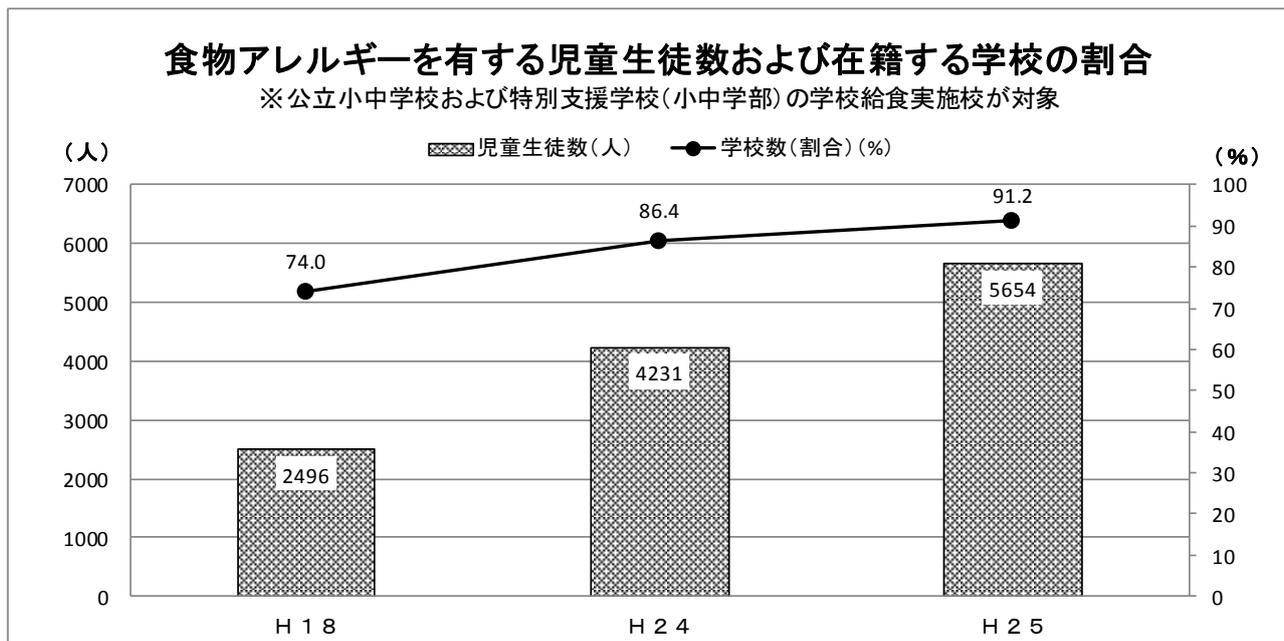
#### ② 学校保健委員会の設置率と開催率



【三重県教育委員会調べ】

- ・ 学校保健委員会の設置率および開催率は増加傾向にあったが、平成23年度以降、横ばいとなっている。

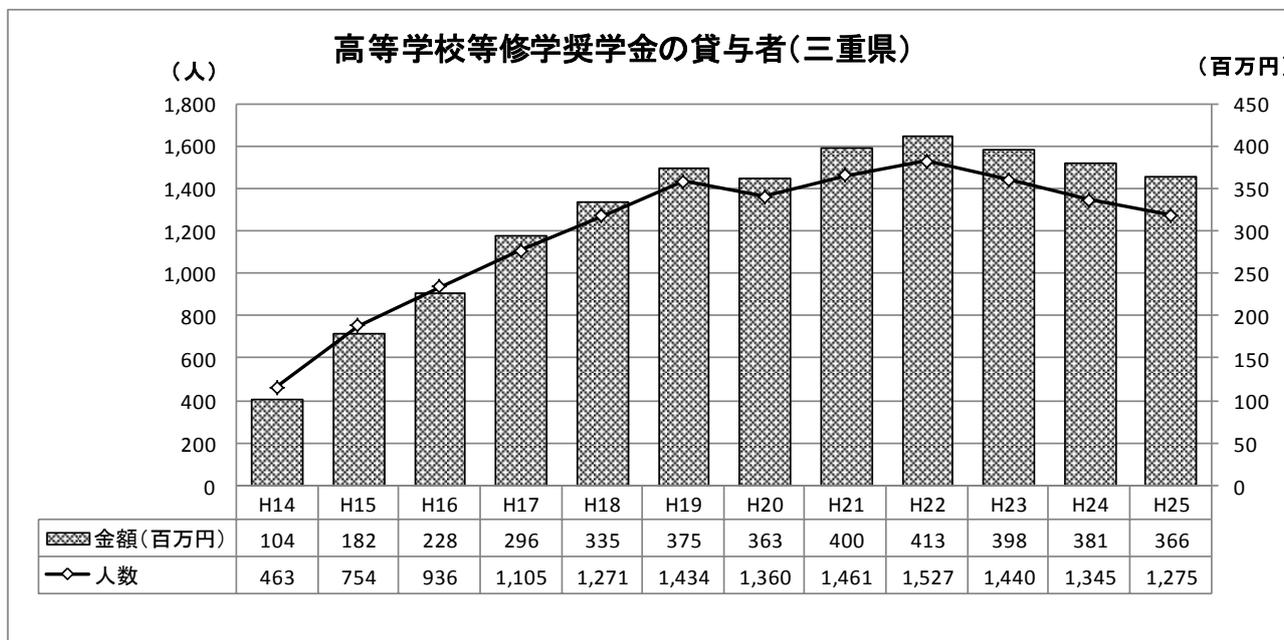
③ 児童生徒の食物アレルギーの現状（三重県）



【三重県教育委員会調べ】

- ・ 食物アレルギーを有する児童生徒数および在籍する学校数は増加傾向となっている。

④ 奨学金貸与者数



【三重県教育委員会調べ】

- ・ 貸与者数は平成22年度をピークに減少傾向となっている。

⑤ 学校防災リーダーを中心とした防災教育・防災対策の推進状況（三重県）

防災教育・防災対策を推進している学校の割合

	小・中・県立学校	
		うち県立学校
平成24年度	99.7%	100.0%
平成25年度	100.0%	100.0%

【三重県教育委員会調べ】

- ・ 防災教育・防災対策は、すべての学校で推進されている。

⑥ 公立学校の耐震化率（三重県）

公立学校の耐震化率（平成26年4月現在）

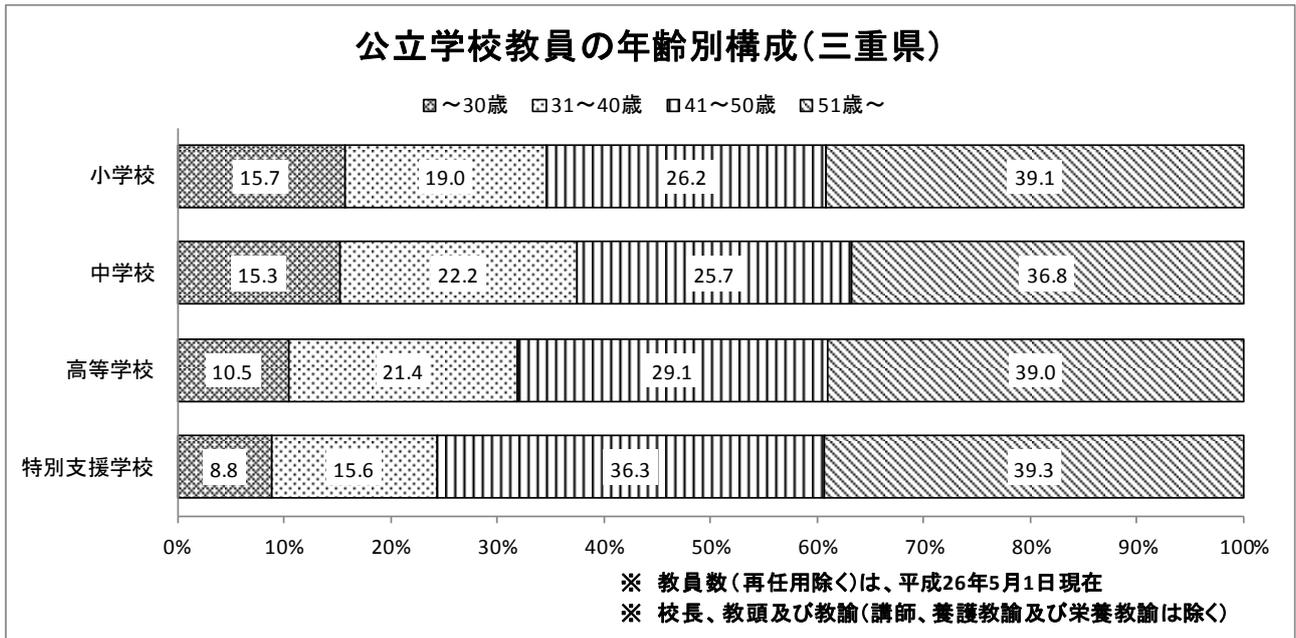
	校舎・屋内体育館	非構造部材
高等学校	100.0%	12.1%
特別支援学校	100.0%	18.8%
小中学校	98.5%	35.6%
幼稚園	100.0%	31.0%

【三重県教育委員会調べ】

- ・ 校舎・屋内体育館の耐震化は進んできているが、非構造部材の耐震化はあまり進んでいない。

(2) 教員

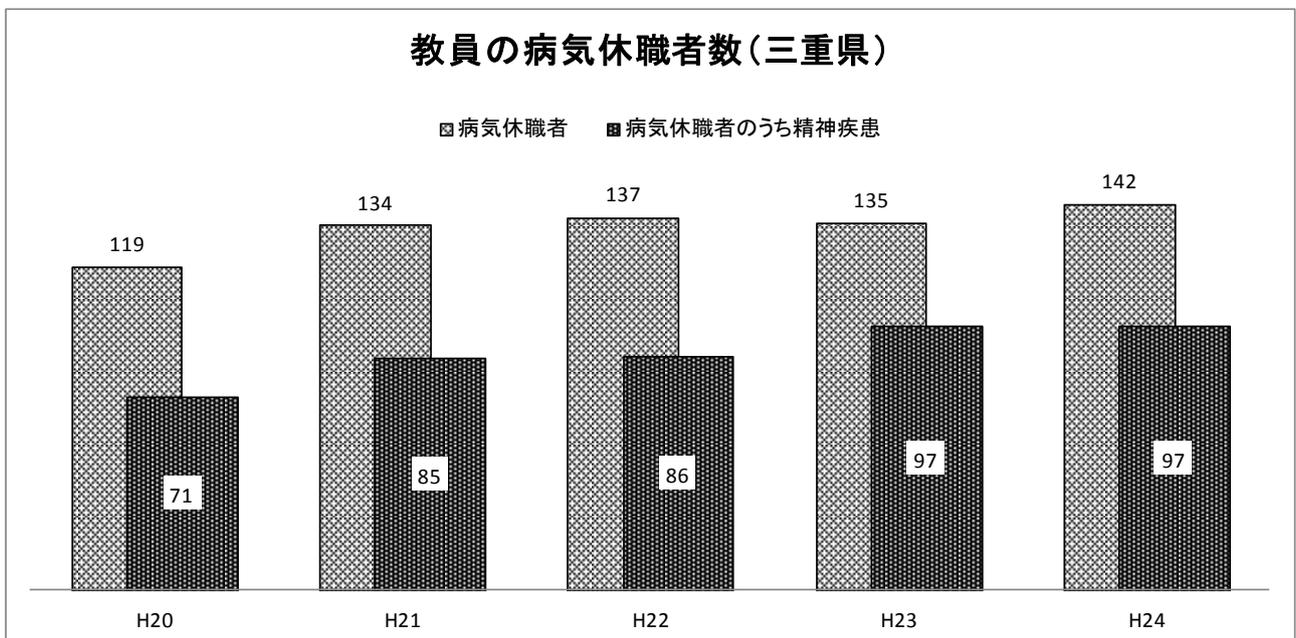
① 教員の年齢構成



【三重県教育委員会調べ】

- ・ 各校種とも51歳以上の占める割合が40%近くとなっている。

② 教員の病気休職者数



【公立学校教職員の人事行政の状況調査(文部科学省)】

- ・ 病気休職者のうち精神疾患による休職者数は増加傾向となっている。

③ 教職員の満足度

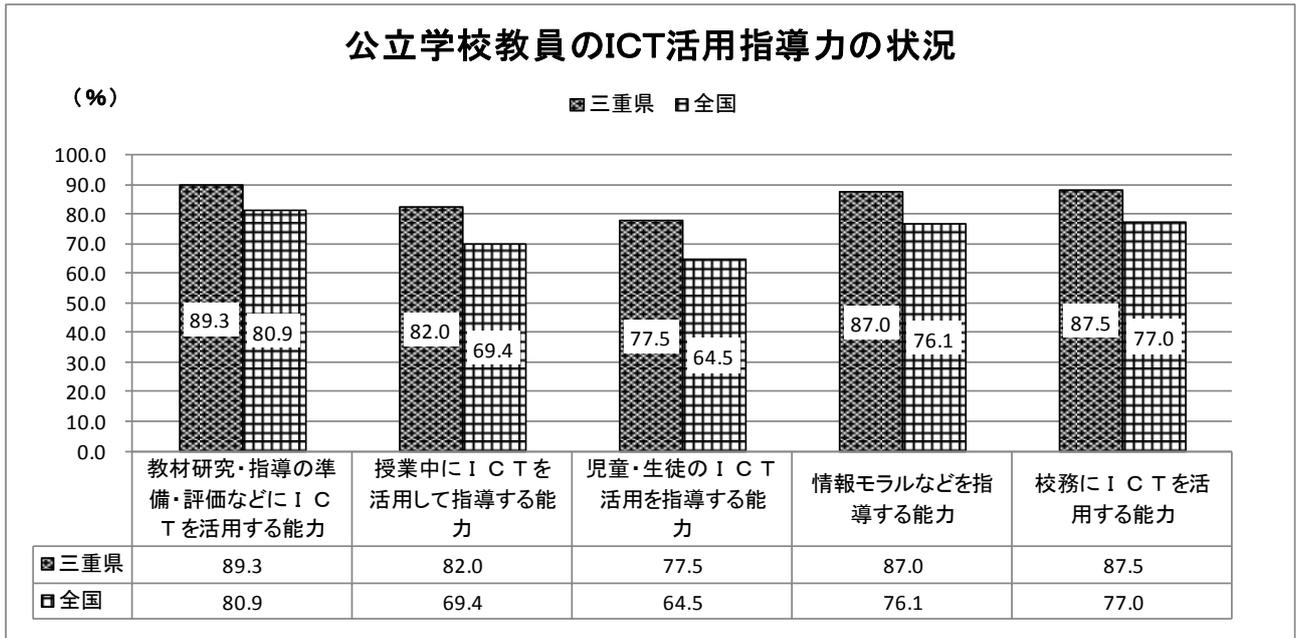
平成25年度 教職員満足度調査（設問別 満足度・重要度の平均点）

		満足度(各5点満点)			重要度(各5点満点)		
		平均	順位	項目別	平均	順位	項目別
仕事に関する設問	①今の仕事にやりがいがありますか。	3.80	1	3.34	4.36	1	4.02
	②今の仕事を楽しめますか。	3.30	9		4.15	5	
	③仕事の配分は公平ですか。	2.61	16		3.68	16	
	④管理職は学校の運営や業務に関する職員の提案や意見をよく聞いていますか。	3.64	3		4.08	9	
	⑤職場の方針や業務の進め方の決定に参加する機会がありますか。	3.55	4		3.68	17	
	⑥過度の精神的不安を感じることなく仕事をすすめることができますか。	2.79	12		4.11	7	
	⑦能力や仕事への姿勢、成果は正当に評価されていますか。	3.30	8		3.85	14	
	⑧仕事を進めていくうえで、相談できる人がいますか。	3.72	2		4.21	2	
勤務条件の設問	⑨仕事の内容や責任に見合った給与を受けていますか。	2.35	18	2.49	4.15	4	3.70
	⑩職場では休暇が取りやすいですか。	2.48	17		3.93	11	
	⑪福利厚生の事業は役に立っていますか。	2.63	15		3.12	20	
	⑫現在の総勤務時間は適切ですか。	2.06	20		3.92	12	
	⑬人事異動は適切ですか。	2.66	14		3.83	15	
	⑭昇任のしきりは適切ですか。	2.75	13		3.26	19	
職場環境の設問	⑮職場の環境は快適ですか。	2.89	11	3.03	4.13	6	3.96
	⑯休憩・休息など「ホッ」とできる場所がありますか。	2.25	19		3.89	13	
	⑰セクシュアル・ハラスメントやパワー・ハラスメントを許さない雰囲気がありますか。	3.43	5		3.94	10	
	⑱自由に意見や提案ができるなどみんなが協力しあう雰囲気がありますか。	3.31	7		4.16	3	
	⑲研修への積極的な参加について支援がなされていますか。	3.35	6		3.56	18	
	⑳職場では、必要な情報が確実に共有されていますか。	2.95	10		4.10	8	
計		59.82		2.99	78.12		3.91

【三重県教育委員会調べ】

- 満足度の高いものは、「仕事のやりがい」、「仕事を進めていくうえで相談相手がいること」、「学校の運営や業務に関する意見を管理職がよく聞いていること」となっている。「仕事のやりがい」については、重要度でも1位となっている。一方、満足度が低いものは、「総勤務時間」、「休憩・休息場所」、「給与」となっている。

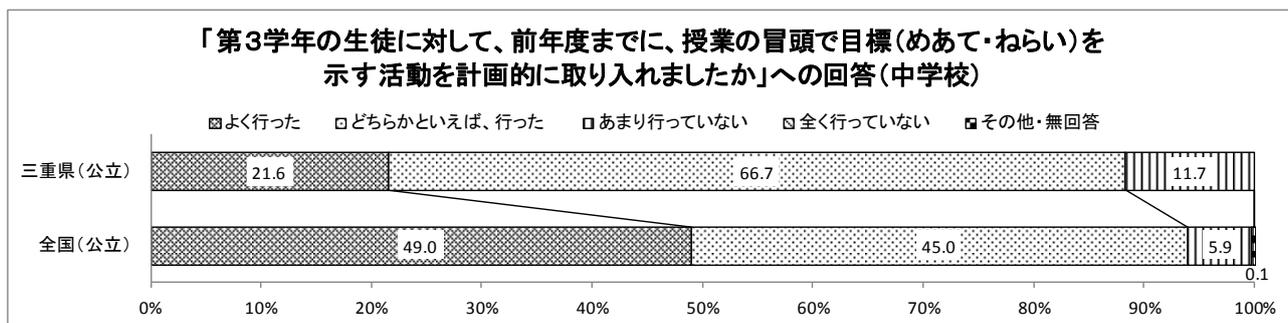
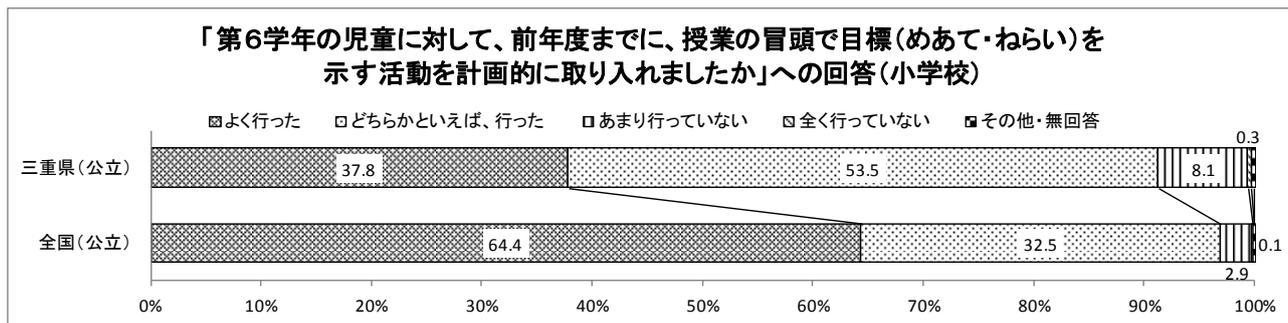
④ 教員のICTを活用する能力



【平成25年度学校における教育の情報化の実態等に関する調査（文部科学省）】

- ・ 三重県の教員のICTを活用する能力は、調査項目すべてにおいて全国平均を上回っている。

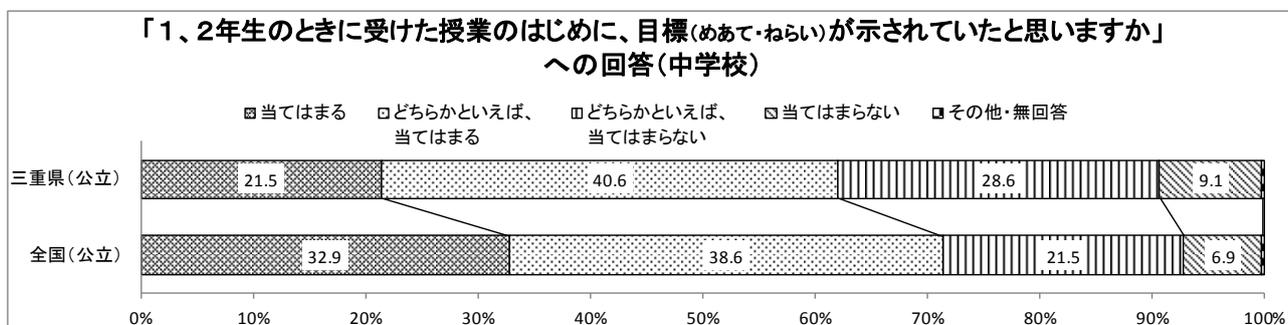
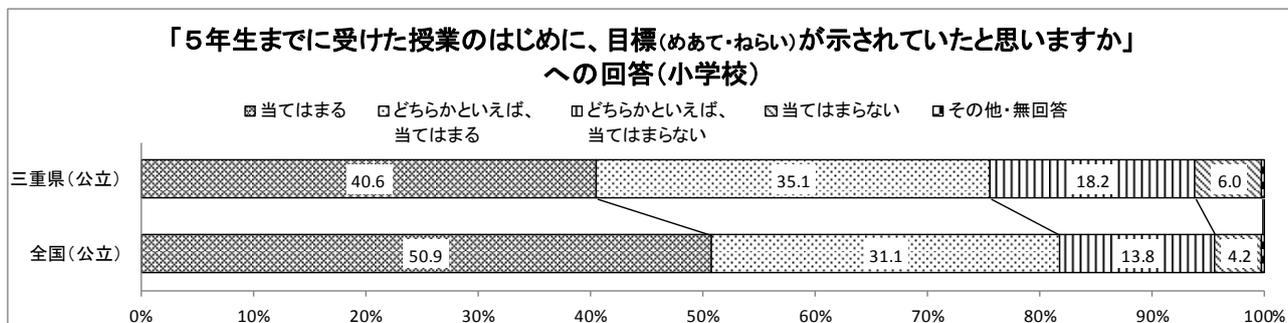
⑤ 授業の目標（めあて・ねらい）の提示状況（学校への質問）



【平成26年度全国学力・学習状況調査 学校質問紙】

- 調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、授業の冒頭で目標（めあて・ねらい）を示す活動をよく行った、どちらかといえば行ったと肯定的な回答をしている小学校の割合は約91%、中学校の割合は約88%であるが、どちらも全国平均より小さい。

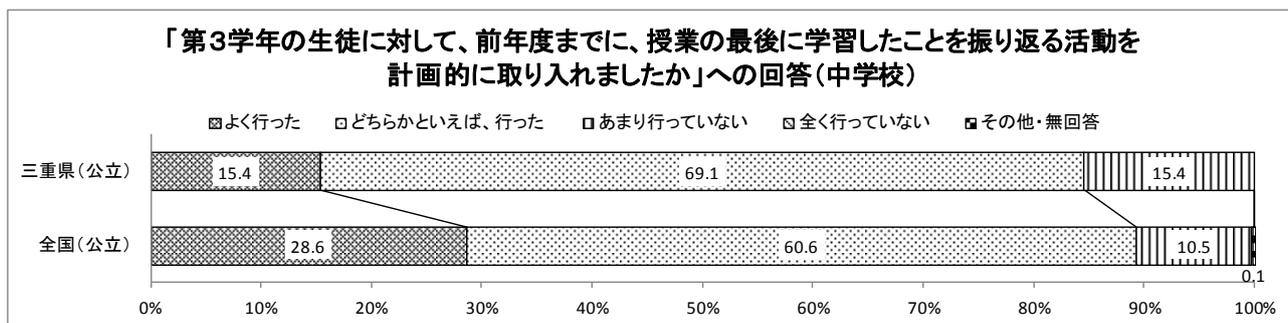
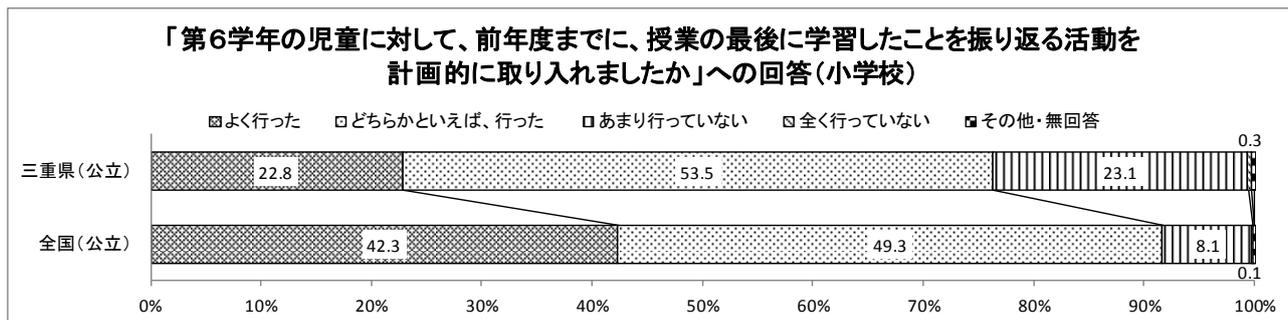
《参考》（児童生徒への質問）



【平成26年度全国学力・学習状況調査 児童生徒質問紙】

- 前学年までに受けた授業のはじめに、目標（めあて・ねらい）が示されていた、どちらかといえば示されていたと肯定的な回答をしている小学6年生の割合は約76%、中学3年生の割合は約62%となっている。

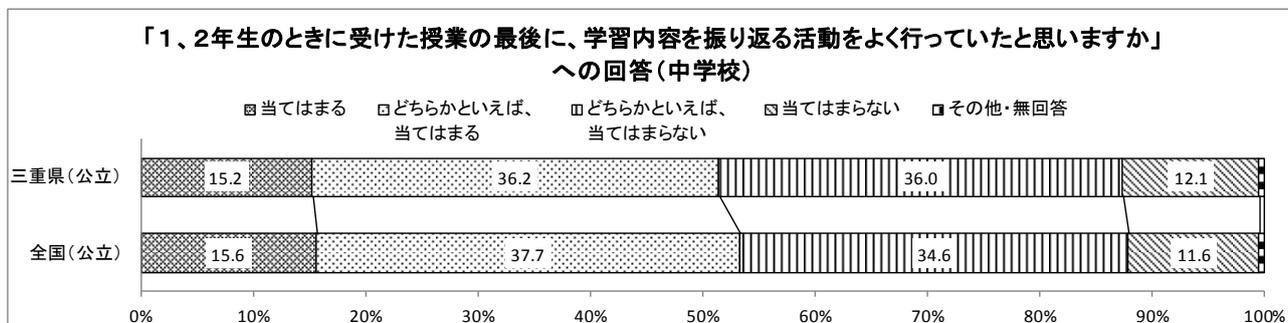
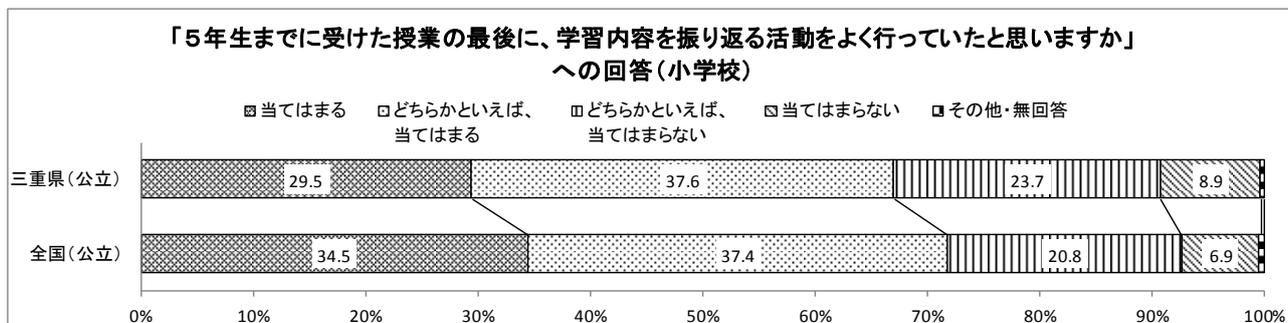
⑥ 授業の振り返り活動の取組状況（学校への質問）



【平成26年度全国学力・学習状況調査 学校質問紙】

- 調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、授業の最後に学習したことについて振り返る活動をよく行った、どちらかといえば行ったと肯定的な回答をしている小学校の割合は約76%、中学校の割合は約85%であるが、どちらも全国平均より小さい。

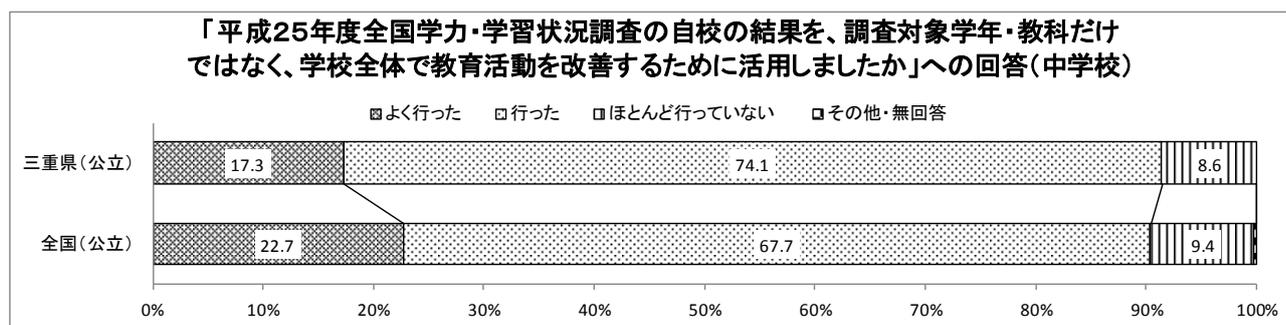
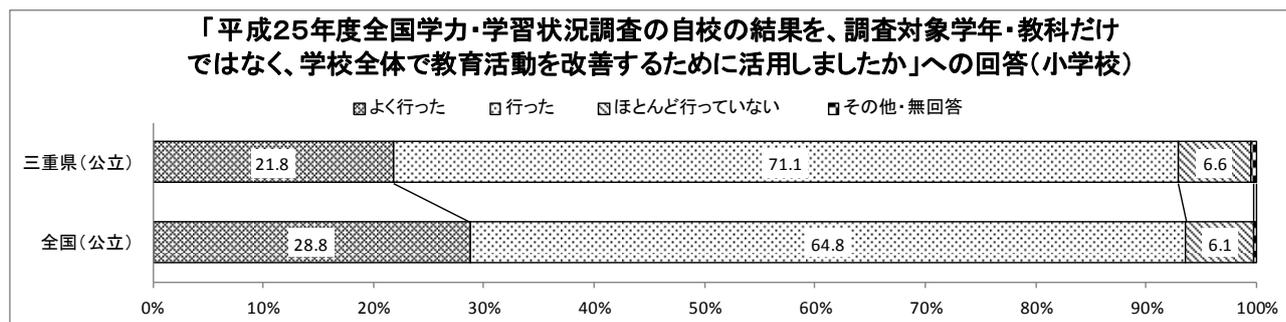
《参考》（児童生徒への質問）



【平成26年度全国学力・学習状況調査 児童生徒質問紙】

- 前学年までに受けた授業の最後に、学習内容を振り返る活動がよく行われていた、どちらかといえば行われていたと肯定的な回答をしている小学6年生の割合は約67%、中学3年生の割合は約51%となっている。

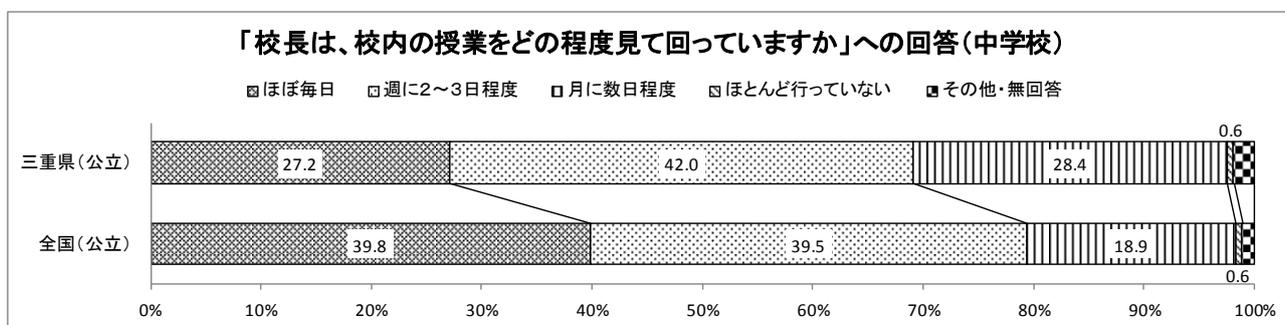
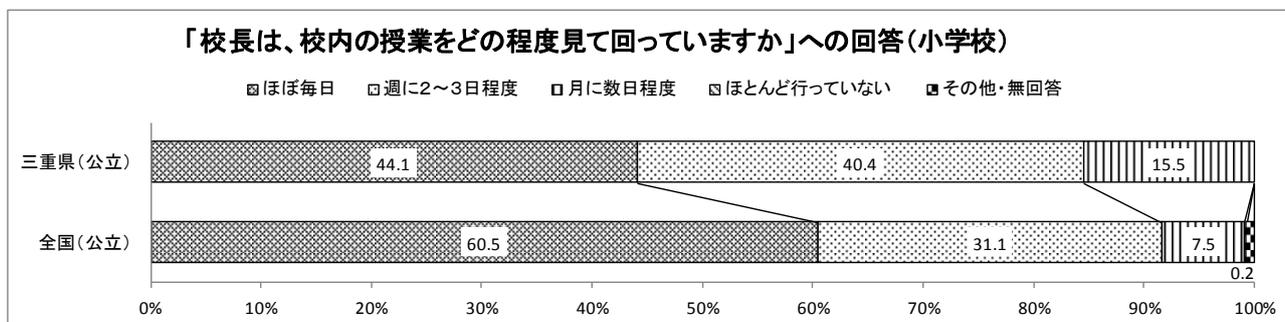
⑦ 平成25年度全国学力・学習状況調査結果の学校全体での活用状況



【平成26年度全国学力・学習状況調査 学校質問紙】

- 平成25年度全国学力・学習状況調査の自校の結果を、調査対象学年・教科だけではなく、学校全体での教育活動の改善への活用をよく行った、行ったと肯定的な回答している小学校の割合は約93%で、全国平均よりやや小さい。一方、中学校の割合は約91%であるが、全国平均より大きい。

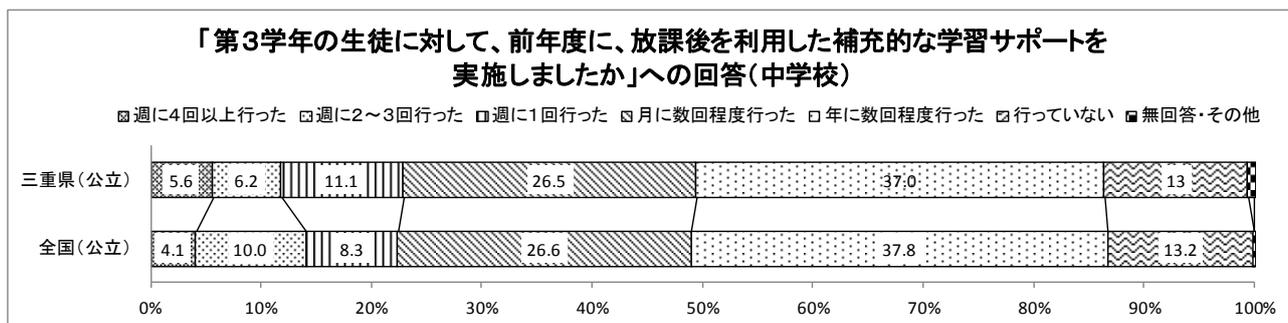
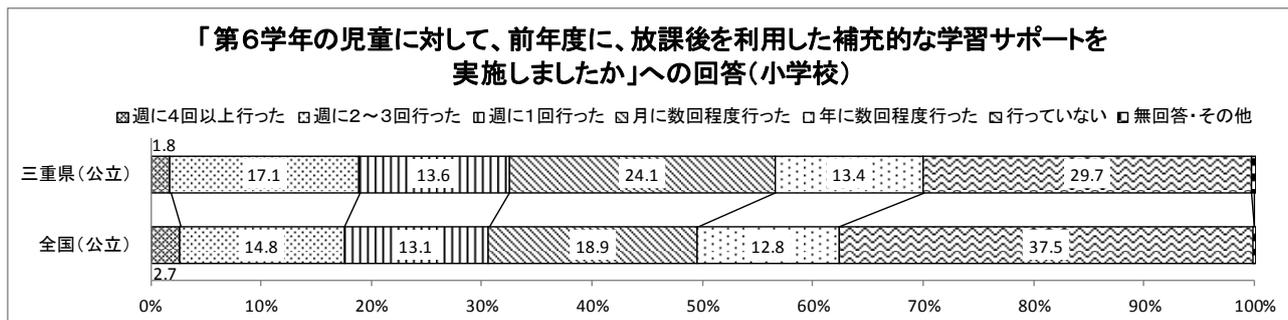
⑧ 校長の授業見回り状況



【平成26年度全国学力・学習状況調査 学校質問紙】

- 校内の授業を「ほぼ毎日」、「週に2~3日程度」見て回っていると回答している校長の割合は、小学校では約85%、中学校では約69%で、どちらも全国平均より小さい。

⑨ 放課後の補足的な学習サポートの実施状況



【平成26年度全国学力・学習状況調査 学校質問紙】

- 調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、放課後を利用した補足的な学習サポートを、週に1回以上実施した小学校の割合は約33%、中学校の割合は約23%であるが、どちらも全国平均より大きい。

⑩ 公立学校における体罰の件数等（三重県）

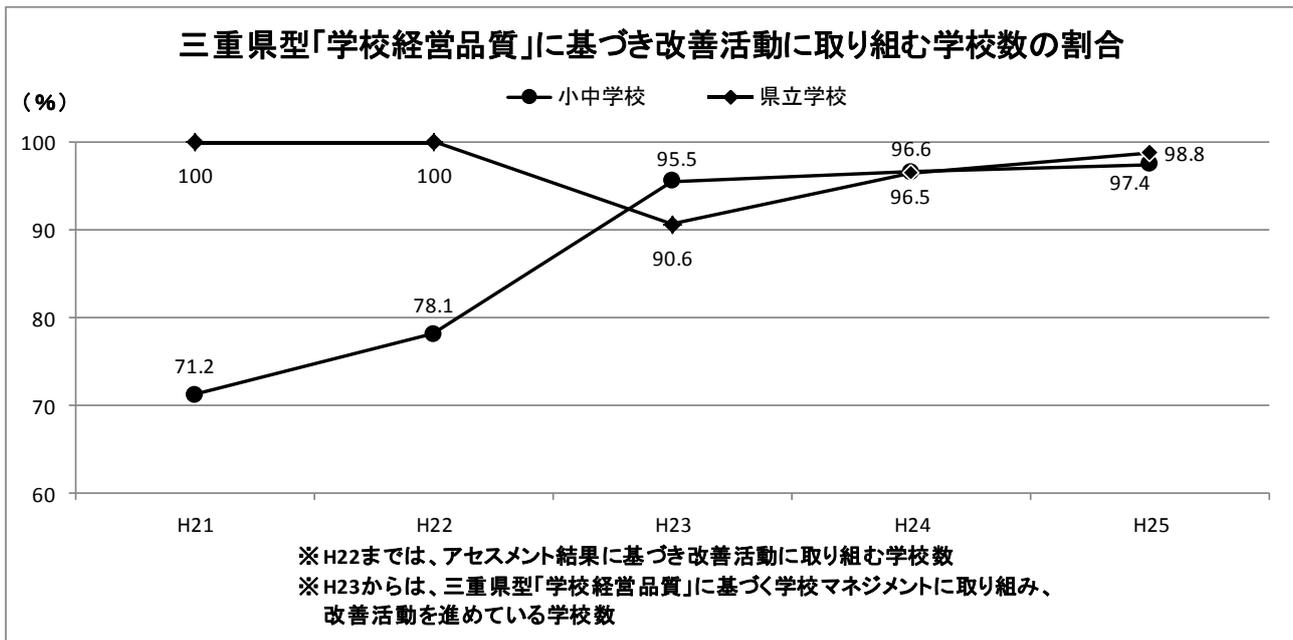
学校種別	体罰発生学校数		対象教員数		被害児童生徒数	
	H24	H25	H24	H25	H24	H25
小学校	53校	13校	69人	14人	109人	15人
中学校	60校	11校	106人	11人	182人	13人
高等学校	19校	6校	31人	6人	101人	6人
特別支援学校	1校	1校	1人	1人	1人	1人
計	133校	31校	207人	32人	393人	35人

【三重県教育委員会調べ】

- 体罰の発生件数、対象教員数、被害児童生徒数ともに、減少している。

(3) 学校

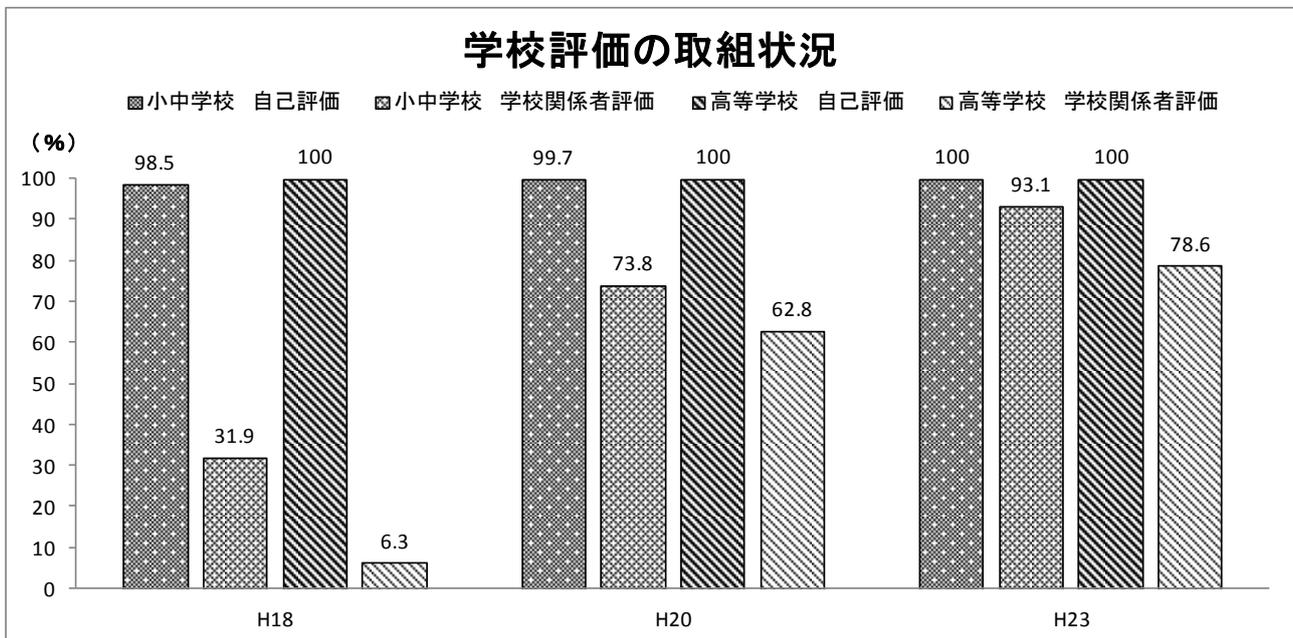
①三重県型「学校経営品質」への取組状況



【三重県教育委員会調べ】

- ・ 三重県型「学校経営品質」に取り組む学校数の割合は大きくなってきている。

② 学校評価の取組状況（三重県）

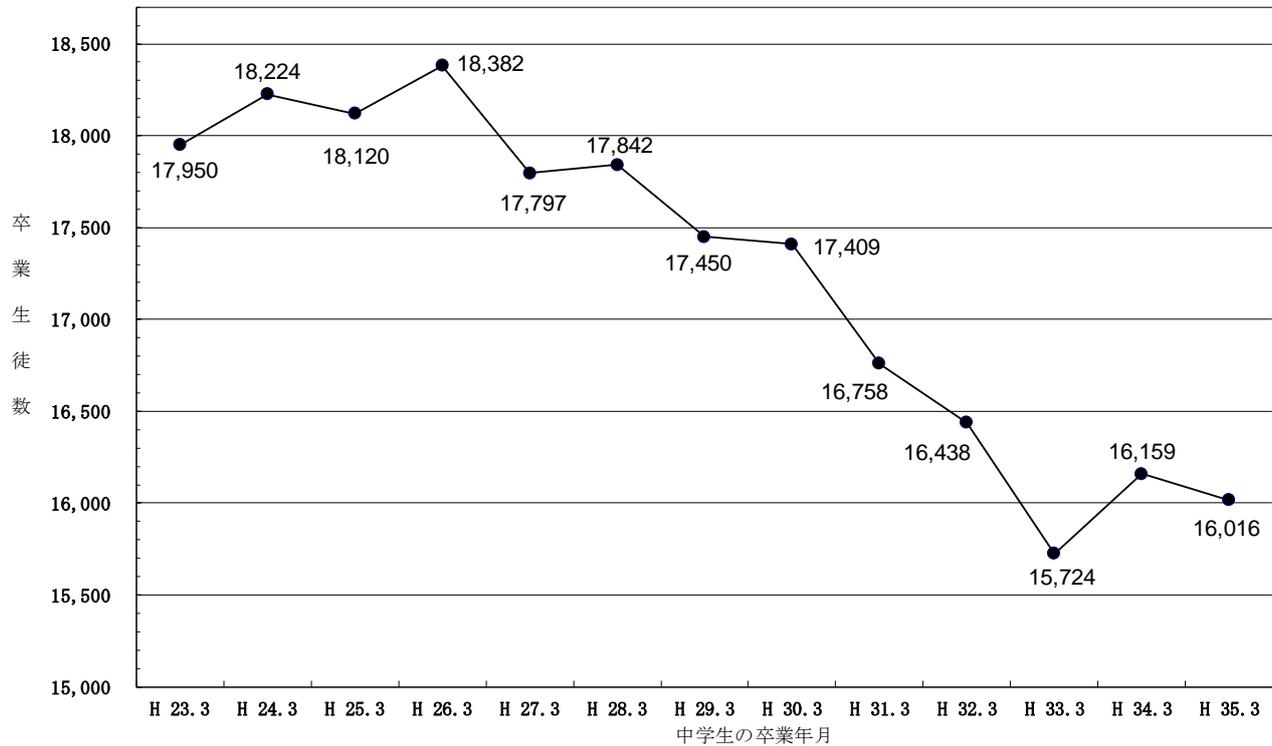


【学校評価と情報提供の実施調査（文部科学省）】

- ・ 学校評価の取組は浸透してきている。特に近年、学校関係者評価にも取り組む学校の割合が大きくなってきている。

③ 三重県内の中学校卒業生数の推移と予測

三重県中学校卒業生の推移と予測(含社会増) 平成26年5月1日調査



【三重県教育委員会調べ】

- ・ 中学校卒業生数は年々減少し、平成33年度に最も少なくなると予測される。  
(平成26年度末から約2070人減少)

(4) 家庭・地域の教育力の向上

① コミュニティ・スクールの指定校

学校運営協議会を設置する学校

(平成26年4月1日現在)

小学校 (39校)	津市南が丘小学校 (H17年12月26日) いなべ市立田小学校 (H19年6月1日) いなべ市石榑小学校 (H19年6月1日) 御浜町尾呂志学園小学校 (H20年5月1日) 鈴鹿市小学校全30校 (H23年4月1日) 志摩市鷺方小学校 (H23年5月1日) 亀山市加太小学校 (H24年4月1日) 松阪市立第四小学校 (H25年4月1日) 松阪市立港小学校 (H25年4月1日) 亀山市立川崎小学校 (H26年4月1日)
中学校 (15校)	津市朝陽中学校 (H19年5月1日) 御浜町尾呂志学園中学校 (H20年5月1日) 伊勢市厚生中学校 (H21年10月22日) 伊賀市城東中学校 (H22年10月1日) 鈴鹿市中学校全10校 (H23年4月1日) 松阪市立鎌田中学校 (H25年4月1日)
高等学校 (2校)	紀南高校 (H19年6月1日) 白山高校 (H25年4月1日)

※ ( ) 内は指定日

② 学校支援地域本部 (\*1) の設置状況

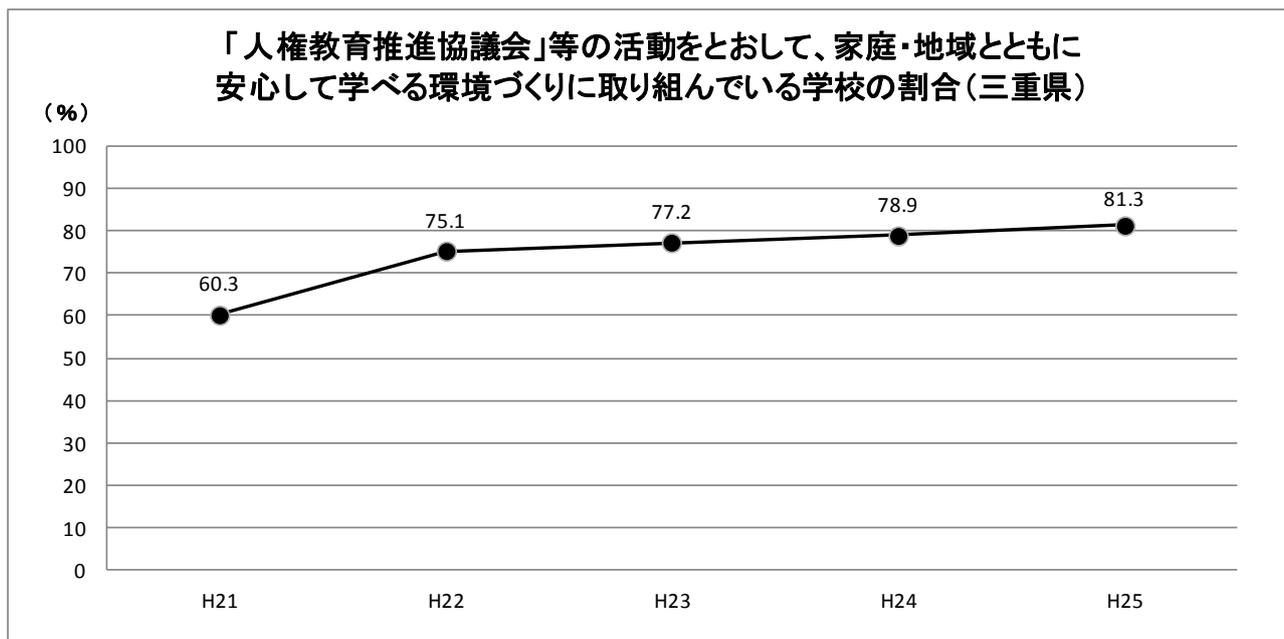
		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度
実施市町数		6	8	11	11
本部設置数		53	92	104	134
対象学校数	幼稚園	4	32	29	18
	小学校	78	120	138	159
	中学校	17	31	39	55
	合計 (幼小中)	99	183	206	232

【三重県教育員会調べ】

- ・ 県教育委員会の実施する事業の活用や、市町単独事業による実施により、学校支援地域本部の取組が広がってきている。

\*1 学校支援地域本部：学習支援等、学校の教育活動を支援するため、地域住民の学校支援ボランティアなどへの参加をコーディネートする組織で、いわば「地域につくられた学校の応援団」。地域住民が学校を支援する取組を組織的なものとし、学校の求めと地域の力をマッチングして、より効果的な学校支援を行い、教育の充実を図ろうとするもの。

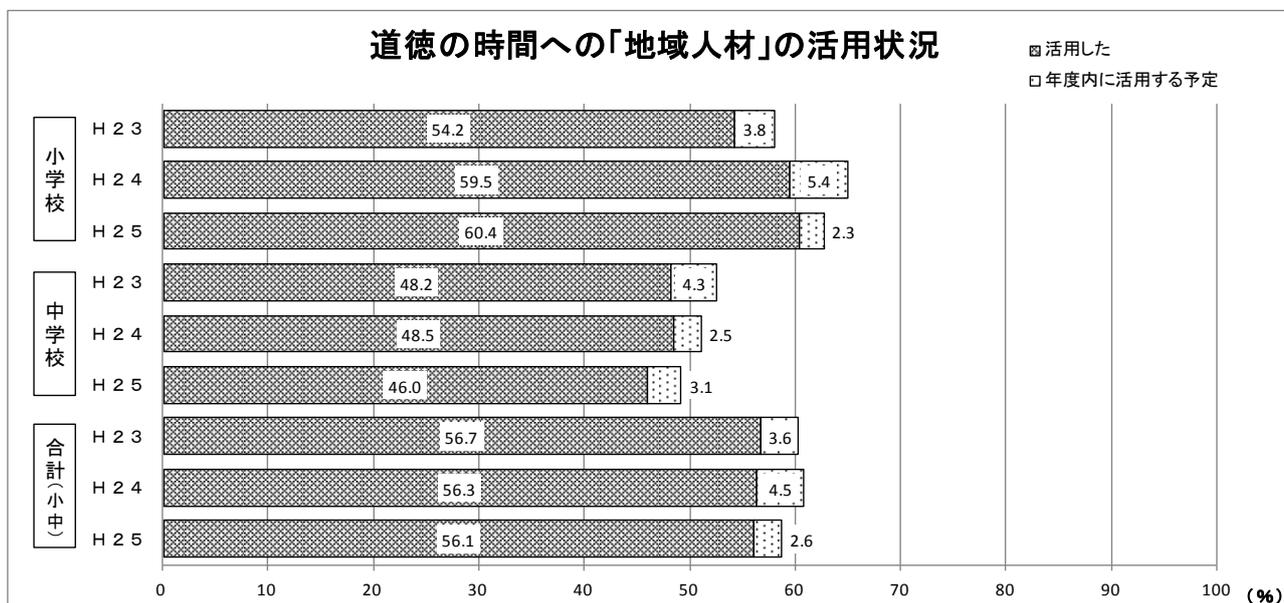
③ 学校・家庭・地域の連携による人権尊重の地域づくり（三重県）



【三重県教育委員会調べ】

- 「人権教育推進協議会」等の活動をとおして、家庭・地域とともに安心して学べる環境づくりに取り組んでいる学校の割合は、徐々に大きくなっている。

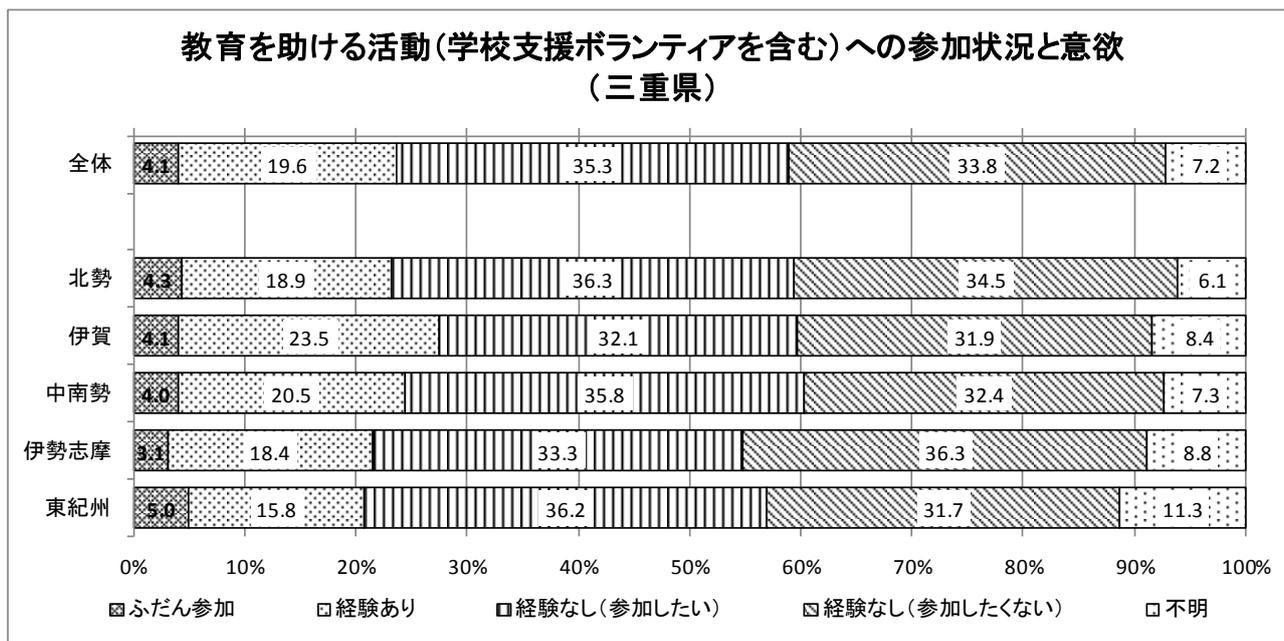
④ 道徳の時間に地域の人材を活用した小中学校の割合（三重県）



【三重県教育委員会調べ（各年度1月実施）】

- 道徳の時間に地域の人材を活用した取組を行っている小中学校は60%弱で、ここ数年横ばいの傾向にある。小学校のほうが中学校よりも活用が図られている。

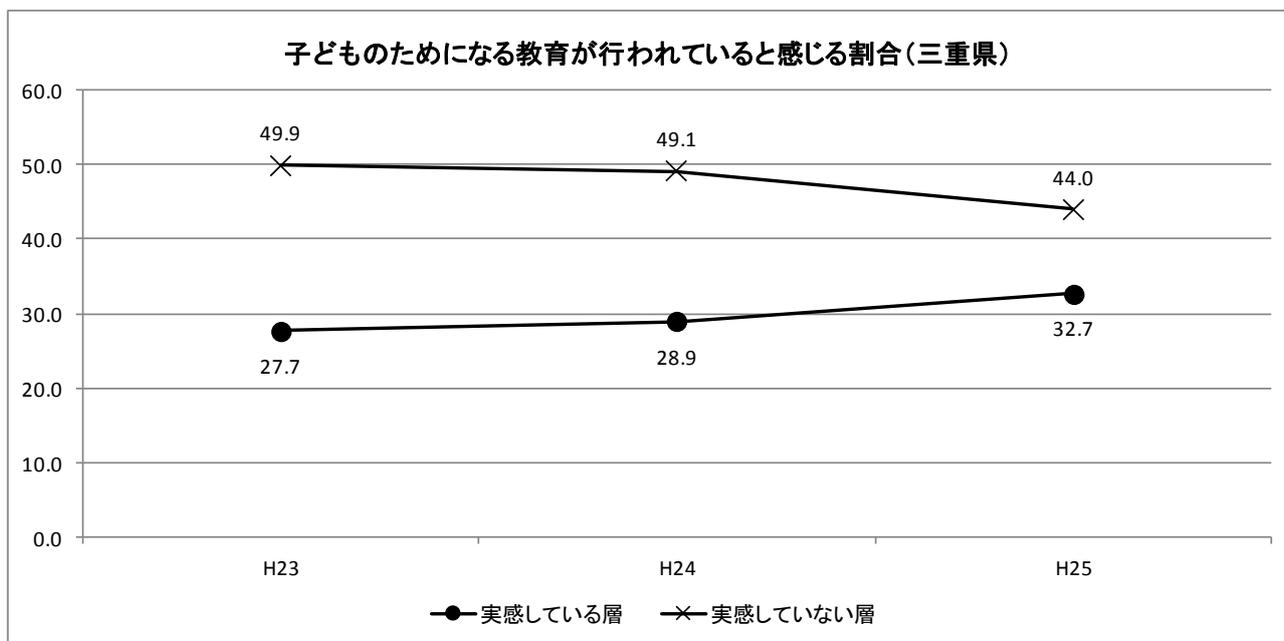
⑤ 教育を助ける活動（学校支援ボランティアを含む）への参加状況と意欲



【平成25年度 みえ県民意識調査】

- ・ 教育を助ける活動へ普段参加している、参加している経験のある人の割合は、全体で約24%、参加経験はないものの参加したいと思っている人の割合は、全体で約35%となっている。一方、参加したくないと思っている人の割合も、全体で約34%となっている。

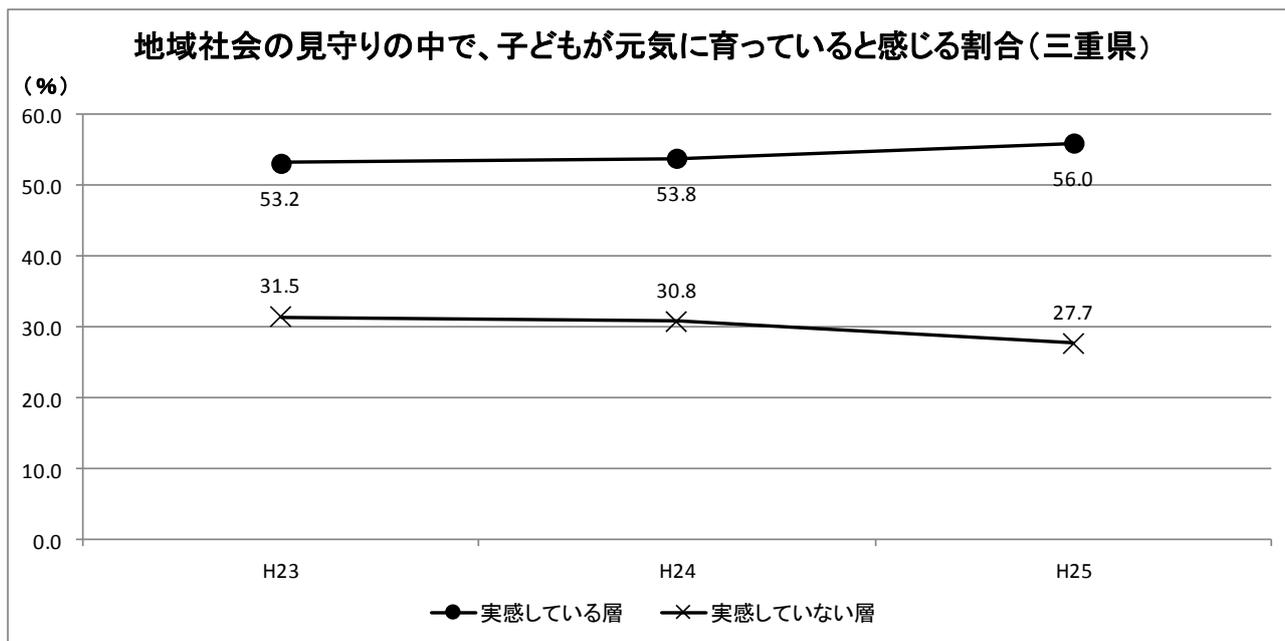
⑥ 子どものためになる教育が行われていると感じる割合



【みえ県民意識調査】

- ・ 子どものためになる教育が行われていると実感している層は増加傾向、実感していない層は減少傾向になっているが、実感していない層の方が割合は大きくなっている。

⑦ 地域社会の見守りの中で、子どもが元気に育っていると感じる割合



【みえ県民意識調査】

- ・ 地域社会の見守りの中で、子どもが元気に育っていると感じている人の割合は、やや増加傾向となっている。